Netcommunity SYSTEM αGX

typeL

音声メールユニット
取扱説明書

このたびは、ネットコミュニティシステムαGX typeL音声メールユニットをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご利用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

- この取扱説明書は、ネットコミュニティシステムαGX typeL標準電話機36回線タイプを例として記載しています。
- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通話、録音、通話料金管理、FAX通信、データ通信、その他のサービスの利用ができなかったために生じた損害、または本商品の登録された情報内容の消失などにより生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いします。
- 本商品で万一、故障が発生した場合、録音されているメッセージについては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本商品は、お客様固有の情報を保存または保持可能な商品です。本商品内に保存または保持された情報の流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に保存または保持された情報を消去する必要があります。詳しくは当社のサービス取扱所にご相談ください。
- 本商品の設置工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事、修理は違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本書とともに必ず、ネットコミュニティシステムαGX typeLの取扱説明書をよくお読みになり、理解したうえでお使いください。
- 電話機操作について操作早見表をご使用の際は、必ず取扱説明書をよく読み理解したうえでお使いください。
- 商品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。

⚠危険

- 蓄電池は密閉空間には設置しないでください。爆発や火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。

- 蓄電池は火気の近くには設置しないでください。爆発・火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。

- 蓄電池を使用する場合は、次のことを必ず守ってください。蓄電池の損傷により、火災・感電の原因となることがあります。
  - 電池のプラス端子とマイナス端子間を針金などの金属類で接続しない。
  - 火の中に投入したり、加熱しない。
  - 金具工具を使用する場合は、ビニールテープなどで絶縁したものを使用する。

- 蓄電池を改造または分解しないでください。蓄電池の液漏れ、発熱、破裂等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。蓄電池の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

- 蓄電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

- 蓄電池は定期的に交換してください。交換時期を過ぎて使用した場合、電槽の破損により漏電の原因となることがあります。蓄電池の交換については、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

- 蓄電池を単体では充電しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

設置について

⚠警告

- **主装置や電話機などのそばに、水や液体の入った花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品などの容器、または小さな金属類を置かないでください。主装置や電話機に水や液体がこぼれたり、小さな金属類が中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。**

- **主装置や電話機は次のような環境に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。**
  - 直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーなどの近くや屋外などの温度の上がる場所。
  - 調理台のそばなど、油飛びや湯気の当たるような場所。
  - 湿気の多い場所や水・油・薬品などのかかる恐れがある場所。
  - ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
  - 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。

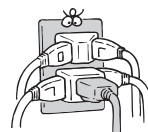
- **主装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと、主装置の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。次のような設置のしかたはしないでください。**
  - 主装置を仰向けや横倒し、逆さまにする。
  - 主装置を収納棚や本箱、配線ボックスなどの風通しの悪い狭い場所に押し込む。
  - 主装置をじゅうたんや布団の上に置く。
  - 主装置にテーブルクロスなどをかける。
  - 主装置の周りに物を置いて、通風孔をふさぐ。

お取り扱いについて

⚠警告

●電源は、AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグは電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、火災・感電の原因となることがあります。

●テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、主装置の誤作動の原因となることもあります。

●お客様による主装置の設置工事、配線作業、修理・移動などは危険ですから絶対におやめください。主装置の設置工事、配線作業、修理、移動などを行うときは、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

●万一、主装置内部のヒューズ切れなどにより使用不可となった場合は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。お客さまによるヒューズの交換は絶対に行わないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認し、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

●万一、主装置を倒したり、主装置キャビネットを破損した場合は、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置や電話機から異常音がしたり、主装置キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に点検をご依頼ください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

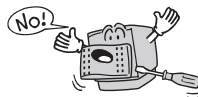
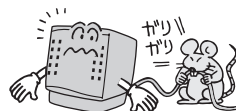
⚠警告

●主装置や電話機に水をかけたり、ぬれた手での操作や電源プラグの抜き差しをしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●主装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●万一、主装置内部や電話機に水などの液体が入った場合は、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

●主装置や電話機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください（分解、改造された主装置や電話機は修理に応じられない場合があります）。

●主装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は、当社のサービス取扱所にご依頼ください。

●主装置の電源コードおよび電話機までの配線などを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を乗せたり、加熱したりすると電源コードおよび電話機までの配線が破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源コードおよび電話機までの配線が傷んだら、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●主装置の電源コードおよび電話機までの配線が傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●近くに雷が発生したときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてご使用を控えてください。雷による、火災・感電の原因となることがあります。

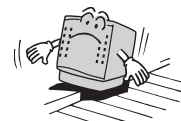
●主装置や電話機、電源コード類を熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。

設置について

●主装置や電話機は次のような場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所。
- 振動、衝撃の多い場所。

●電話機を壁掛け設置する場合は、専用の取り付け金具によりしっかりと固定設置してください。固定が不十分な場合、落下、転倒の原因となることがあります。

●屋外に渡る配線は行わないでください。特に、建物から建物へ空中を通す配線は雷などによる故障の原因となることがあります。

お取り扱いについて

●ビルなどの電源系統の点検の際は、はじめに最も下の段の主装置の電源プラグを電源コンセントから抜き、次に残りの全ての主装置の電源プラグを電源コンセントから抜いてください。点検終了後は、まず最も下の段以外の全ての主装置の電源プラグを電源コンセントに接続し、最後に最も下の段の主装置の電源プラグを電源コンセントに接続してください。

●主装置や電話機の上に重い物をのせないでください。バランスがくずれて落下やけがの原因となることがあります。

●主装置や電話機に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠注意

●本商品を長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

●主装置は高度な技術によって構成された精密機器です。より安心して使用していただくためには、当社の定期点検をお受けすることをお勧めします。詳しくは、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

●電話機の底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。

●電話機パネルの取り外しには先のとがったものを利用してください。指や爪で行うとけがをするおそれがあります。

●受話音量を明瞭モードに切り替えて、音量を大きくしたまま使用すると、聴力障害の原因となることがあります。

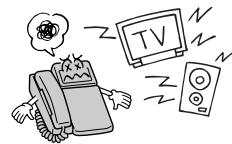
設置について

お願い

●主装置や電話機を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、インバータエアコン、電磁調理器など）。

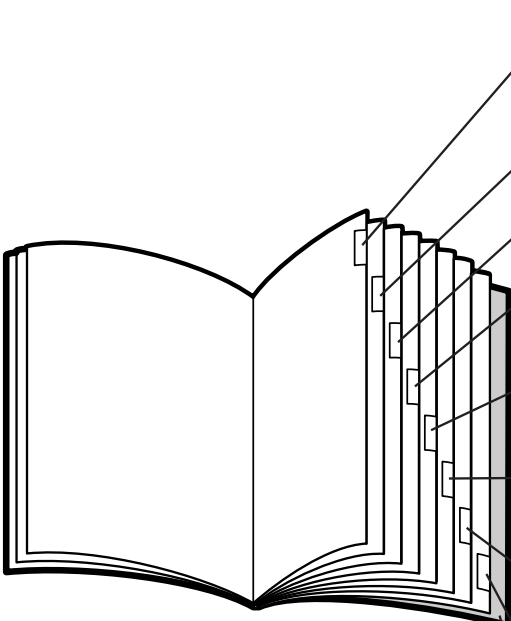
- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、主装置や電話機などの設置場所を移動してみてください。

●電話機は平らな面に置いてお使いください。落下や故障の原因となることがあります。

●硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（海岸）などでは、主装置や電話機などの寿命が短くなることがあります。

お取り扱いについて

- 主装置や電話機などをベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。主装置や電話機などの変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

- 停電中に主装置の電源スイッチを切らないでください。停電復旧時に使用できなくなります。
- 停電のときは、停電用電話機を使用してください。
  - 他の内線電話機は使えません。
  - ドアホンは使えません。
  - 音声メールの機能は使えません。
- ナンバー・ディスプレイのご利用に際しては、総務省の定める「発信者情報サービスの利用における発信者個人情報の保護に関するガイドライン」を尊重してご利用願います。
- ナンバー・ディスプレイを利用して着信拒否を設定している場合は、緊急の件でも着信音は鳴りませんのでご注意ください。
- ハンドセットは逆方向に掛けないでください。正常に動作できないことがあります。
- 電話機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

- 電話機コードをひっぱらないでください。故障の原因となることがあります。

廃棄（または譲渡、返却）される場合のご注意

本商品は、お客さま固有の情報を保存または保持可能な商品です。本商品内に保存または保持された情報の流出による不測の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に保存または保持された情報を消去する必要があります。下表にしたがって消去または当社のサービス取扱所にご相談ください。

記録内容	処置（主装置取扱説明書参照ページ）
録音内容及び録音者情報	P48を参照し、全てのボックスの録音内容を消去してください。

この取扱説明書の見かた／セットを確認してください

この取扱説明書の構成

1 お使いになる前に
お使いになる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

2 お話しを録音する
通話を録音する操作の手順について説明しています。

3 メールを送る
メールを送るための操作・機能について説明しています。

4 メールを再生／消去する
メールを再生したり、消去する操作・機能について説明しています。

5 留守番電話として利用する
留守番電話として利用するための操作・機能について説明しています。

6 IVR機能
IVR機能を利用するための操作・機能について説明しています。

7 より便利に使う
1～6章までの内容のほかに、利用できる便利な機能について説明しています。

8 ご参考に
便利にお使いになるための「システム設定」について説明しています。

PC操作編
パソコンのWebブラウザを使って音声メールを管理する方法について説明しています。

操作説明ページの構成

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

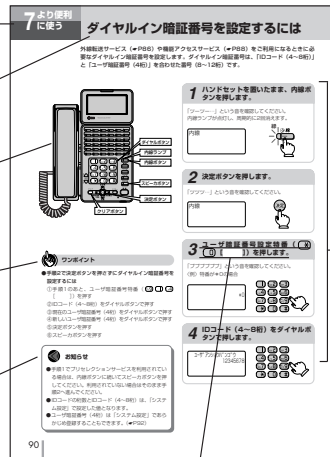
タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

電話機イラスト
操作で使うボタンなどの位置を示しています。

ワンポイント
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示しています。

お願いまたはお知らせ

〈お願い〉
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

〈お知らせ〉
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

操作手順説明
順番に操作を説明しています。

特番
各種機能を利用できるようにする番号のことです。特番は、「システム設定」で変更することもできます。この取扱説明書では、特番について次のように表わしています。

〈例〉
ユーザ暗証番号
設定特番　（# 1 [　　]）

お買い求め時の番号
「システム設定」で変更した場合の番号を記入してください。

セットの確認

■添付品

取扱説明書（3部）
操作早見表（4部）
表示シール（1組）

●セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合には、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

目　次

8 ご参考に

PC操作編

1 概要

2 操作の流れ

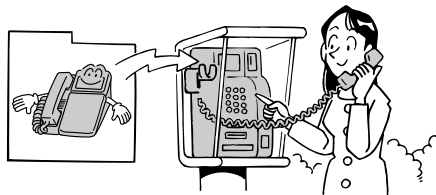
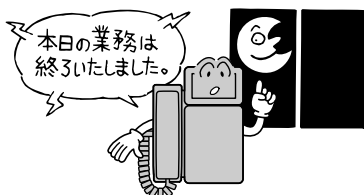
3 管理を行う

4 保守を行う

5 ご参考に

特　長

電話での通話を録音
音声メールを装着すると、電話機を使ってお話ししている内容を録音できます。お話しを始めると同時に録音すること（自動通話録音）も、録音したいときに操作して録音すること（手動通話録音）もできます。録音したメッセージ（メール）を他の方に送ることもできます。

外出先からアクセス可能
外出先から音声メールへアクセスして、録音されているメッセージを再生または相手の方へのメールを録音することができます。さらに、音声メールのガイダンスを利用した内線呼出や外線転送、システムモードの設定などの機能へのアクセスがあります。

不在のときでも着信代行
夜間や休日などの電話に、音声メールが代わって応答します。ご用意しているメッセージの他にも、お客様でご自由にメッセージを録音することができます。また、トーキー機能もご利用いただけます。

音声ガイダンスで簡単操作
操作の内容は、音声ガイダンスが案内します。ガイダンスにしたがってメール操作が簡単に行えます。

暗証番号を自由に設定
メールの再生、録音、消去などを行うときの暗証番号を自由に設定できます。

充実した留守番電話・転送機能
不在時には、音声メールを留守番電話として利用できます。また、ポケベルや他のボックスへの転送も可能です。

IVR機能
音声による自動応答を行う機能で、発信者のダイヤル操作に合わせて、シナリオに沿ってあらかじめ録音してある音声を発信者に自動的に再生し、メッセージ録音、内線呼出や外線転送を行うことができます。

お知らせ

外出先から音声メールにアクセスする場合は、プッシュホン電話機または回転ダイヤル式電話機で、トーン信号（PB）に切り替えられる電話機をお使いください。

お願い

相手の方に無断で通話録音をしないでください。通話録音は、必ず相手の方の了解を得てから録音を始めてください。個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。特に着信自動録音に設定されている電話機では相手の方の了解を得られない場合は、通話中に取消ボタンを押して通話録音を中止してください。

メールボックスについて

音声メールで、録音された内容は、メールボックスという単位で管理します。「システム設定」により、お使いの電話機の内線番号や外線にボックス番号を対応させて使用します（内線ボックス、外線ボックス）。メールボックスは「システム設定」により、共通ボックス、同報ボックスとしてもご利用になれます。

■内線ボックス

内線に1対1で対応したメールボックスです。
内線ボックスは、ボックスボタンに登録して利用することもできます。
ボックス番号は、001～500がお使いになれます。

■同報ボックス

複数の内線ボックスや外線ボックスを1つにまとめたメールボックスです。
同じメッセージを一度の操作で複数のボックスに送る場合にご利用ください。
同報ボックスは、内線番号やボックスボタンに登録してご利用になれます。
1つの同報ボックスに最大16ボックスまでまとめて利用することができます。
同報ボックスの最大は16ボックスです。
ボックス番号は、501～516がお使いになれます。

■外線ボックス

外線に1対1で対応したメールボックスです。
外線ボックスはボックスボタンに登録してご利用になれます。
ボックス番号は、001～500がお使いになれます。

■共通ボックス

1つのボックスを、複数の内線、複数の外線、複数の内線と外線に登録して使用するメールボックスです。
複数の内線や外線で共通に利用することができます。
共通ボックスはボックスボタンに登録してご利用になれます。
ボックス番号は、001～500がお使いになれます。

音声メール操作用ボタンとランプ表示

お使いになっている電話機（αGX typeL）やコンソールに、音声メール操作用のボタンを設定することによって、操作が簡単になります。なお、イラストはネットコミュニティシステムαGX typeL標準電話機36キータイプを例として記載しています。詳しくは、設置工事のときにご相談ください。

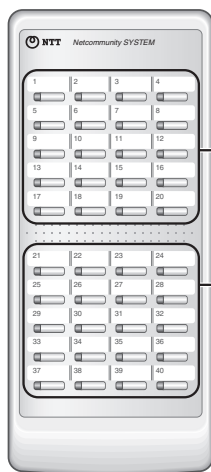
標準電話機（36キータイプ）

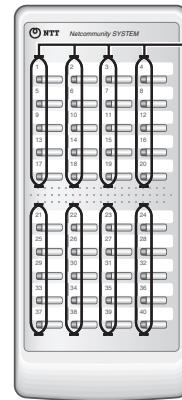
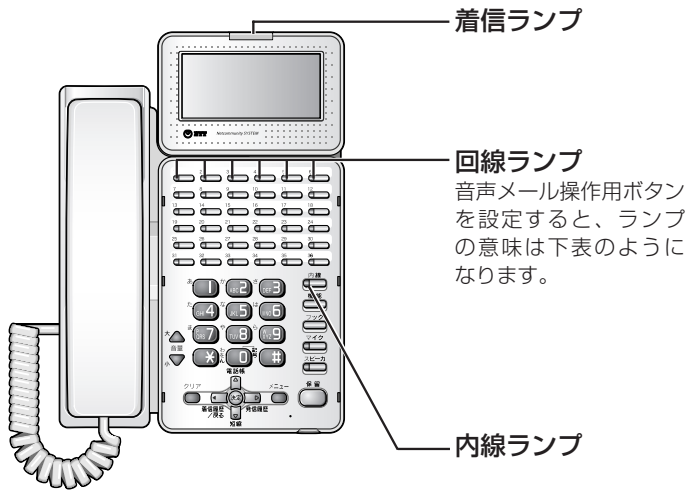
回線ボタン

未使用の回線ボタンに次のボタンを設定することができます。

録音 …………お話しの録音を開始する
　　　　　　録音中に押すと、一時停止となる
取消 …………お話しやコメントの録音、メール送信を途中で取りやめる
　　　　　　再生中のメールを消去する
コメント ……メールにコメントを付ける
留守 …………留守番電話機能を設定／解除する
メール送信 …録音中のメールを送信する
　　　　　　再生中のメールを送信する
再生 …………メールを再生する
ボックス ……メールボックスを指定する
　　　　　　ボックスに録音されているメールを再生する
録音モード …自動通話録音／手動通話録音を切り替える

※ 再生ボタンは、暗証番号をダイヤルしないでメールを再生できるボタンで、ボックスボタンと同様に操作できます。

コンソール

標準電話機での設定と同じように未使用のボタンを設定することができます。

【ランプ表示】

■ ランプの表記について

この取扱説明書では、ランプについて以下のように表します。

ランプの種類	ランプのつき方（色）		電話機の状態
着信ランプ	速い点滅	（赤）	メール到達通知されたとき
内線ランプ	速い点滅	（赤）	メール到達通知されたとき
録音ランプ	点灯	（赤）	録音中
	点滅	（赤）	録音一時停止中
	速い点滅	（赤）	録音時間オーバー、録音できないとき
取消ランプ	−		（ランプは点灯・点滅しません）
コメントランプ	2回消える	（緑）	コメント録音中
	速い点滅	（赤）	コメントが録音できないとき
	点滅	（緑）	コメント録音一時停止中
留守ランプ	2回消える	（赤）	留守番電話起動中、留守番電話の設定操作中
メール送信ランプ	2回消える	（緑）	メール送信中、送信先の設定操作完了
	点滅	（赤）	送信先の設定操作中
	点滅	（緑）	メール送信一時停止中
	速い点滅	（赤）	送信できないとき
再生ランプ	2回消える	（緑）	メール再生中
	点滅	（緑）	メールが録音されたとき
	点灯	（赤）	音声メールが使えないとき
ボックスランプ	2回消える	（緑）	メール再生中
	点滅	（緑）	メールが録音されたとき
	点灯	（赤）	音声メールが使えないとき
録音モードランプ	点灯	（赤）	自動通話録音設定中

自動で録音するには　（自動通話録音）

外の相手の方とのお話しの内容を自動的に録音することができます。ただし、内線でのお話しは録音されません。自動通話録音は「システム設定」で設定されていることが必要です。

電話をかけるとき

外の相手の方とお話しを始めると、自動的に録音を開始します。お使いの電話機に対応するボックスに録音されます。

1 外線で電話をかけます。

電話番号が表示されます。

2 相手の方がでたら、お話しください。

録音ランプが点灯し、お話しの内容が録音されます。

3 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

録音が終了し、録音ランプが消えます。

お知らせ

- ●内線でのお話しは、自動通話録音されません。手動での通話録音は可能です。(☛P22)
- ●録音した内容をお使いの電話機のボックスに保存するかどうかは「システム設定」で設定します。(☛P93)
- ●お話しを録音中に次の操作をすると、録音は終了します。
  - ・他の方に電話を転送する
  - ・会議通話をする
  - ・フックキーを押す
- ●録音ランプが赤で速く点滅しているときは、録音できません。
- ●通話録音中に長時間保留後、長時間保留警報による着信に応答すると、再び録音を開始します。ハンドセットを置くと録音は終了します。
- ●ハンズフリーでお話し中の場合も録音されます。
- ●通話録音中の外線を音声メールに保留転送することはできません。

ワンポイント

●自動通話録音の種類

お話しを自動的に録音するには、下のどの条件で録音を開始するかを「システム設定」で設定する必要があります。

・電話をかけて、相手の方とお話しを始めたときから録音する
・かけてきた相手の方とお話しを始めたときから録音する
・転送されてきた相手の方とお話しを始めたときから録音する

●録音を一時停止するには

・録音中に録音ボタンを押します。録音を再開したいときは、もう一度録音ボタンを押します。
・録音中に ＊ を押します。録音を再開したいときは、もう一度 ＊ を押します。

●録音内容にコメントを録音するには

録音内容にコメントを付けることができます。（☛P24）

●録音内容を転送するには

録音内容を他のボックスに転送することができます。（☛P30）

●保留を行ったときには

保留を行うと、録音は一時停止します。保留に応答すると、再び録音を開始します。ただし、保留中は録音を終了したり、中止することはできません。

●録音を終了するには

録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、＃ ＃ を押します。

●録音を中止するには

録音中または録音一時停止中に、取消ボタンを押します。

●録音中止後に録音を再開したいときは

録音を中止したあとで、録音ボタンを押します。

●録音中に相手の方が電話を切ったときは

切断されました。
というガイダンスが流れ、自動的に録音を終了します。

●録音件数や録音時間を設定するには

1つのボックスに録音できる数や、1回の操作で録音できる時間を「システム設定」することができます。

●録音モードを切り替えるには

「システム設定」で、録音モードが自動通話録音に設定されているときに、録音モードボタンを押すと、手動通話録音に切り替えることができます。再度、録音モードボタンを押すと自動通話録音モードに戻ります。
また、次の操作でも切り替えられます。手順①で内線ボタンを押すと、ワンタッチオンフックサービスを利用されている場合は、スピーカランプが自動的に点灯します。それ以外の場合はスピーカボタンを押してください。
〈手動通話録音モードに切り替える〉
①ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押す
②自動通話録音モード解除特番（9 6 7 [　　　]）を押す
③スピーカボタンを押す
〈自動通話録音モードに切り替える〉
①ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押す
②自動通話録音モード設定特番（9 6 6 [　　　]）を押す
③スピーカボタンを押す

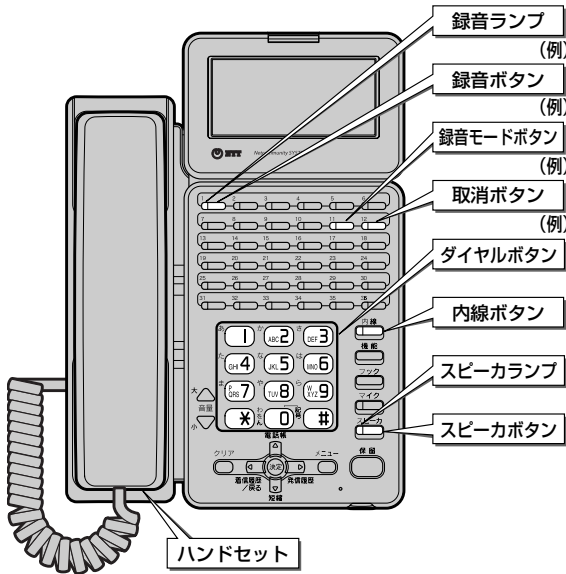
●録音時間が一定時間を超えたときは

「システム設定」により設定された録音時間が経過すると、「システム設定」の内容により、次のようになります。

・録音が終了し、録音ランプが赤で速く点滅します。再度、録音ボタンを押すと、新しいメッセージとして録音されます。
・録音時間が経過した時点で、それまでの録音内容は消去され、続けて録音されます。

●録音時間が一定時間に満たなかったときは

「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

自動で録音するには　（自動通話録音）

電話がかかってきたとき

外からかかってきた電話に応答すると、自動的に録音を開始します。お使いの電話機に対応するボックスに録音されます。

1 着信音が鳴ったら、応答操作を行い、ハンドセットを上げます。

2 相手の方とお話しください。

録音ランプが点灯し、お話しの内容が録音されます。

9月19日(月) 午前 3:15
0-30

3 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

録音が終了し、録音ランプが消えます。

お知らせ

- 内線でのお話しは、自動通話録音されません。手動での通話録音は可能です。(☛P22)
- 録音した内容をお使いの電話機のボックスに保存するかどうかは「システム設定」で設定します。(☛P93)
- お話しを録音中に次の操作をすると、録音は終了します。
  - ・他の方に電話を転送する
  - ・会議通話をする
  - ・フックキーを押す
- 録音ランプが赤で速く点滅しているときは、録音できません。
- 通話録音中に長時間保留後、長時間保留警報による着信に応答すると、再び録音を開始します。ハンドセットを置くと録音は終了します。
- ハンズフリーでお話し中の場合も録音されます。
- 通話録音中の外線を音声メールに保留転送することはできません。

ワンポイント

●**自動通話録音の種類**

お話しを自動的に録音するには、下のどの条件で録音を開始するかを「システム設定」で設定する必要があります。

- ・電話をかけて、相手の方とお話しを始めたときから録音する
- ・かけてきた相手の方とお話しを始めたときから録音する
- ・転送されてきた相手の方とお話しを始めたときから録音する

●**録音を一時停止するには**

- ・録音中に録音ボタンを押します。録音を再開したいときは、もう一度録音ボタンを押します。
- ・録音中に ＊ を押します。録音を再開したいときは、もう一度 ＊ を押します。

●**録音内容にコメントを録音するには**

録音内容にコメントを付けることができます。(☛P24)

●**録音内容を転送するには**

録音内容を他のボックスに転送することができます。(☛P30)

●**保留を行ったときには**

保留を行うと、録音は一時停止します。保留に応答すると、再び録音を開始します。ただし、保留中は録音を終了したり、中止することはできません。

●**録音を終了するには**

録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、 # # を押します。

●**録音を中止するには**

録音中または録音一時停止中に、取消ボタンを押します。

●**録音中止後に録音を再開したいときは**

録音を中止したあとで、録音ボタンを押します。

●**録音中に相手の方が電話を切ったときは**

切断されました。

というガイダンスが流れ、自動的に録音を終了します。

●**録音件数や録音時間を設定するには**

1つのボックスに録音できる数や、1回の操作で録音できる時間を「システム設定」することができます。

●**録音モードを切り替えるには**

「システム設定」で、録音モードが自動通話録音に設定されているときに、録音モードボタンを押すと、手動通話録音に切り替えることができます。再度、録音モードボタンを押すと自動通話録音モードに戻ります。

また、次の操作でも切り替えられます。手順①で内線ボタンを押すと、ワンタッチオンフックサービスを利用されている場合は、スピーカランプが自動的に点灯します。それ以外の場合はスピーカボタンを押してください。

〈手動通話録音モードに切り替える〉

①ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押す

②自動通話録音モード解除特番（9 6 7 [　　　]）を押す

③スピーカボタンを押す

〈自動通話録音モードに切り替える〉

①ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押す

②自動通話録音モード設定特番（9 6 6 [　　　]）を押す

③スピーカボタンを押す

●**録音時間が一定時間を超えたときは**

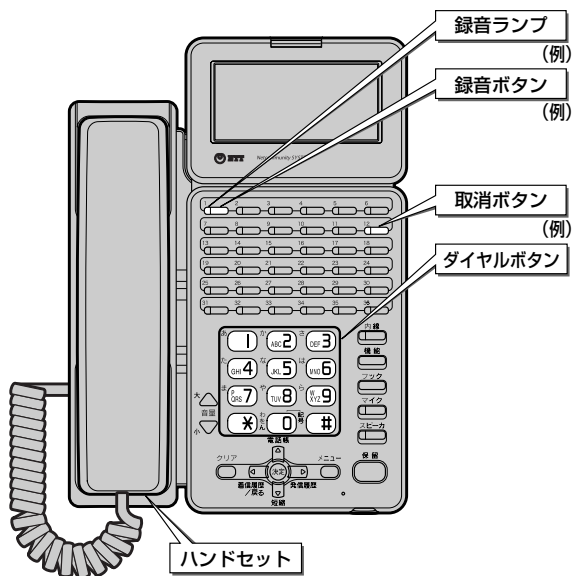
「システム設定」により設定された録音時間が経過すると、「システム設定」の内容により、次のようになります。

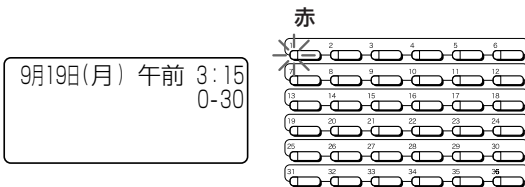
- ・録音が終了し、録音ランプが赤で速く点滅します。再度、録音ボタンを押すと、新しいメッセージとして録音されます。
- ・録音時間が経過した時点で、それまでの録音内容は消去され、続けて録音されます。

●**録音時間が一定時間に満たなかったときは**

「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

手動で録音するには　（手動通話録音）

相手の方とお話し中に、録音開始の操作をすると録音されます。外線、内線どちらをお使いのときも録音できます。お使いの電話機に対応しているボックスに録音されます。

1 相手の方とお話し中に、録音ボタンを押します。

録音ランプが点灯し、お話しの内容が録音されます。

2 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

録音が終了し、録音ランプが消えます。

お知らせ

- ●録音した内容をお使いの電話機のボックスに保存するかどうかは「システム設定」で設定します。（☛P93）
- ●お話しを録音中に次の操作をすると、録音は終了します。
  - ・他の方に電話を転送する
  - ・会議通話をする
  - ・フックキーを押す
- ●録音ランプが赤で速く点滅しているときは、録音できません。
- ●通話録音中に長時間保留後、長時間保留警報による着信に応答すると、再び録音を開始します。ハンドセットを置くと録音は終了します。
- ●ハンズフリーでお話し中の場合も録音されます。
- ●通話録音中の外線を音声メールに保留転送することはできません。

●**録音を一時停止するには**

・録音中に録音ボタンを押します。録音を再開したいときは、もう一度録音ボタンを押します。

・録音中に (＊) を押します。録音を再開したいときは、もう一度 (＊) を押します。

●**保留を行ったときには**

保留を行うと、録音は一時停止します。保留に応答すると、再び録音を開始します。ただし、保留中は録音を終了したり、中止することはできません。

●**録音を終了するには**

録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、(#) (#) を押します。

●**録音を中止するには**

録音中または録音一時停止中に、取消ボタンを押します。

●**録音中止後に録音を再開したいときは**

録音を中止したあとで、録音ボタンを押します。

●**録音件数や録音時間を設定するには**

1つのボックスに録音できる数や、1回の操作で録音できる時間を「システム設定」することができます。

●**録音時間が一定時間を超えたときは**

「システム設定」により設定された録音時間が経過すると、「システム設定」の内容により、次のようになります。

・録音が終了し、録音ランプが赤で速く点滅します。再度、録音ボタンを押すと、新しいメッセージとして録音されます。

・録音時間が経過した時点で、それまでの録音内容は消去され、続けて録音されます。

●**録音時間が一定時間に満たなかったときは**

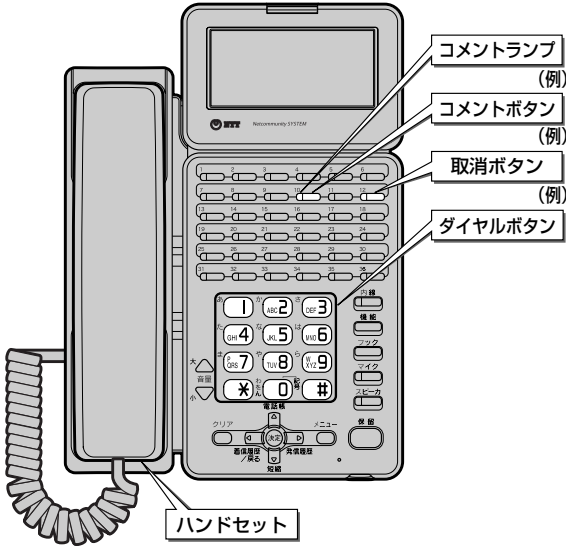
「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

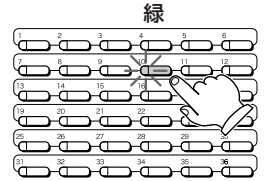
●**録音中に相手の方が電話を切ったときは**

切断されました。

というガイダンスが流れ、自動的に録音を終了します。

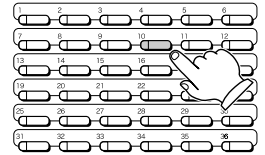
録音内容にコメントを付けるには

録音中または録音一時停止中に、録音した内容の前または後にコメントを付けることができます。コメントを付けたあと、そのメールを他のボックスに転送することもできます。

1 お話しを録音中または録音の一時停止中に、コメントボタンを押します。

コメントボタンを押したときに録音が終了します。
コメントランプが点灯し、周期的に2回消えます。
〈例〉内線番号が100の場合

2 コメントをお話しください。

3 お話しが終わったら、コメントボタンを押します。

コメントの録音が終了し、コメントランプが消えます。

100ヘコメントロクオン

ワンポイント

●**通話録音中にコメントボタンを押したときは**
相手の方とのお話しを終了し、コメントの録音を開始します。

●**コメントの録音を一時停止するには**
録音中に（＊）を押すと、
録音を中断しました。
というガイダンスが流れ、録音を一時停止します。
もう一度（＊）を押すと、
録音を再開しました。
というガイダンスが流れ、再び録音できます。

●**録音を終了するには**
録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、（#）（#）を押します。

●**コメントの位置を決めるには**
コメントの位置は「システム設定」で、録音した内容（メール）の前または後のどちらかに指定できます。

●**コメントの録音を途中で取り消すには**
コメントの録音中または録音一時停止中に取消ボタンを押すと、コメント録音は中止され取り消されます。

●**コメントの録音後、メールを転送するには**
手順2でコメントをお話ししたあと、メールの転送操作を行います。（☛P30）

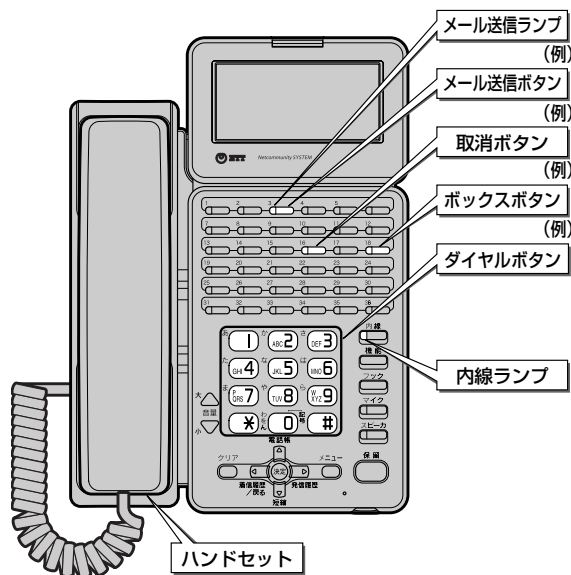
●**コメントの録音時間が一定時間に満たなかったときは**
「システム設定」で設定された録音時間にコメント録音が満たなかった場合は、そのコメントは自動で消去されます。

●**一時停止した録音を自動で再開させるには**
「システム設定」で一時停止した録音を自動で再開させることができます。録音を再開した場合、「録音を再開しました」というガイダンスが流れます。（☛P93）

お知らせ

●手順1でコメントボタンを押したとき、コメントランプが赤で速く点滅すると、コメントの録音はできません。
●すでにコメントの付いているメールに再びコメントを付けると、前に付いていたコメントは消去されて、新しいコメントが付きます。

メールを送るには

内線電話機より他の方のボックスにメールを録音することができます。

1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

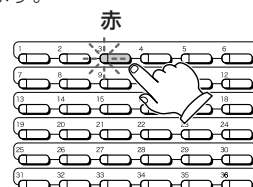
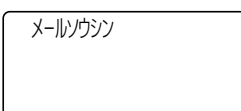
「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 メール送信ボタンを押します。

メール送信ランプが点滅します。

赤

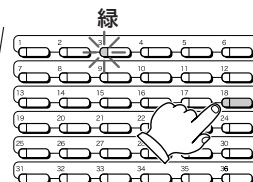
メールソウシン

3 ダイヤルボタンで相手の方の内線番号、またはボックスボタンを押します。

メール送信ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

緑

〈例〉内線番号が100の場合

100ヘロクオン

暗証番号をどうぞ。

お知らせ

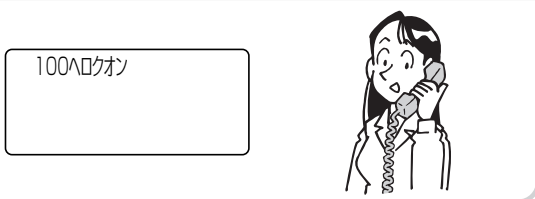
- 暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- 同報メールを行うには、「システム設定」が必要です。
- 操作をボックスボタンで行った場合で、そのボックスボタンに対応した内線番号がシステム設定されていない場合は、ディスプレイの内線番号は「－－－－」と表示されます。
  また、システム設定によりひとつのボックスを複数の内線に登録した場合は、操作した内線番号と違う内線番号がディスプレイに表示される場合があります。

4 録音・消去用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

アンショウバンゴウ
ニュウリョク　****

メッセージをどうぞ。

5 メッセージをお話しください。

100ヘロクオン

6 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

録音したメールが、相手の方のボックスへ送信され、メール送信ランプが消えます。

ワンポイント

●録音を一時停止するには

録音中に ＊ を押すと、

録音を中断しました。

というガイダンスが流れ、録音を一時停止します。

もう一度 ＊ を押すと、

録音を再開しました。

というガイダンスが流れ、再び録音できます。

●録音を終了するには

録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、＃ ＃ を押します。

●メールの送信を中止するには

メッセージの録音中または録音一時停止中に、取消ボタンを押します。

●暗証番号が設定されていないときは

手順3で、

メッセージをどうぞ。

というガイダンスが聞こえたら、手順5から行ってください。

●録音中のメールにコメントを録音するには

録音中のメールにコメントを付けることができます。(☛P24)

●メールを転送するには

録音したメールを他のボックスに転送することができます。(☛P30)

●一度に複数のボックスにメールを送るには（同報メール）

手順3で、同報メール用の内線番号またはボックスボタンを押すと、同報ボックスとして登録されているすべてのボックスに送信されます。

●呼び出した内線電話機がお話し中、または応答しないときにメールを送るには

①ハンドセットを上げて、「ツーツー…」という音を確認する

②内線番号をダイヤルボタンで押す

③話中音または呼出音を確認する

④メール送信ボタンを押す

⑤手順4から操作する

●メール送信ボタンを押さずにメールを送るには

手順2でメール送信ボタンの代わりに、メール送信特番（9 6 1 ［　　　］）を押します。

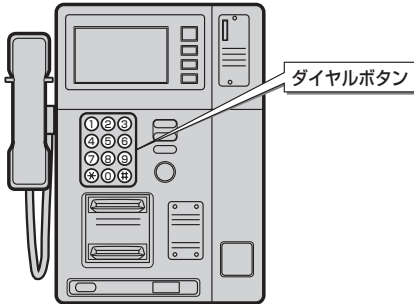
●録音時間が一定時間に満たなかったときは

「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

●一時停止した録音を自動で再開させるには

「システム設定」で一時停止した録音を自動で再開させることができます。録音を再開した場合、「録音を再開しました」というガイダンスが流れます。(☛P93)

外線を利用してメールを送るには

外から電話をかけて、指定したボックスにメッセージを録音することができます（メールサービス)。「システム設定」でメールサービスが設定されていることが必要です。

1 「音声メール」へ電話をかけます。

ダイヤリングサービスを行います。サービス番号をどうぞ。

2 ② を押します。

こちらはメールボックスです。再生は1 を、録音は2をダイヤルしてください。

3 ② を押します。

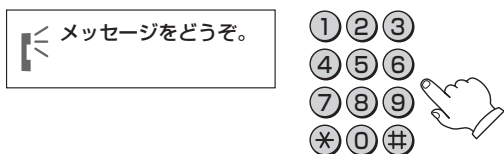
内線番号をどうぞ。

4 録音する内線番号をダイヤルボタンで押します。

暗証番号をどうぞ。

お知らせ

- 内線番号、暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。内線番号、暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- お話ししている外線を内線から音声メールへ保留転送してもらい、メッセージを録音することもできます。音声メールに保留転送された場合、ガイダンスが途中から再生されます。
- 外線から音声メールを録音した場合、音声メールへ蓄積される発信者情報は外線の番号になります。
- 外線の番号を表示させるためのナンバーディスプレイ（発信電話番号表示サービス）を利用するには当社との利用契約が必要です。
- 「システム設定」によって、音声メールが応答した場合に録音したガイダンス（共用ガイダンス）を再生することができます。（☛P78）
- 「システム設定」によって設定できる音声メール応答時の共用ガイダンスは、１種類のみです。
- 音声メール応答時の共用ガイダンスは、応答したあとに１回だけ再生されます。

5 録音・消去用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

6 お話しください。

お話しの内容が録音されます。

7 お話しが終わったら、電話を切ります。

録音が終了します。

ワンポイント

●**録音を一時停止するには**
録音中に㊍を押すと、
録音を中断しました。
というガイダンスが流れ、録音を一時停止します。
もう一度㊍を押すと、
録音を再開しました。
というガイダンスが流れ、再び録音できます。

●**録音を終了するには**
録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、㊯㊯を押します。

●**録音を終了し、再生または録音を選択する操作に戻るには**
録音中または録音停止中に⓪を押すと、録音を終了し、音声メールへ電話をかけたときのガイダンスに戻ります。

●**暗証番号が設定されていないときは**
手順4で、
メッセージをどうぞ。
というガイダンスが聞こえたら、手順6から行ってください。

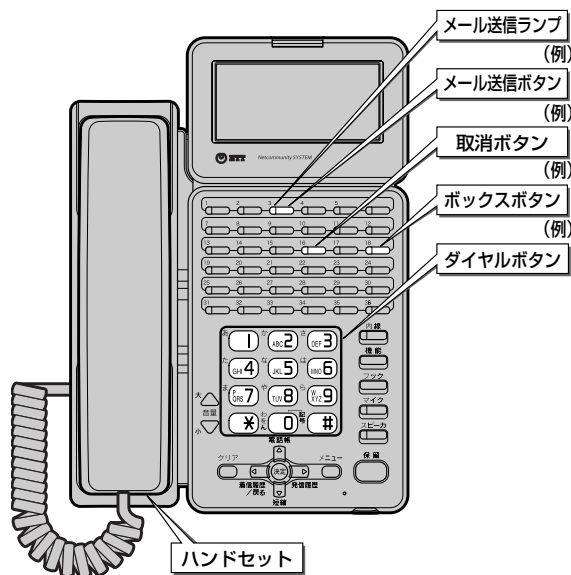
●**内線電話機からご利用になるには**
「システム設定」でメールサービスが設定されていない場合もご利用になれます。
①ハンドセットを上げて、「ツーツー…」という音を確認する
②音声メールへの内線番号をダイヤルボタンで押す
③続けて手順3から操作する

●**録音時間が一定時間に満たなかったときは**
「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

●**ガイダンス再生中にダイヤルボタンを押したときは**
ガイダンスの再生が中断され、押したダイヤルに対応したサービスが開始されます。

●**一時停止した録音を自動で再開させるには**
「システム設定」で一時停止した録音を自動で再開させることができます。録音を再開した場合、「録音を再開しました」というガイダンスが流れます。(☛P93)

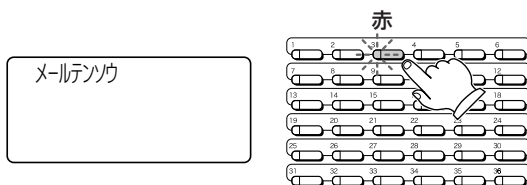
メールを転送するには

メールを他の方のボックスに転送することができます。一度の操作で最大16ボックスに送ることができます。

1 お話しの録音中、録音一時停止中、コメント録音中、メールの再生中に、メール送信ボタンを押します。

メール送信ランプが点滅します。

〈例〉録音中にメールを転送する場合

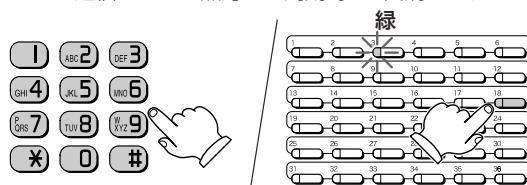
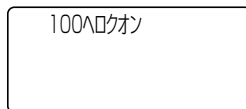
赤

メールテンソウ

2 ダイヤルボタンで相手の方の内線番号、またはボックスボタンを押します。

メール送信ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

緑

〈例〉内線番号が100の場合

100ヘロクオン

複数のボックスに送るときは、手順1、2を繰り返します。

3 ハンドセットを置きます。

メールが相手のボックスへ送信され、メール送信ランプが消えます。

ワンポイント

●転送先を取り消すには

手順2で取消ボタンを押すと、それまでに設定したすべての転送先を取り消すことができます。

お知らせ

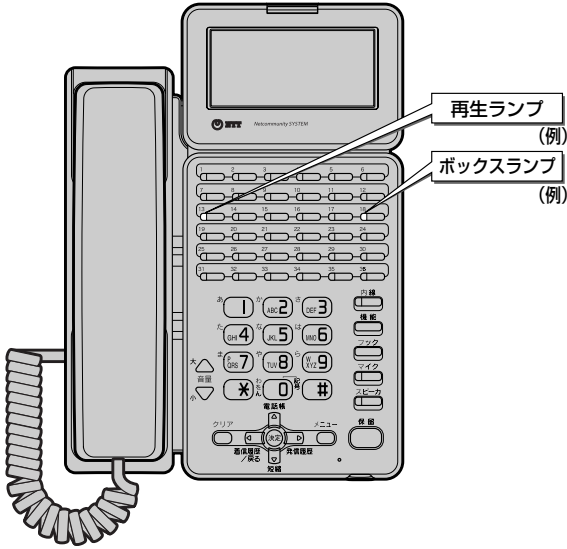
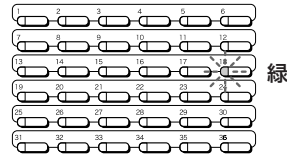
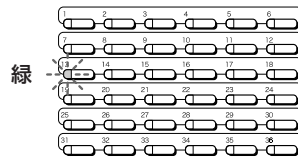
●「システム設定」により、転送したメールを元のボックスに残すか残さないかを設定することができます。

●メール転送先の設定中でも、コメントを録音することができます。

●手順2で、同報メール用の内線番号またはボックスボタンを指定することもできます。

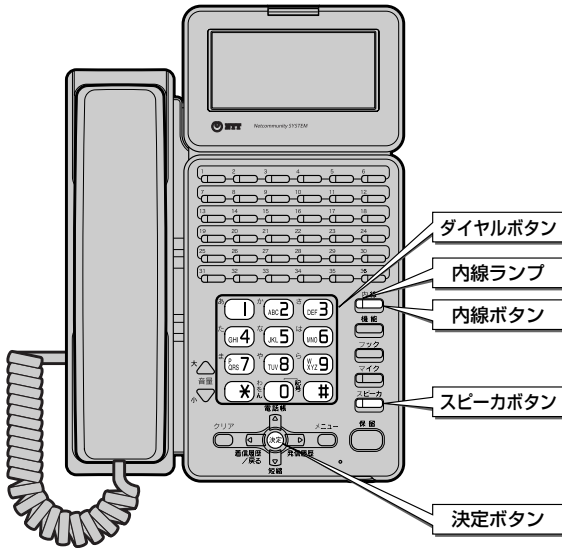
●操作をボックスボタンで行った場合で、そのボックスボタンに対応した内線番号がシステム設定されていない場合は、ディスプレイの内線番号は「－－－－」と表示されます。
また、システム設定によりひとつのボックスを複数の内線に登録した場合は、操作した内線番号と違う内線番号がディスプレイに表示される場合があります。

メール到達表示とは

お使いの電話機に登録されているボックスボタンまたは再生ボタンのボックスにメールが到達すると、そのボックスランプまたは再生ランプが点滅してメールがきたことをお知らせします。

1 ボックスにメールが到達すると、ボックスランプまたは再生ランプが点滅します

ワンポイント

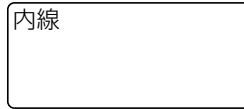
● **メール到達時のランプ表示について**
ボックスにメールが到達したときのボックスランプまたは再生ランプの状態を、「システム設定」で設定することができます。(☛P94)

メール到達通知とは

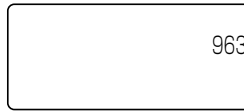
メール到達通知が設定されているボックスにメールが到達すると、そのボックスに登録されている内線電話機の着信音が鳴り、メールの到達を知らせます。メール到達通知は、メール到達通知先の設定後、通知サービス開始操作をしてから、解除操作をするまでメールが到達するたびに着信音でお知らせします。メール到達通知の設定は、ボックスごとに行います。

メール到達通知を設定する

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

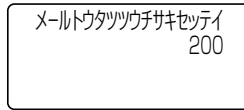
「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 メール到達通知先設定特番（9 6 3［　　　］）を押します。

「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が963の場合

963

3 メール到達通知を設定したい内線番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉内線番号が200の場合

ﾒｰﾙﾄｳﾀﾂﾂｳﾁｻｷｾｯﾃｲ
200

お使いの電話機の内線番号を指定するときは、内線番号の代わりに # を押すこともできます。

ワンポイント

● **メール到達通知先をポケベルに設定するには**

①手順4で、通知先の電話番号と # をダイヤルボタンで押す
（電話番号をダイヤルするときは、外線発信特番（0［　　　］）を押したあと、ポケベル電話番号をダイヤルする）
②メッセージ（ポケベルへ送るダイヤル）をダイヤルボタンで押す（最大32桁）
③続けて手順5から操作する

● **メール到達通知先を携帯電話やPHSに設定するには**

①手順4で、通知先の電話番号をダイヤルボタンで押す
（電話番号をダイヤルするときは、外線発信特番（0［　　　］）を押したあと、携帯電話やPHSの電話番号をダイヤルする）
②続けて手順5から操作する

4 メールの到達をお知らせしたい方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉内線番号が100の場合

メールトウタツツウチサキセッテイ
100

電話番号は24桁まで登録できます。
お使いの電話機の内線番号を指定するときは、内線番号の代わりに ＃ を押すこともできます。

5 決定ボタンを押します。

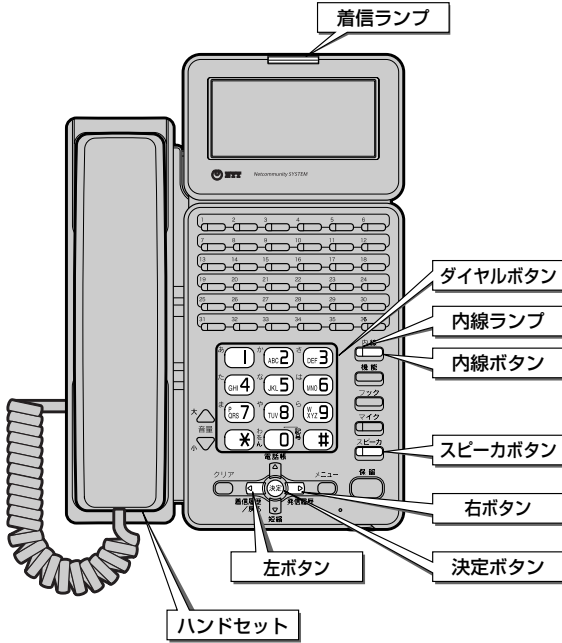
「ピーピー」という確認音が聞こえます。

6 スピーカボタンを押します。

メール到達通知が設定されます。

お知らせ

- ●手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。
- ●「システム設定」で、あらかじめメール到達通知先を設定することもできます。
- ●1回のメール到達通知の呼出時間、呼出回数、呼出間隔は、「システム設定」により設定されています。
- ●「システム設定」で、録音時間の短いメールによるメール到達通知を行わない様に設定することもできます。

メール到達通知とは

メール到達通知サービスを開始する

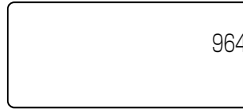
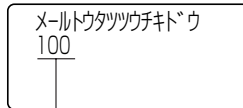
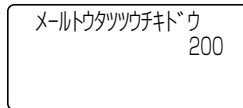
1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 メール到達通知起動特番（9 6 4 [　　　]）を押します。

「ププププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が964の場合

964

3 メール到達通知サービスを開始したい方の内線番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉内線番号が200の場合

ﾒｰﾙﾄｳﾀﾂﾂｳﾁｷﾄﾞｳ
200

メール到達通知先の
電話番号

お使いの電話機の内線番号を指定する場合は、内線番号の代わりに # を押すこともできます。

お知らせ

手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。

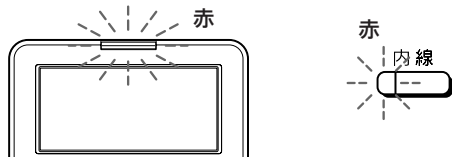
4 決定ボタンを押します。

「ピーピー」という確認音が聞こえます。

5 スピーカボタンを押します。

メール到達通知サービスを開始します。

メール到達通知に応答する

1 メール到達通知されると、着信音が鳴り、着信ランプと内線ランプが速く点滅します。

2 ハンドセットを上げます。

こちらはメールボックスです。暗証番号をどうぞ。

3 メール再生用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

メールは××件あります。

4 メールの内容が聞こえます。

ワンポイント

●**暗証番号が設定されていないときは**

手順2で、

こちらはメールボックスです。メールは××件あります。

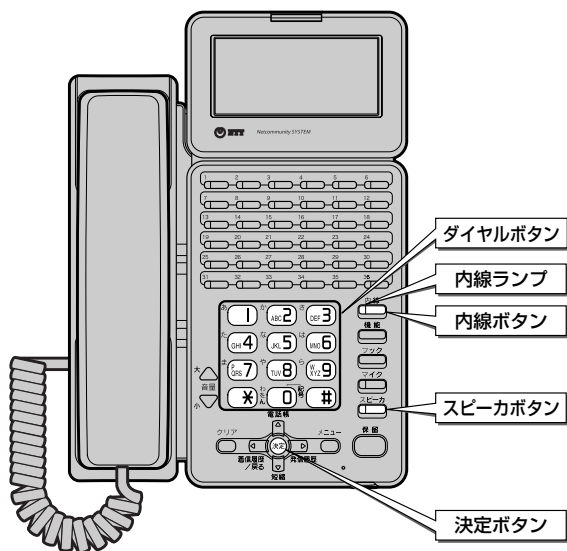
というガイダンスが流れ、メールが再生されます。

●**ダイヤルボタンを使った再生時のメール操作**

再生中に下表のダイヤルボタンを押して操作します。

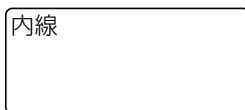
	内　容
1	同じメールを繰り返し再生する
ABC 2	メールをバックアップする（☛P44）
DEF 3	メールを消去する（☛P47）
GHI 4 ※	前のメールを再生する
JKL 5	（高速再生はご利用になれません）
MNO 6 ※	次のメールを再生する
PQRS 7	メールを数秒間巻き戻す
WXYZ 9	メールを数秒間早送りする
* *	すべてのメールを消去する（☛P48）

※ 左ボタンでダイヤルボタン GHI 4 、右ボタンでダイヤルボタン MNO 6 を押したときと同じ操作ができます。

メール到達通知とは

メール到達通知サービスを停止する

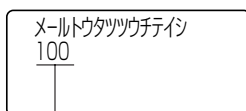
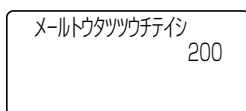
1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 メール到達通知停止特番（9 6 5 ［　　］）を押します。

「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が965の場合

965

3 メール到達通知サービスを終了したい方の内線番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉内線番号が200の場合

メールトウタツツウチテイシ
200

メール到達通知先の電話番号

お使いの電話機の内線番号を指定する場合は、内線番号の代わりに # を押すこともできます。

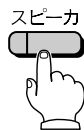
お知らせ

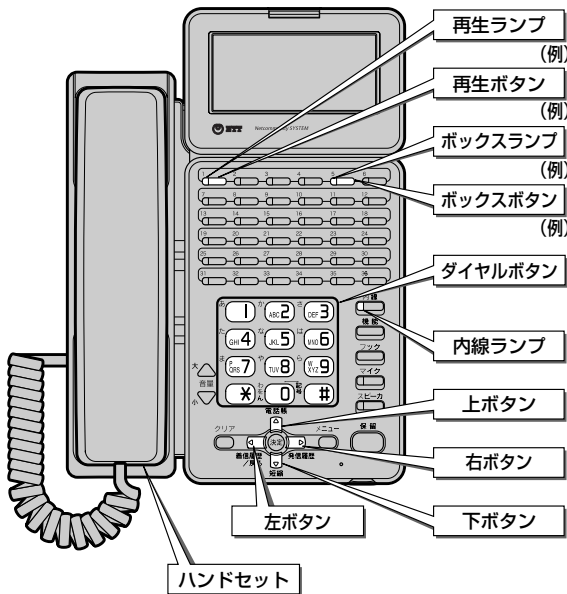
手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。

4 決定ボタンを押します。

「ピーピー」という確認音が聞こえます。

5 スピーカボタンを押します。

メール到達通知サービスを停止します。

メールを再生するには

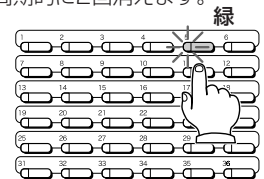
ボックスに録音されているメールを再生します。

1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 ボックスボタンを押します。

ボックスランプが点灯し、周期的に2回消えます。

メールサイセイ
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ

暗証番号をどうぞ。

3 メール再生用の暗証番号をダイヤルボタンで押します

アンショウバンゴウ
ニュウリョク ****
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ

メールは××件あります。

メールの内容が聞こえます。

4 複数のメールが録音されているときは、約3秒後に次のメールが再生されます。

9-19 9:45 MENU1/2
300
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ

5 メールを聞き終わったら、ハンドセットを置きます。

ボックスランプが消えます。

お知らせ

- 「システム設定」を設定することにより、録音時間の新しい順に再生するか、古い順に再生するかを設定することができます。
- 暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- 1つのボックス番号が複数の電話機に登録されている場合、ある電話機でメール再生操作を行うと、それら複数の電話機のランプ表示も「システム設定」されたランプの状態になります。

ワンポイント

●**メールがないときは**

手順3で、

メールがありません。

というガイダンスが流れてお知らせします。

●**再生ボタンでメールを再生するには**

①手順2で、ボックスボタンの代わりに再生ボタンを押すと、

メールは××件あります。

というガイダンスが流れ、メールが再生される

②メールを聞き終わったら、ハンドセットを置く

●**再生ボタン、ボックスボタンを押さずにメールを再生するには**

手順2で、再生ボタン、ボックスボタンの代わりに、メール再生特番（9 6 0 [　　]）と内線番号をダイヤルボタンで押したあと、手順3から操作してください。

●**暗証番号が設定されていないときは**

手順2で、メールの内容が聞こえてきます。

●**メールの再生を中止するには**

メール再生中に、ハンドセットを置きます。

●**ダイヤルボタンを使った再生時のメール操作**

再生中に下表のダイヤルボタンを押して操作します。

	内　容
1	同じメールを繰り返し再生する
2	メールをバックアップする（☛P44）
3	メールを消去する（☛P47）
4 ※	前のメールを再生する
5	（高速再生はご利用になれません）
6 ※	次のメールを再生する
7	メールを数秒間巻き戻す
9	メールを数秒間早送りする
＊ ＊	すべてのメールを消去する（☛P48）

※ 左ボタンでダイヤルボタン 4、右ボタンでダイヤルボタン 6 を押したときと同じ操作ができます。

●**再生中のメールにコメントを録音するには**

再生中のメールにコメントを付けることができます。（☛P46）

●**再生中のメールを転送するには**

再生中のメールを他の方のボックスに転送することができます。（☛P30）

●**メール再生後のランプ表示について**

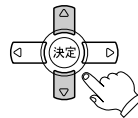
メール再生後のボックスランプまたは再生ランプの状態を「システム設定」で設定することができます。設定できる状態は次のとおりです。

- 常時点灯しない
- ボックス内に未再生メールがあったときに緑で点滅する
- ボックス内にメールがあったときに緑で点滅する
- メール再生で消える。そのあと新しいメールが到達すると、再び緑で点滅する

●**メール再生中の表示操作について**

メールを再生すると次のように表示されます。

〈メール再生中〉

下ボタンを押す ↓　↑ 上ボタンを押す

9-19 MENU2/2
300
7:巻戻し 9:早送り
＊＊:全消去

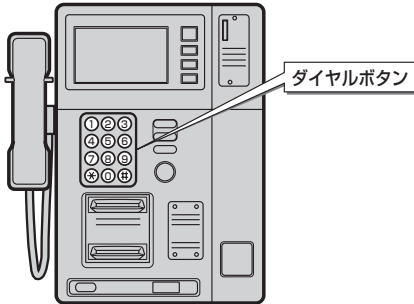
- 上下ボタンでダイヤルボタンに対応した操作内容の表示が切り替えられます。
- 最後のメールを再生し終わると、先頭からメールを再生し始めます。
- 録音時刻の表示は、24時間表示です。
- メール再生中に電話機には「5：高速」が表示されていますが、高速再生を行うことはできません。5 を押すと操作説明のガイダンスが流れます。

●**メール再生後の録音日時と発信者番号のアナウンスについて**

「システム設定」を設定することにより、メールを再生したあとにそのメールが録音された日時と発信者の番号をアナウンスするように設定できます。

ただし、録音時に相手の方から発信者の番号が通知されなかった場合は、録音日時のみアナウンスされます。

外線を利用してメールを再生するには

外から電話をかけて、指定したボックスに録音されているメールを聞くことができます（メールサービス)。「システム設定」でメールサービスが設定されていることが必要です。

1 「音声メール」へ電話をかけます。

ダイヤリングサービスを行います。サービス番号をどうぞ。

2 ②を押します。

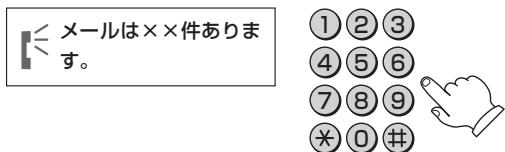
3 ①を押します。

4 内線番号をダイヤルボタンで押します。

お知らせ

- 内線番号、暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。内線番号、暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- お話ししている外線を内線から音声メールへ保留転送してもらい、メールを聞くこともできます。
  音声メールに保留転送された場合、ガイダンスが途中から再生されます。
- 「システム設定」によって、音声メールが応答した場合に録音したガイダンス（共用ガイダンス）を再生することができます。(☛P78)
- 「システム設定」によって設定できる音声メール応答時の共用ガイダンスは、１種類のみです。
- 音声メール応答時の共用ガイダンスは、応答したあとに１回だけ再生されます。

5 メール再生用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

メールは××件あります。

6 メールの内容が聞こえます。

7 メールを聞き終わったら、電話を切ります。

ワンポイント

●メールがないときは

手順5で、

メールがありません。

というガイダンスが流れてお知らせします。

●内線電話機からご利用になるには

「システム設定」でメールサービスが設定されていない場合もご利用になれます。

①ハンドセットを上げて、「ツーツー…」という音を確認する

②音声メールへの内線番号をダイヤルボタンで押す

③続けて手順3から操作する

●ダイヤルボタンを使った再生時のメール操作

再生中に下表のダイヤルボタンを押して操作します。

	内　容
①	同じメールを繰り返し再生する
②	メールをバックアップする（☛P44）
③	メールを消去する（☛P47）
④	前のメールを再生する
⑤	（高速再生はご利用になれません）
⑥	次のメールを再生する
⑦	メールを数秒間巻き戻す
⑨	メールを数秒間早送りする
⓪	始めの操作ガイダンスに戻る
⊛⊛	すべてのメールを消去する（☛P48）

●暗証番号が設定されていないときは

手順4で、

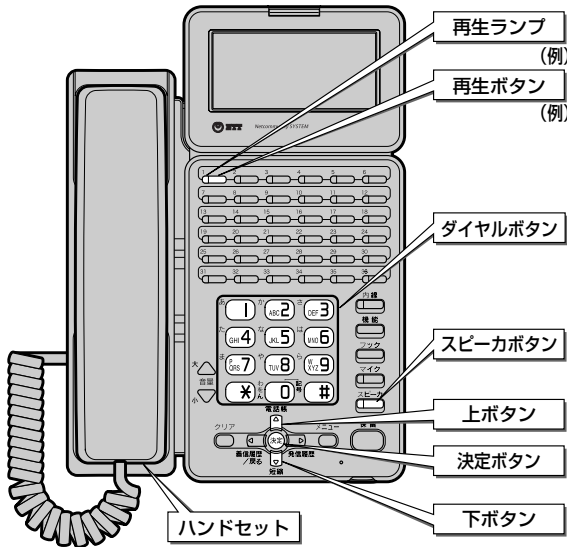
メールは××件あります。

というガイダンスが流れ、メールが再生されます。

●ガイダンス再生中にダイヤルボタンを押したときは

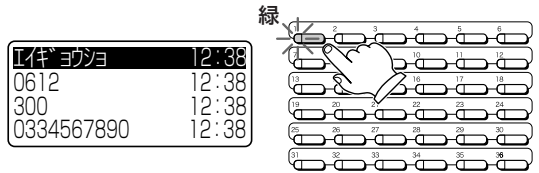
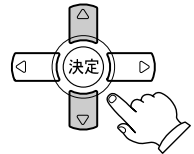
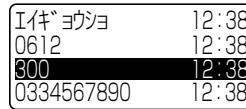
ガイダンスの再生が中断され、押したダイヤルに対応したサービスが開始されます。

再生するメールを一覧から選択するには

お使いの電話機に登録されている再生ボタンのボックスに録音されているメールを標準電話機のディスプレイに一覧表示できます。その一覧からメールを選択し、再生することができます。

1 電話が使用中でないことを確認してから、再生ボタンを押します。

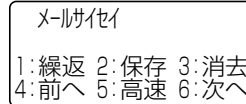
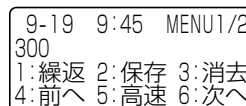
押した再生ボタンのボックスに録音されているメールの発信元と、録音時刻が表示されます。
再生ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

緑

```
エイギョウショ    12:38
0612             12:38
300              12:38
0334567890       12:38
```

2 上下ボタンで再生したいメールを選択します。

3 ハンドセットを上げます。

メールの内容が聞こえます。

4 複数のメールが録音されているときは、約3秒後に次のメールが再生されます。

```
9-19  9:45  MENU1/2
300
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ
```

お知らせ

- 録音時刻の表示は、24時間表示です。
- 再生済みのメールには、手順1、2のディスプレイの録音時刻の前に「＊」が表示されます。
- メールの発信元は、12桁まで表示されます。13桁以降は表示されません。

5 メールを聞き終わったら、ハンドセットを置きます。

メールの再生が終了し、再生ランプが消えます。

ワンポイント

●ハンドセットを置いたままメールを再生するには

手順3でハンドセットを上げずに決定ボタンまたはスピーカボタンを押します。終了するときは、スピーカボタンを押します。

●メールがないときは

手順3で、

 メールがありません。

というガイダンスが流れてお知らせします。

●メール再生時に利用できる操作について

メール再生時の下記の操作については、「メールを再生するには」（☛P38）を参照してください。

- ・ダイヤルボタンを使ったメール操作
- ・再生中のメールにコメントを録音する
- ・再生中のメールを転送する
- ・メールの再生を中止する

●メール再生後のランプ表示について

「メールを再生するには」（☛P38）を参照してください。

メールをバックアップするには

再生中のメールをバックアップします。バックアップしたメールは、「メールを自動的に消去する」（☛P94）、「すべてのメールを消去するには」（☛P48）を操作しても、消去されません。大事なメールを保存しておくときに便利です。

1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 ボックスボタンを押します。

ボックスランプが点灯し、周期的に2回消えます。

ﾒｰﾙｻｲｾｲ
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ

暗証番号をどうぞ。

3 メール再生用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

ｱﾝｼｮｳﾊﾞﾝｺﾞｳ
ﾆｭｳﾘｮｸ ****
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ

メールは××件あります。

4 メールの内容が聞こえます。

9-19 9:45 MENU1/2
300
1:繰返 2:保存 3:消去
4:前へ 5:高速 6:次へ

ワンポイント

● **メールがないときは**
手順3で、
メールがありません。
というガイダンスが流れてお知らせします。

● **再生ボタンでメールをバックアップするには**
①手順2で、ボックスボタンの代わりに再生ボタンを押すと、
メールは××件あります。
というガイダンスが流れ、メールが再生される
②再生中に ABC2 を押す
③メールを聞き終わったら、ハンドセットを置く

● **メールの再生を中止するには**
メール再生中に、ハンドセットを置きます。

● **暗証番号が設定されていないときは**
手順2で、メールの内容が聞こえたら、手順5から行ってください。

● **メールの再生後のランプ表示について**
「メールを再生するには」（☛P38）を参照してください。

お知らせ

暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。

5 再生中に(かABC2)を押します。

再生中のメールがバックアップされます。

メールをバックアップしました。

6 メールを聞き終わったら、ハンドセットを置きます。

メールの再生が終了し、ボックスランプが消えます。

ワンポイント

●**メールをパソコンに保存するには**

大事なメールをパソコンに保存することができます。
（☞P110、P113）

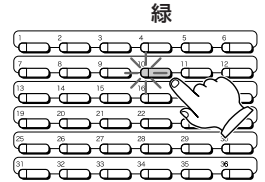
再生中のメールにコメントを付けるには

再生中のメールの前または後にコメントを付けることができます。コメントを付けたあと、そのメールを他のボックスに転送することもできます。

1 メール再生中に、コメントボタンを押します。

メールの再生が中断します。
コメントランプが点灯し、周期的に2回消えます。

緑

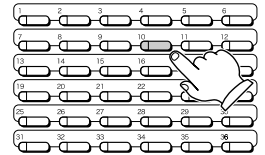
100ヘコメントロクオン
1：繰返 2：保存 3：消去
4：前へ 5：高速 6：次へ

コメントをどうぞ。

2 コメントをお話しください。

100ヘコメントロクオン
1：繰返 2：保存 3：消去
4：前へ 5：高速 6：次へ

3 お話しが終わったら、コメントボタンを押します。

コメントの録音が終了し、コメントランプが消えます。

100ヘコメントロクオン
1：繰返 2：保存 3：消去
4：前へ 5：高速 6：次へ

複数のメールが録音されているときは、次のメールが再生されます。

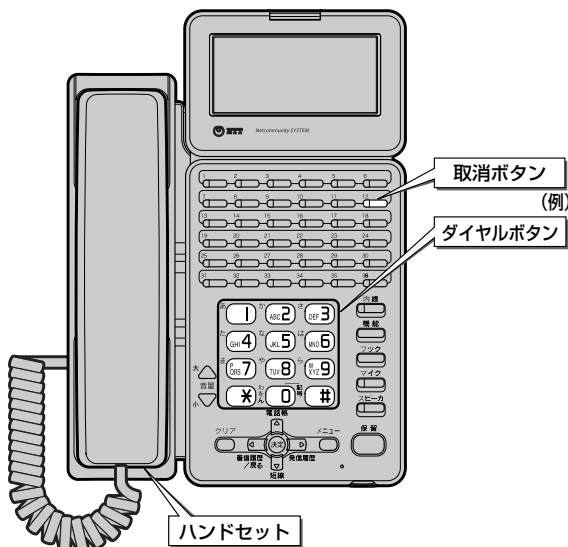
ワンポイント

- **コメントの録音を一時停止するには**
  録音中に ＊ を押すと、
  録音を中断しました。
  というガイダンスが流れ、録音を一時停止します。
  もう一度 ＊ を押すと、
  録音を再開しました。
  というガイダンスが流れ、再び録音できます。
- **録音を終了するには**
  録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、# # を押します。
- **コメントの位置を決めるには**
  コメントの位置は「システム設定」で、録音した内容（メール）の前または後のどちらかに指定できます。
- **コメントの録音を途中で取り消すには**
  コメントの録音中または録音一時停止中に取消ボタンを押すと、コメント録音は中止され消去されます。
- **コメントの録音後、メールを転送するには**
  手順2でコメントをお話ししたあと、メールの転送操作を行います。（☛P30）
- **コメントの録音時間が一定時間に満たなかったときは**
  「システム設定」で設定された録音時間にコメント録音が満たなかった場合は、そのコメントは自動で消去されます。このとき、すでにコメントが付いていた場合はそのコメントは残ります。
- **一時停止した録音を自動で再開させるには**
  「システム設定」で一時停止した録音を自動で再開させることができます。録音を再開した場合、「録音を再開しました」というガイダンスが流れます。（☛P93）

お知らせ

すでにコメントの付いているメールに再びコメントを付けると、前に付いていたコメントは消去されて、新しいコメントが付きます。

再生中のメールを消去するには

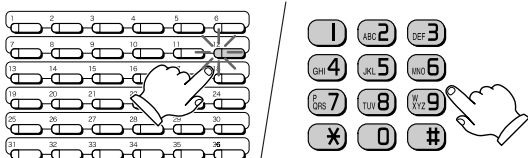
再生中のメールを消去することができます。

ワンポイント

●**暗証番号が設定されていないときは**
手順1で、再生中のメールが消去されます。

●**バックアップされたメールのときは**
①手順2で暗証番号をダイヤルすると、
バックアップしたメールがあります。メールを消去しますか。よろしければ＊をダイヤルしてください。
というガイダンスが流れる
②（＊）を押すと、
メールを消去しました。
というガイダンスが流れる
③続けて手順3から操作する
（暗証番号が設定されていないときは、手順1で上記①のガイダンスが流れる）

お知らせ

●暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
●「システム設定」により決められたメール保存日数が経過すると、メールは自動的に消去されます。ただし、バックアップされたメールは消去されません。

1 メール再生中に、取消ボタンまたは（DEF 3）を押します。

暗証番号をどうぞ。

2 録音・消去用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

メールが消去されました。

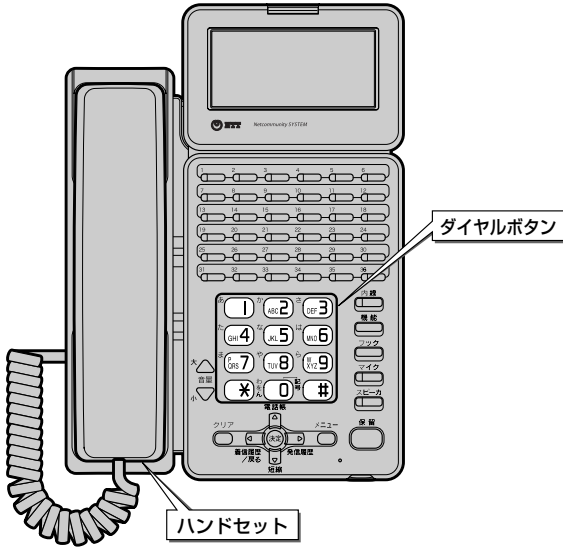
メールを消去しました。

3 複数のメールが登録されているときは、次のメールの内容が再生されます。

続けてメールを消去するときは、手順1から繰り返します。

4 メールの消去を終了するときは、ハンドセットを置きます。

すべてのメールを消去するには

メール再生中にすべてのメールを消去することができます。ただし、バックアップされているメールは消去されません。

1 メール再生中に、⊛を押します。

すべてのメールを消去します。よろしければ＊をダイヤルしてください。

2 ⊛を押します。

暗証番号をどうぞ。

メールを消去したくないときは、⊛以外のダイヤルボタンを押します。

3 録音・消去用の暗証番号をダイヤルボタンで押します。

すべてのメールが消去されました。

すべてのメールを消去しました。

4 ハンドセットを置きます。

ワンポイント

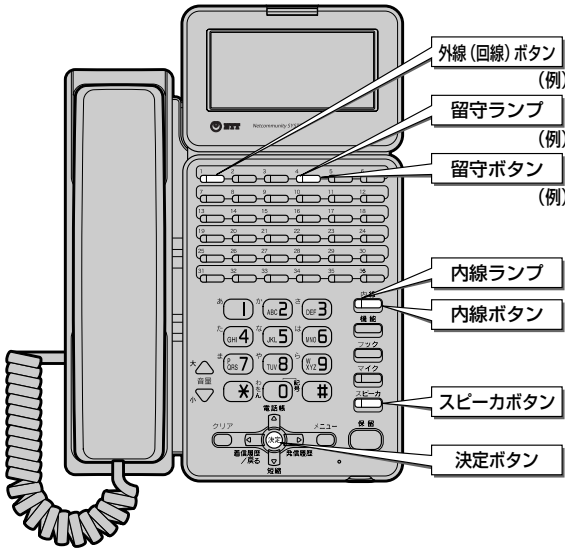
●**暗証番号が設定されていないときは**
手順2で、すべてのメールが消去されます。

●**ボックス内にバックアップされたメールがあるときは**
すべてのメールが消去されたあと、バックアップされているメールが再生されます。

お知らせ

●暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
●「システム設定」により設定されたメール保存日数が経過すると、メールは自動的に消去されます。ただし、バックアップされたメールは消去されません。

留守番電話として利用するには

不在時または夜間や休日にかかってきた電話に、音声メールで対応することができます。また、相手の方からのメッセージがあれば、留守番電話として設定した内線または外線のメールボックスに録音することもできます。
留守番電話の設定は「システム設定」で決められた電話機から行ってください。応答するガイダンスは、あらかじめ登録しておく必要があります。(☛P72)

留守番電話として設定する

設定操作をする電話機の外線ボタンに、留守番電話を設定できます。

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

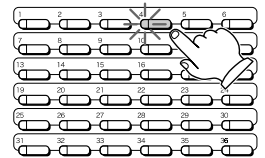
2 決定ボタンを押します。

「ツツツ…」という音を確認してください。

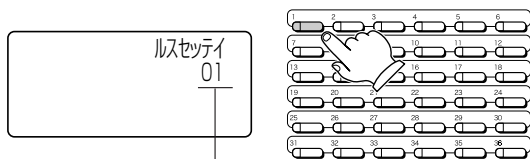
3 留守ボタンを押します。

「ププププププ」という音を確認してください。
留守ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

赤

ﾙｽｾｯﾃｲ
00

お知らせ

- 手順1で内線ボタンを押すと、ワンタッチオンフックサービスを利用されている場合は、スピーカランプが自動的に点灯します。それ以外の場合はスピーカボタンを押してください。
- 留守番電話として起動している電話機からは、留守番電話の設定・解除はできません。
- 留守番電話の用件録音時間は、「システム設定」により決められています。
- 留守番電話としての設定は、「システム設定」で設定することもできます。
- 留守番電話が応答するまでの時間を「システム設定」で、1〜255秒で設定することができます。
- 留守番電話として設定できる外線ボタンは、「システム設定」で設定しておく必要があります。
- 外線ボタンに登録してある外線ボックスを「システム設定」で設定しておく必要があります。
- コンソールの外線ボタンを留守番電話として設定することはできません。

4 留守番電話として設定したい外線ボタンを押します。

留守番電話として設定予約したボタンの数

続けて複数の外線ボタンまたは内線ボタンを押すことができます。
押したボタンを再度押すと、そのボタンの設定予約が取り消されます。

5 決定ボタンを押します。

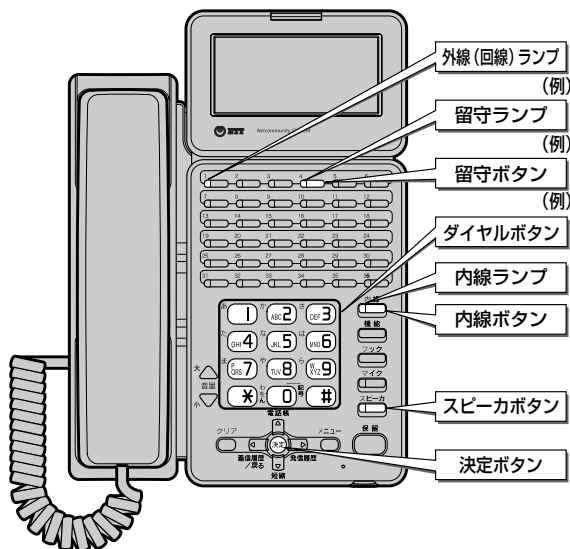
留守ランプが消え、「ピーピー」という確認音が聞こえます。

6 スピーカボタンを押します。

留守番電話の設定が終了します。

ワンポイント

- **留守番電話の設定を途中でやめるには**
  手順5で、スピーカボタンを押して操作を終了すると、それまでの設定操作は取り消されます。
- **録音時間が一定時間に満たなかったときは**
  「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。
- **留守番電話で録音中の通話をモニタするには**
  留守番電話応答中に、モニタ可表示されている外線ボタンまたは内線ボタンを押すと、留守番電話で応答中の通話を聞くことができます。(☛P56)
- **留守番電話で録音中の通話に応答するには**
  留守番電話で録音中の通話をモニタしているときに決定ボタンを押すと、留守番電話に録音していた相手の方とお話しすることができます。(☛P57)

留守番電話として利用するには

留守番電話の設定を解除する

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

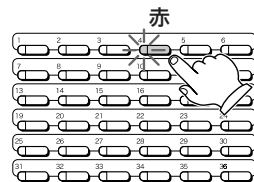
2 決定ボタンを押します。

「ツツツ…」という音を確認してください。

3 留守ボタンを押します。

「プププププ」という音を確認してください。
留守ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

ルスセッテイ
00

赤

4 決定ボタンを押します。

留守ランプが消え、「ピーピー」という確認音が聞こえます。

5 スピーカボタンを押します。

留守番電話の設定が解除されます。

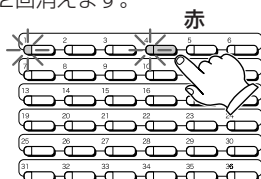
お知らせ

手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。

留守番電話を起動する

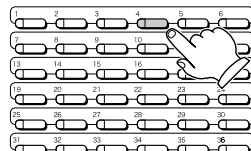
留守番電話を起動します。留守番電話を設定した電話機で操作してください。

1 留守番電話が起動されていないことを確認し、留守ボタンを押します。

留守ランプ、留守番電話を設定した外線ランプ、内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

留守番電話の起動を解除する

留守番電話の起動を解除します。留守番電話を設定した電話機で操作してください。

1 留守番電話が起動されていることを確認し、留守ボタンを押します。

留守ランプ、留守番電話を設定した外線ランプ、内線ランプが消えます。

お知らせ

- 留守番電話で応答した場合は、ボックスに登録されているガイダンスが流れます。(☛P72)
- 留守番電話を起動すると、留守番電話を設定した外線ランプ、内線ランプが赤く点灯し、周期的に2回消えます。起動を解除すると、外線ランプ、内線ランプは消えます。
- 留守番電話の設定をしていないときは、留守番電話の起動はできません。
- 留守番電話起動時、着信中の回線があれば、その着信に対して留守番電話が応答します。ただし、機能アクセス（☛P88）により起動を行った場合は、着信中の回線には応答しません。
- 以下の場合には、留守ボタンを押しても留守番電話の起動および解除はできません。
  - ・機能／設定特番操作中
  - ・メールの録音／再生／消去時のパスワード入力中
  - ・ダイヤル中特番操作中
  - ・ハンドセットを上げた状態で短縮ダイヤルを読み出している時

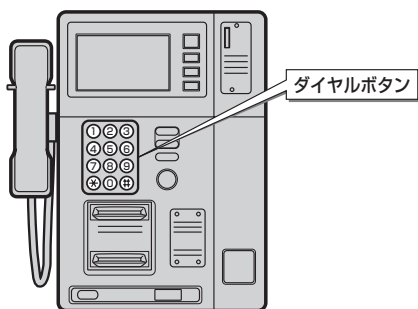
ワンポイント

●留守ボタンを押さずに留守番電話を起動するには

①ハンドセットを置いたまま内線ボタンを押す
②留守番電話起動特番（9 7 0 [ ]）を押す
③スピーカボタンを押す

●留守ボタンを押さずに留守番電話の起動を解除するには

①ハンドセットを置いたまま内線ボタンを押す
②留守番電話解除特番（9 7 1 [ ]）を押す
③スピーカボタンを押す

留守番電話として利用するには

ワンポイント

● **転送先（メール録音通話切替先）が設定されていないときは**
手順1で、あらかじめボックスに設定されているガイダンスが聞こえます。メッセージをお話しください。おかけになったボックスに録音されます。
転送先（メール録音通話切替先）が設定されている場合でも「システム設定」によって、あらかじめボックスに設定されているガイダンスを再生することができます。

● **オリジナルの応答ガイダンスを登録するには（☛P72）**

● **他の電話機に転送できないときは**
転送できませんでした。メッセージをどうぞ。
というガイダンスが聞こえます。メッセージをお話しください。おかけになったボックスに録音されます。ただし、手順2で録音した内容は消去されます。

● **再度、転送するには**
他の電話機に転送できない場合、メッセージの録音中に再度、メール録音通話切替特番（⑨⑥②［　　］）と㊒を押して転送を行うこともできます。

お知らせ

●転送先は、留守番電話として利用するボックスに「システム設定」で設定しておく必要があります。（☛P95）おかけになった方が転送先を指定することはできません。
●応答ガイダンスの選択は、「システム設定」により行います。標準電話機などからの設定はできません。
●メール応答時に再生されるガイダンスは、「システム設定」によりオリジナルの応答ガイダンスに変更することができます。その場合は留守番電話で設定されたメッセージが再生されます。

留守番電話が応答したとき、他の電話機に転送する

留守番電話が応答したとき、メッセージを録音するか、またはメール録音通話切替特番のダイヤルを押して他の電話機を呼び出すことができます。

1 電話をかけます。

〈例〉特番が962の場合

ただ今、留守にしております。お急ぎの方は962#をダイヤルしてください。メッセージをどうぞ。

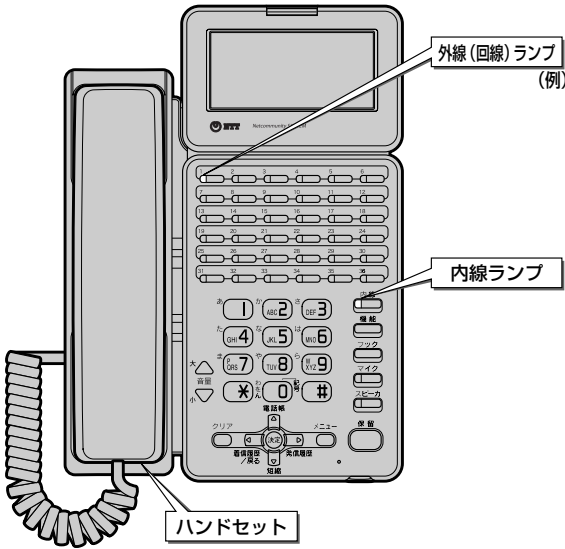
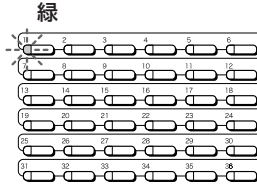
2 メッセージの録音中にメール録音通話切替特番（⑨⑥②［　　］）を押します。

3 ㊒ボタンを押します。

録音が中断し、呼出音が流れます。
転送先に転送されます。

4 相手の方が出たら、お話しください。

留守番電話モニタ可表示とは

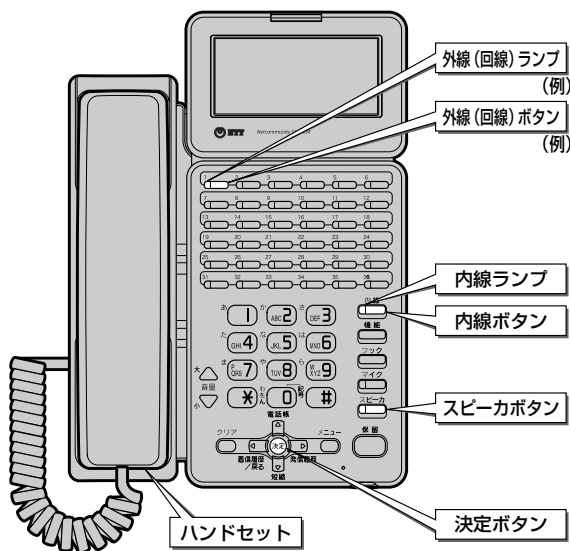
留守番電話起動後、留守応答中の通話がモニタ可能なときに、外線または内線ランプが点滅（緑）して通知します。

1 留守番電話起動後、着信中の外線または内線ランプが点滅します。

お知らせ

- 留守番電話応答中の通話をモニタするには、「システム設定」が必要です。
- 内線ボタンがモニタ可表示中のときは、内線ボタンによる内線発信はできません。
- 以下の場合には、モニタ可表示されません。
  - ・索線ボタン、拡張内線グループボタンへの着信が留守番電話となったとき
  - ・着信未応答通知により留守番電話機能が動作し、メール録音となったとき
  - ・話中転送により留守番電話機能が動作し、メール録音となったとき
  - ・「システム設定」でメール録音通話切替先が設定されているボックスに、メール録音となったとき
  - ・留守番電話以外の機能によりメール録音となったとき
- モニタ可表示は、対象となる通話が終わった時点で消灯します。

ワンポイント

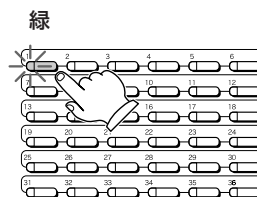
- **留守番電話応答中の通話をモニタするには**
  留守番電話モニタ可表示中の外線または内線をモニタすることができます。（☛P56）

留守番電話をモニタするには

指定した留守応答中の通話をモニタ（聞く）することができます。

1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

2 留守番電話モニタ可表示中の外線または内線ボタンを押します。

<例>外線ボタンの場合

外線ランプが点灯し、通話のモニタが開始されます。

お知らせ

- ●ワンタッチオンフックサービスを利用されている場合は、手順2から操作を行うこともできます。スピーカランプが自動的に点灯します。
- ●内線ボタンがモニタ可表示中のときは、内線ボタンによる内線発信はできません。
- ●以下の場合には、留守番電話をモニタできません。
  - ・電話機の状態が空きまたは内線発信中以外のときにモニタ可表示中の外線または内線ボタンを押したとき
- ●モニタされている相手の方が電話を切った場合、モニタは自動的に終了します。
- ●モニタ中、以下の操作はできません。
  - ・保留操作
  - ・会議招集
  - ・PB信号送出（PB表示が消灯）
- ●複数の着信が留守応答されている場合、モニタ中に他の相手へモニタを切り替えることはできません。
- ●モニタ中でも留守番電話への録音は行われます。

ワンポイント

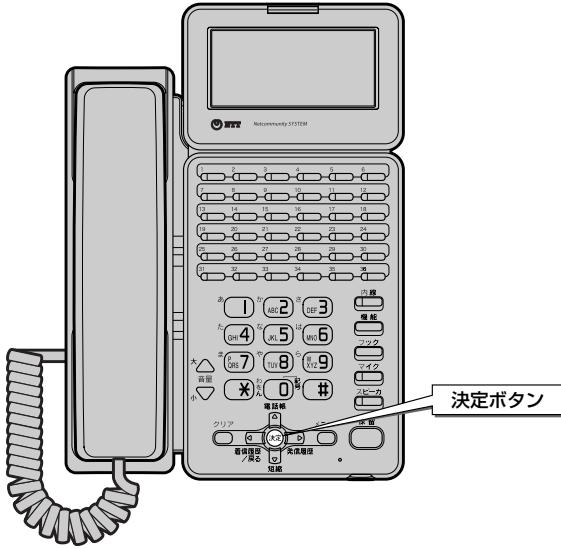
●モニタを終了したいときには
ハンドセットを置くか、スピーカボタンを押します。

●プリセレクションサービスが設定されている場合には
以下の手順で通話モニタを行います。
①留守番電話モニタ可表示中の外線または内線ボタンを押します。
②ハンドセットを上げるか、スピーカボタンを押します。

●モニタ中の相手の方とお話しするには
決定ボタンを押して、モニタ中の相手先とお話しすることができます。（☛P57）

●録音時間が一定に満たなかったときは
「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

モニタ中の相手の方とお話しするには

モニタ中の留守番電話での録音を終了し、相手の方とお話しすることができます。

1 モニタ中に決定ボタンを押します。

相手の方とお話しできます。

ワンポイント

●**録音時間が一定に満たなかったときは**
「システム設定」によって、録音時間の短い録音を自動で消去するように設定することもできます。

お知らせ

●決定ボタンを押すまでに、モニタ中に録音された内容は音声メールに保存されます。

IVR機能を利用するには

IVR機能とは

音声による自動応答を行う機能のことです。発信者のダイヤル操作に合わせて、あらかじめ録音してある音声をシナリオに沿って自動的に再生し、メッセージ録音、内線呼出や外線転送をすることができます。
この機能を利用することにより、電話受付、商品注文、情報提供や資料請求などの業務に合わせた最適なオリジナルのシナリオを作成することができます。
シナリオの作成は、IVRシナリオ作成メニュー画面の11個のシナリオコマンドを組み合わせて作成（編集）します。また、システムに初期設定されているシナリオを編集して利用することもできます。
1つの音声メールユニットに対し、20のシナリオを登録することができ、1つのシナリオは128行までのシナリオコマンドを組み合わせることができます。
1つのシナリオから別のシナリオを呼び出すこともできますので、高度なシステムを構築することもできます。
また、シナリオへのアクセス数をカウントすることができ、情報提供などのサービスで活用することができます。

操作の流れ

実際のサービスを構築し、実行する操作の流れです。

1 動作フローを作成する（☛P59）

サービスの内容に合わせ、具体的なシナリオの動作フローを作成します。必須ではありませんが、動作フローを作成することにより、次のシナリオコマンドの組み合わせが正確にできます。

2 シナリオコマンドを組み合わせる（☛P60）

作成した動作フローに合わせ、シナリオコマンド（☛P61）を組み合わせます。

3 シナリオを作成（編集）する（☛P64）

組み合わせたシナリオコマンドを電話機から登録します。

4 応答ガイダンスを録音する（☛P67）

シナリオに合わせた応答ガイダンスを録音します。

5 シナリオを確認する（☛P67）

シナリオコマンドが正しく作成されているか、確認します。

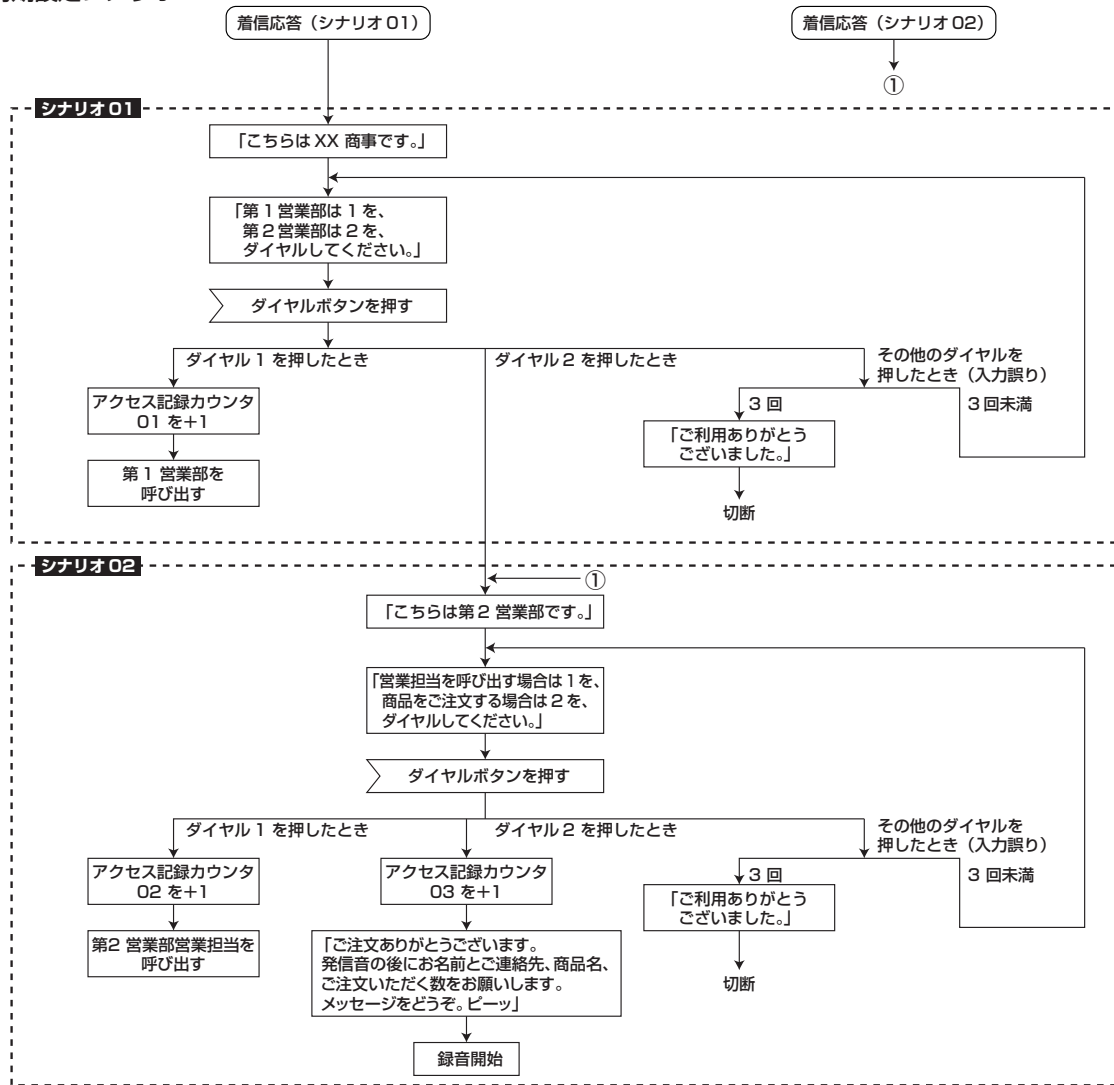
6 IVR機能を利用する（☛P68）

7 IVR機能の利用回数を確認する（☛P69）

動作フローを作成する

サービスの内容に合わせ、具体的なシナリオの動作フローを作成します。
下記の初期設定シナリオの動作フローをご参考にして作成してください。

■ 初期設定シナリオの動作フロー

初期設定シナリオ

ワンポイント

●初期設定シナリオについて

- 初期設定シナリオをご利用になる場合は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお気軽にご相談ください。
- 初期設定シナリオは、シナリオ番号01と02に設定されます。
- 初期設定シナリオは、応答ガイダンスが録音されていませんので、該当するガイダンス番号に録音が必要です。（☛P78）
- ダイヤルを押し間違えた場合の動作フローについては、シナリオを作成する必要はありません。ダイヤルを3回押し、間違えた場合は自動的に切断される動作になります。

IVR機能を利用するには

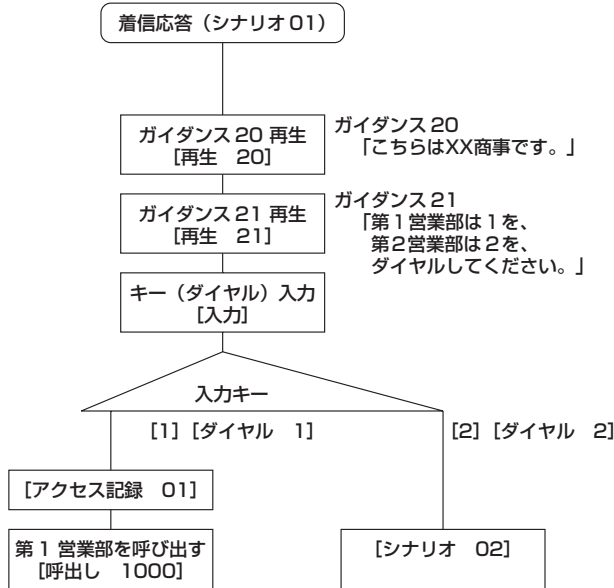
シナリオコマンドを組み合わせる

動作フローに合わせ、シナリオコマンド（☛P61）を組み合わせます。

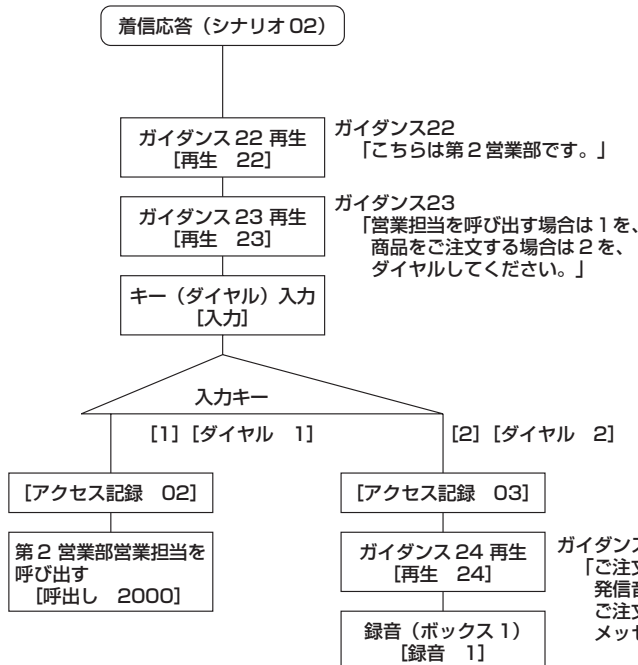
〈初期設定シナリオのフロー図〉

初期設定シナリオ動作フロー（☛P59）からシナリオを作成する場合のフロー図です。初期設定フローと合わせて、シナリオ作成時のご参考としてください。

〈例〉第1営業部の内線番号：1000
　　　第2営業部の内線番号：2000

■シナリオ01

シナリオ01のフロー図をシナリオとして登録できるように作成（編集）したものです。
001：再生　20
002：再生　21
003：入力
004：ダイヤル　1
005：アクセス記録　01
006：呼出し　1000
007：停止
008：ダイヤル　2
009：シナリオ　02
010：停止
011：終了

■シナリオ02

ガイダンス24
「ご注文ありがとうございます。
発信音のあとにお名前とご連絡先、商品名、
ご注文いただく数をお願いいたします。
メッセージをどうぞ。」

シナリオ02のフロー図をシナリオとして登録できるように作成（編集）したものです。
001：再生　22
002：再生　23
003：入力
004：ダイヤル　1
005：アクセス記録　02
006：呼出し　2000
007：停止
008：ダイヤル　2
009：アクセス記録　03
010：再生　24
011：録音　1
012：停止
013：終了

〈シナリオコマンドについて〉

■サイセイ（再生）

〈用途〉

• パラメータ（ガイダンス番号1～99）で指定した応答（共用）ガイダンスを再生します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（1/6）を表示し、1（［再生］を選択）を押します。

②ダイヤルボタンでパラメータ（ガイダンス番号）を入力し、決定ボタンを押して入力を確定します。

■ロクオン（録音）

〈用途〉

• パラメータ（ボックス番号1～516）で指定したメールボックスに録音します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（2/6）を表示し、2（［録音］を選択）を押します。

②ダイヤルボタンでパラメータ（ボックス番号）を入力し、決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

• 次のシナリオコマンドは［停止］または［終了］でなければなりません。

ワンポイント

●ボックス番号について

パラメータで指定するボックス番号は001～516となります。

●シナリオコマンド「録音」で設定するボックス番号について

「システム設定」で音声メールに設定してある範囲外のボックス番号を設定しないでください。
そのボックスに録音した場合、再生することはできません。

■ニュウリョク（入力）

〈用途〉

• ダイヤルボタンの入力を受け付け、［ダイヤル］で指定したダイヤル 0 ～ 9 と一致した場合、その下に続くシナリオを実行します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（5/6）を表示し、2（［入力］を選択）を押します。

②決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

• 前のシナリオコマンドは［再生］でなければなりません。
• 次のシナリオコマンドは［ダイヤル］でなければなりません。
• 1つのシナリオで1回しか使用できません。

ワンポイント

●ダイヤルの入力間違いやタイムアウトになった場合には

IVR機能を利用し［入力］によりダイヤルを押した場合、押したダイヤルに誤りがあると直前のシナリオを繰り返します。またダイヤルを押さずタイムアウト（時間切れ）となった場合も直前のシナリオを繰り返します。3回繰り返しても正常なダイヤル入力がされなかった場合は、「ご利用ありがとうございました。」という応答ガイダンスを流し、終了します。

IVR機能を利用するには

■ダイヤル

〈用途〉

- ［ダイヤル］ 0 ～ 9 で入力された値が、［ニュウリョク］で受け付けたダイヤルと一致した場合、その下に続くシナリオコマンドを実行します。
- シナリオを分岐するときに使用します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（2/6）を表示し、 1 （［ダイヤル］を選択）を押します。

②ダイヤルボタンでパラメータ（ダイヤル番号）を入力し、決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- 次のシナリオコマンドは［停止］、［終了］または［ダイヤル］以外でなければなりません。

■クリカエシ（繰り返し）

〈用途〉

- 直前に実行した［再生］を繰り返し実行し、ガイダンスを繰り返し再生するときに使用します。
- エンドレスで音声案内等を流すときに使用します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（1/6）を表示し、 2 （［繰返し］を選択）を押します。

②決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- 前のシナリオコマンドは［再生］でなければなりません。
- 次のシナリオコマンドは［停止］または［終了］でなければなりません。

■シナリオ

〈用途〉

- パラメータ（シナリオ番号01～20）で指定した他のシナリオを実行します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（4/6）を表示し、 2 （［シナリオ］を選択）を押します。

②ダイヤルボタンでパラメータ（シナリオ番号）を入力し、決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- 次のシナリオコマンドは［停止］または［終了］でなければなりません。

■ヨビダシ（呼出）

〈用途〉

- パラメータ（内線番号）で指定した内線番号を呼び出します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（5/6）を表示し、 1 （［呼出し］を選択）を押します。

②ダイヤルボタンでパラメータ（内線番号）を入力し、決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- 次のシナリオコマンドは［停止］または［終了］でなければなりません。

ワンポイント

●間違った内線番号を入力してシナリオを作成した場合は

IVR機能でそのシナリオを利用した場合は、間違った内線番号の［呼出し］を実行すると「おつなぎできませんでした。ご利用ありがとうございました。」という応答ガイダンス（固定メッセージ）を流し、終了します。

●呼出先がお話し中だった場合は

「おつなぎできませんでした。ご利用ありがとうございました。」という応答ガイダンス（固定メッセージ）を流し、終了します。

■ダイヤルイン

〈用途〉

- 「内線番号とシャープをどうぞ。」の応答ガイダンスを流し、発信者からの内線番号と（#）の入力を受け付けます。
- 入力された内線番号を呼び出します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（3/6）を表示し、（2）（［ダイヤルイン］を選択）を押します。
②決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- 次のシナリオコマンドは［停止］または［終了］でなければなりません。

ワンポイント

●**シナリオ［ダイヤルイン］で誤った内線番号を押した場合は**
IVR機能でそのシナリオを利用した場合、シナリオ［ダイヤルイン］で内線番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。番号を確認してはじめから操作をやり直してください。

●**入力間違いやタイムアウト時に設定された番号を呼び出す**
「システム設定」によりダイヤルを3回間違えた場合や、3回時間切れになった場合に、あらかじめ設定された番号を呼び出すことができます。「システム設定」はシナリオ番号ごとに設定することができます。

■テイシ（停止）

〈用途〉

- ［ダイヤル］で実行したシナリオコマンドを終了します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（3/6）を表示し、（1）（［停止］を選択）を押します。
②決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- ［シナリオ］または［ダイヤル］とセットで使用します。

■シュウリョウ（終了）

〈用途〉

- シナリオを終了します。

〈入力方法〉

①メニュー画面（6/6）を表示し、（1）（［終了］を選択）を押します。
②決定ボタンを押して入力を確定します。

■アクセスキロク（アクセス記録）

〈用途〉

- シナリオのアクセスされた回数を記録するのに使います。
- パラメータ（アクセス記録番号00～99）で指定したアクセス記録番号のアクセス数をカウントします。

〈入力方法〉

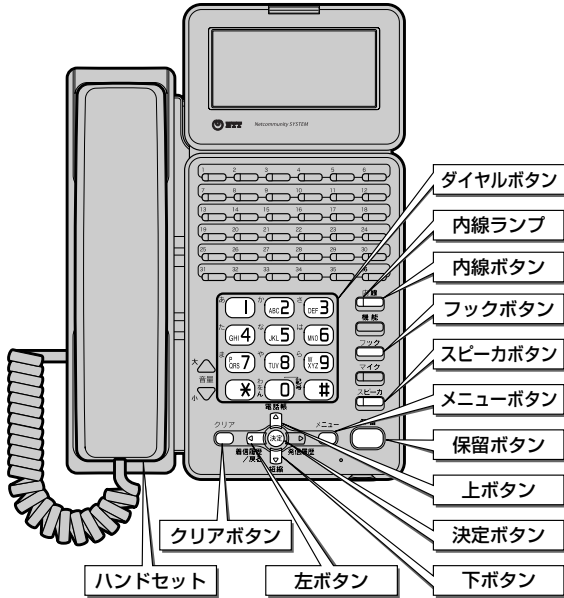
①メニュー画面（4/6）を表示し、（1）（［アクセス記録］を選択）を押します。
②ダイヤルボタンでパラメータ（アクセス記録番号）を入力し、決定ボタンを押して入力を確定します。

〈制限事項〉

- カウントは最大4294967295回とし、最大カウント数まで達した場合は、それ以上カウントしません。

ワンポイント

●**パラメータ（アクセス記録番号）を入力しなかった場合には**
アクセス記録番号「00」が自動的に設定されます。

IVR機能を利用するには

シナリオを作成（編集）する

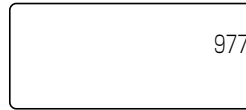
シナリオは、電話機のメニューボタンとダイヤルボタンを使って作成（編集）します。

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

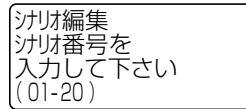
「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

2 IVRシナリオ編集特番（9 7 7 [ ]）を押します。

「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が977の場合

977

3 シナリオ番号（0 1～2 0）を押します。

〈例〉シナリオ番号02を押した場合

ｼﾅﾘｵ編集
ｼﾅﾘｵ番号を
入力して下さい
（01-20）

お知らせ

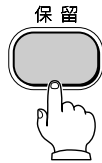
- シナリオの編集は「システム設定」により、シナリオ編集が可と設定された電話機のみ行うことができます。（☛P92）
- 手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。

4 シナリオを作成（編集）します。

1:再生　　　　メニュー1/6
2:繰返し

001-

シナリオ編集中の行（シナリオ編集行）が反転表示します。
ダイヤルボタンを押してシナリオコマンドを入力してシナリオを作成します。
最後まで入力し終わったら、手順5に進みます。

5 保留ボタンを押します。

6 〔1〕を押します。

シナリオ02
保存しますか
1:はい
2:いいえ

7 スピーカボタンを押します。

作成（編集）したシナリオを保存し、シナリオの作成（編集）が終了します。

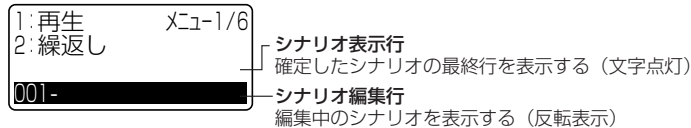
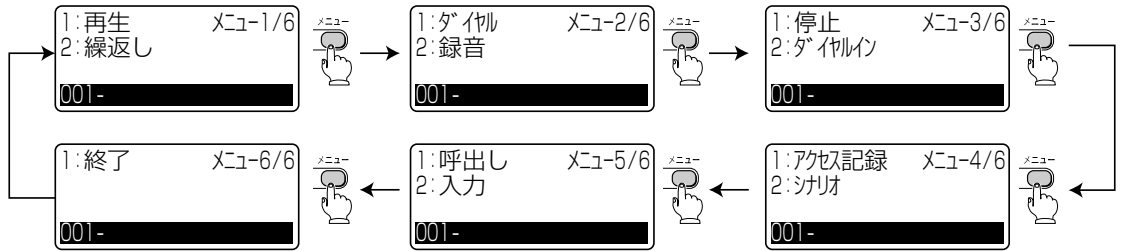
シナリオ02
保存しました
->スピーカボタンを押して
終了して下さい

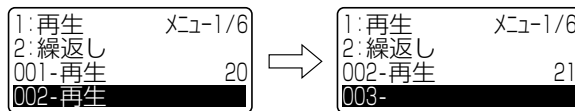
（次ページにつづく）

IVR機能を利用するには

ワンポイント

●IVRシナリオ作成メニュー画面について

IVRシナリオ作成メニュー画面は6画面から構成されています。メニュー画面の切り替えは、下記のメニューボタンを押すたびに1/6→2/6→3/6→4/6→5/6→6/6→1/6…と切り替えることができます。

●入力したシナリオ編集行を確定するには

決定ボタンを押すと入力が確定し、入力した文字がシナリオ表示行に移動します。

●確定した入力を修正するには

①上下ボタンを押し、修正したい行をシナリオ編集行に表示します。

②クリアボタンを押しシナリオ編集行の表示を消したあと、決定ボタンを押すと、入力した行がシナリオから削除されます。

③正しい入力を行います。

●シナリオの途中にシナリオコマンドを追加するには

フックボタンを押すと、表示されているシナリオ編集行の前に1行空白行を追加することができます。

●シナリオ作成（編集）中のシナリオをすべて削除するには

左ボタンを押すと、「全消去しますか　1：はい　2：いいえ」が表示されます。削除する場合は 1 を押します。削除しない場合は 2 を押します。

●シナリオ作成（編集）中に作成したシナリオを保存しない場合には

保留ボタンを押すと、「保存しますか　1：はい　2：いいえ」が表示されます。保存しない場合は 2 を押します。

●シナリオ作成（編集）中に保留ボタンを押した場合には

もう一度、保留ボタンを押すと、以前の作成（編集）中の画面に戻ります。

●シナリオ作成（編集）中にスピーカボタンを押した場合や着信応答した場合には

それまでに作成（編集）したシナリオは自動的に保存されます。ただし、フックボタンを押して、シナリオ追加中の場合、空白行表示中の行は保存されません。

ダイヤルボタン
内線ランプ
内線ボタン
スピーカボタン
メニューボタン
上ボタン
下ボタン
ハンドセット

ワンポイント

●**登録されたシナリオがないときは**
手順3で、「シナリオがありません」と表示されます。

●**IVRシナリオ画面について**
次のように内容が表示されます。

●**IVRシナリオ画面を切り替えるには**
上下ボタンで切り替えます。

応答ガイダンスを録音する

応答ガイダンスの録音は、「共用ガイダンスを録音する」（☛P78）を参照して録音してください。

シナリオを確認する

編集したシナリオを電話機の上下ボタンを使って表示し確認します。

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 IVRシナリオ表示特番（9 7 8 [ ]）を押します。

「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が978の場合

978

3 シナリオ番号（0 1～2 0）を押します。

〈例〉シナリオ番号01を押した場合

ｼﾅﾘｵ表示
ｼﾅﾘｵ番号を
入力して下さい
(01-20) 01

IVRシナリオ画面が表示されます。

001-再生 20
002-再生 21
003-入力
004-ﾀﾞｲﾔﾙ 1

4 スピーカボタンを押します。

シナリオの確認が終了します。

IVR機能を利用するには

IVR機能を利用する

内線や外線からIVR機能を利用することができます。
〈例〉外線からIVR機能を利用する場合

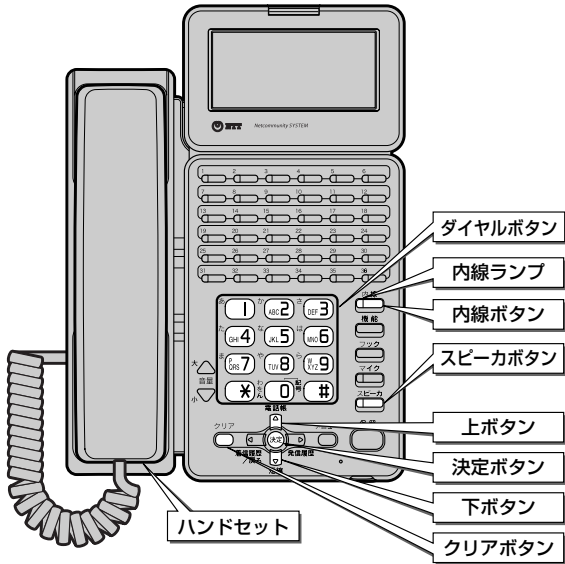
1 「音声メール（IVR応答）」へ電話をかけます。

2 IVR（シナリオ）が応答し、応答ガイダンスが聞こえます。

ガイダンスに従って操作を行います。

3 用件が終わったら、電話を切ります。

お知らせ

- ご利用になったIVRのシナリオに誤りがある場合、音声メールは応答しません。もう一度、編集したシナリオを確認し、正しく入力してからご利用ください。
- IVR応答機能をご利用になる場合、「システム設定」でIVR応答用の番号を設定する必要があります。
- 内線からIVR応答用の番号をダイヤルし、IVR機能をご利用いただくことができます。
- 外線からIVR機能をご利用になる場合はプッシュボタンでダイヤルする必要があります。

IVR機能の利用回数を確認する

シナリオに登録したアクセス記録を読み出し、シナリオのアクセス数を確認することができます。

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 IVRアクセス数集計特番（9 7 9 [ ]）を押します。

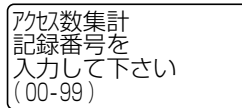
「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が979の場合

979

3 アクセス記録番号（0 0～9 9）を押します。

〈例〉アクセス記録番号01の場合

アクセス数集計
記録番号を
入力して下さい
（00-99）

IVRアクセス数が表示されます。

IVRアクセス数
01- 12345678

利用回数を確認します。

4 スピーカボタンを押します。

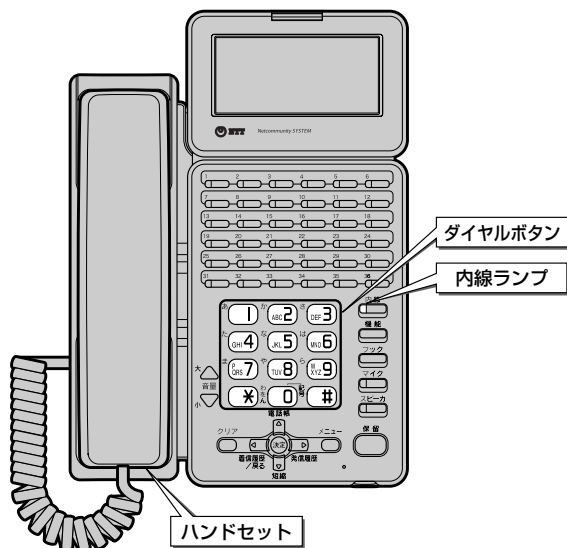
利用回数の確認が終了します。

ワンポイント

●**利用回数（アクセス数）をリセットする（ゼロに戻す）には**
リセットする利用回数（アクセス数）を表示して、クリアボタンを押し、続けて決定ボタンを押します。
リセットが終了すると、次の利用回数（アクセス数）が表示されます。続けてリセットを行う場合は、同様の操作を繰り返します。
利用回数（アクセス数）が表示されているときに、クリアボタンを押すと利用回数（アクセス数）は消えますが、リセットはされません。

●**表示されている利用回数（アクセス数）を切り替えるには**
手順3でIVRアクセス数を表示したあと、上下ボタンでアクセス記録番号を切り替え、他のアクセス数を確認することができます。
上ボタン：前の利用回数（アクセス数）を表示する
下ボタン：次の利用回数（アクセス数）を表示する

暗証番号を登録するには

メール再生用、録音・消去用の暗証番号（4桁）を登録します。暗証番号の登録は、内線電話機から行ってください。

1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

2 「音声メール」の内線番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉内線番号が400の場合

こちらはメールボックスです。再生は1を、録音は2をダイヤルしてください。

3 ＃ を押します。

オンセイメール
＃

設定項目をどうぞ。

4 1 または 2 を押します。

1：メール再生用の暗証番号の登録
2：録音・消去用の暗証番号の登録
〈例〉1 を押した場合

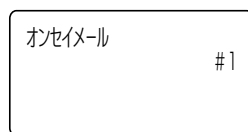
オンセイメール
＃1

内線番号をどうぞ。

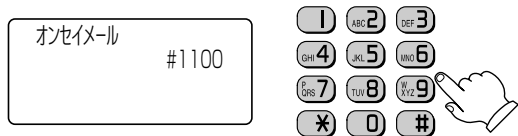
ワンポイント

●暗証番号が設定されていないときは
手順5で、
新しい暗証番号をどうぞ。
というガイダンスが聞こえたら、手順7から行ってください。

お知らせ

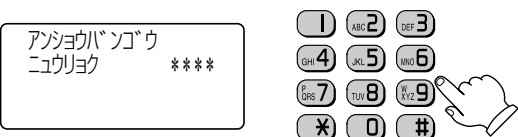
●「システム設定」で、あらかじめ暗証番号を登録することもできます。
●暗証番号、内線番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。暗証番号、内線番号を確認して操作をやり直してください。
●手順4で、1、2 以外のダイヤルボタンを3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。
●ガイダンスの問いかけに対する応答時間は、約6秒間です。応答せずに時間切れが3回になった場合は、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。

5 暗証番号を登録したいボックスの内線番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉内線番号が100の場合

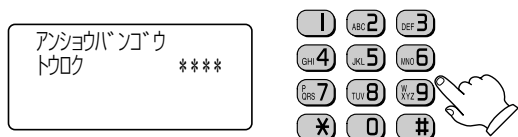
オンセイメール
#1100

現在の暗証番号をどうぞ。

6 登録されている暗証番号をダイヤルボタンで押します。

手順4で 1 を押したときは再生用の暗証番号を、2 を押したときは録音・消去用の暗証番号を押します。

アンショウバンゴウ
ニュウリョク ****

新しい暗証番号をどうぞ。

7 新しい暗証番号をダイヤルボタンで押します。

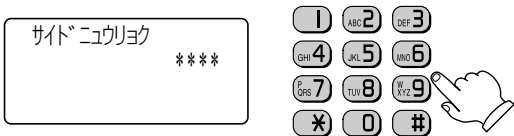
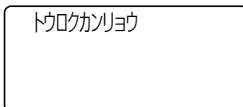
アンショウバンゴウ
トウロク ****

暗証番号を確認します。もう一度、暗証番号をどうぞ。

暗証番号を設定しないときは、0 0 0 0 を押します。

8 もう一度、新しい暗証番号をダイヤルボタンで押します。

サイド ニュウリョク
****

暗証番号を設定しないときは、0 0 0 0 を押します。

トウロクカンリョウ

暗証番号が設定されます。

暗証番号を設定しました。

9 ハンドセットを置きます。

ガイダンス機能を利用するには

留守番電話（☛P50）またはシステムモード（昼・夜・休憩モード等）別外線着信など、電話がかかってきたときの状況に対応した応答ガイダンスを選択して登録することができます。ガイダンスを聞いた方のメッセージの録音もできます。ただし、システムモード別外線着信の機能をご利用になるには、あらかじめ「システム設定」で外線着信時の音声メールとの対応の設定が必要です。
ガイダンスには、下表のように10種類の固定ガイダンス（ガイダンス番号01～10）と、お客様がご自由に録音できるガイダンス（ガイダンス番号11～99）とボックス対応のガイダンス（ガイダンス番号00）があります。
ボックスに対応したガイダンスの場合はガイダンス番号00～99、システムモード別外線着信に対応したガイダンスの場合はガイダンス番号01～99を登録することができます。

ガイダンス番号	ガイダンス内容
0 0	（お客様が録音したオリジナルのガイダンス（☛P76））
0 1	こちらはメールボックスです。メッセージをどうぞ。
0 ABC2	ただ今、離席しております。メッセージをどうぞ。
0 DEF3	ただ今、留守にしております。メッセージをどうぞ。
0 GHI4	本日の業務は終了いたしました。メッセージをどうぞ。
0 JKL5	本日のお取り扱いは終了いたしました。メッセージをどうぞ。
0 MNO6	本日は閉店しました。メッセージをどうぞ。
0 PQRS7	本日は休業しております。メッセージをどうぞ。
0 TUV8	本日は定休日とさせていただきます。メッセージをどうぞ。
0 WXYZ9	ただ今、大変電話が混みあっています。しばらくお待ちください。
1 0	ただ今、大変電話が混みあっています。後ほどおかけ直しください。
1 1 ～ WXYZ9 WXYZ9	（お客様が録音した共用ガイダンス（☛P78））

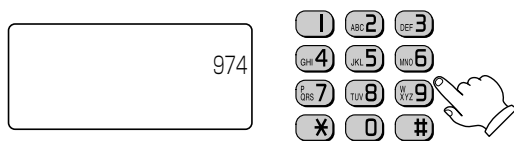
ボックスに対応したガイダンスを登録する

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

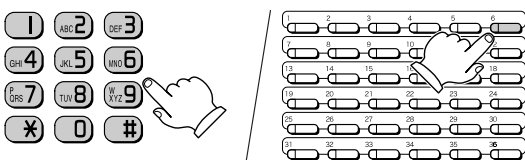
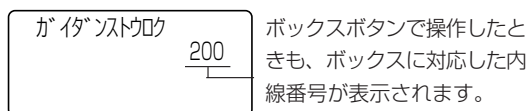
「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

2 ガイダンス登録特番（9 7 4 [ ]）を押します。

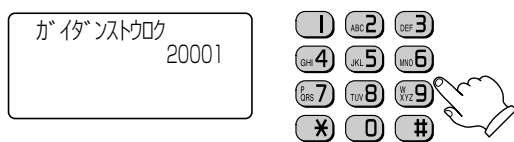
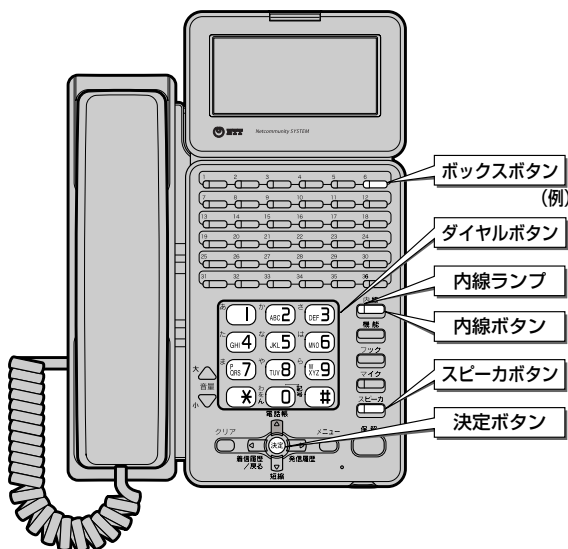
「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が974の場合

974

3 ダイヤルボタンで登録先の内線番号、またはボックスボタンを押します。

〈例〉内線番号が200の場合

ガイダンストウロク
200

ボックスボタンで操作したときも、ボックスに対応した内線番号が表示されます。

4 ガイダンス番号（0 0～9 9）を押します。

〈例〉ガイダンス番号01を登録した場合

ガイダンストウロク
20001

5 決定ボタンを押します。

「ピーピー」という確認音が聞こえます。

6 スピーカボタンを押します。

ガイダンスの登録が終了します。

ワンポイント

●ガイダンスの登録を解除するには
ガイダンスの録音のときに無音で録音し、そのガイダンス番号を登録します。

●お使いの電話機のボックスに登録するときは
手順3で、内線番号の代わりに # を押すこともできます。

お知らせ

- 手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。
- 「システム設定」で、ボックスにガイダンスを登録することができます。
- 操作をボックスボタンで行った場合で、そのボックスボタンに対応した内線番号がシステム設定されていない場合は、ディスプレイの内線番号は「－－－－」と表示されます。

ガイダンス機能を利用するには

ワンポイント

●システムモードについて

手順3で選択できるモードは、下記の5種類です。各モードに対応したガイダンスを登録できます。

・昼　間：平日の昼間モードのときに流れるガイダンス
・夜　間：平日の夜間モードのときに流れるガイダンス
・休　憩：平日の休憩モードのときに流れるガイダンス
・休　日：日曜日など、週間の指定した曜日に流れるガイダンス
・特定日：祝日など、年間の指定した月日に流れるガイダンス

●システムモードの優先順位は

①特定日、②休日、③平日のモード（昼間／夜間／休憩）の順に優先されます。

お知らせ

手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。

システムモードに対応したガイダンスを登録する

システムモード別の外線着信に対応したガイダンスを登録することができます。

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 モード対応ガイダンス登録特番（9 7 5 [　　　]）を押します。

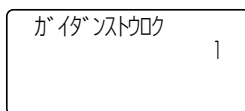
「ププププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が975の場合

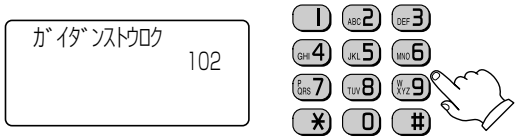
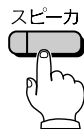
975

3 モード番号（1～5）を押します。

1：昼間
2：夜間
3：休憩
4：休日
5：特定日

〈例〉昼間モードを登録した場合

ｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾄｳﾛｸ
1

4 ガイダンス番号（0 1～9 9）を押します。

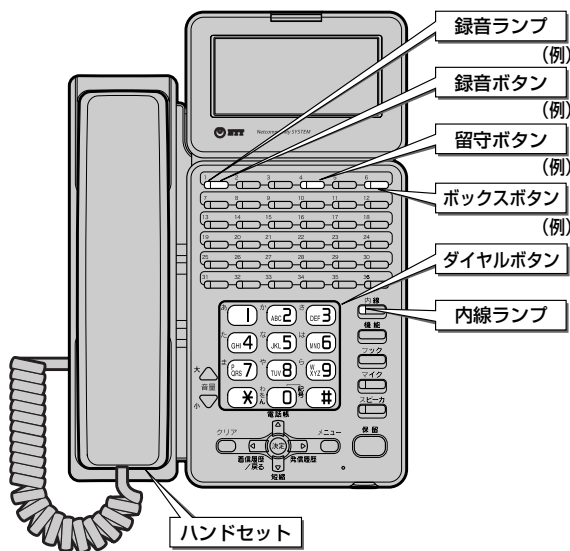
〈例〉ガイダンス番号02を登録した場合

ｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾄｳﾛｸ
102

5 決定ボタンを押します。

「ピーピー」という確認音が聞こえます。

6 スピーカボタンを押します。

ガイダンスの登録が終了します。

ガイダンス機能を利用するには

オリジナルのガイダンスを録音する

オリジナルのガイダンス（ガイダンス番号00）を録音できます。

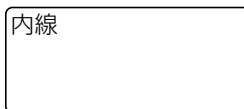
1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 ガイダンス録音特番（9 7 2 [　　]）を押します。

録音ランプが赤で点灯します。
〈例〉特番が972の場合

972

ワンポイント

●**お使いの電話機のボックスにオリジナルのガイダンスを録音するには**

①ハンドセットを上げて、「ツーツー…」という音を確認する
②録音ボタンを押す
③留守ボタンを押す
④ガイダンスをお話しする
⑤ハンドセットを置く

●**録音を一時停止するには**

録音中に ＊ を押すと、
録音を中断しました。
というガイダンスが流れ、録音を一時停止します。
もう一度 ＊ を押すと、
録音を再開しました。
というガイダンスが流れ、再び録音できます。

●**録音を終了するには**

録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、# # を押します。

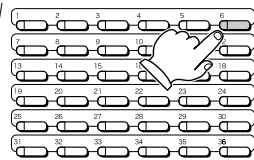
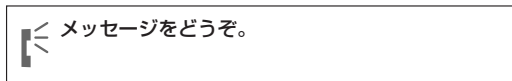
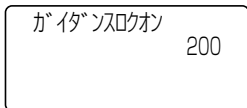
●**一時停止した録音を自動で再開させるには**

「システム設定」で一時停止した録音を自動で再開させることができます。録音を再開した場合、「録音を再開しました」というガイダンスが流れます。（☛P93）

3 ダイヤルボタンで録音先の内線番号、またはボックスボタンを押します。

〈例〉内線番号が200の場合

ｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾛｸｵﾝ
200

メッセージをどうぞ。

お使いの電話機のボックスに録音するときは、内線番号の代わりに # を押すこともできます。

4 録音するガイダンスをお話しください。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

録音ランプが消え、ガイダンスの録音が終了します。

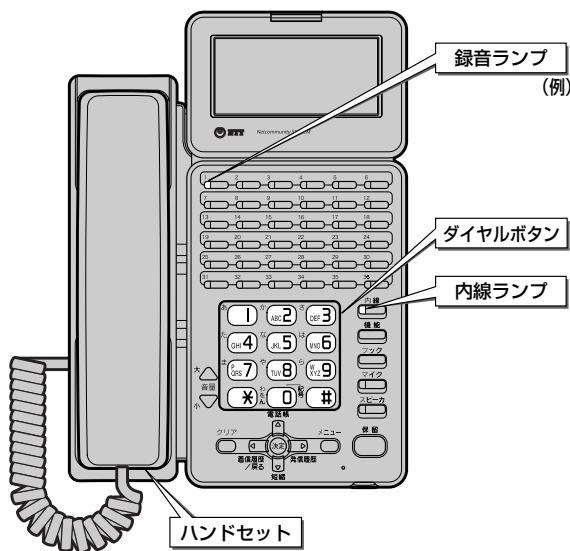
ワンポイント

●**ガイダンスをパソコンに保存するには**
録音したガイダンスをパソコンに保存することができます。(☛P122、P124)

●**パソコンからガイダンスを登録するには**
パソコンに保存されているガイダンスをオリジナルガイダンスとして登録することができます。(☛P119、P121)

お知らせ

●操作をボックスボタンで行った場合で、そのボックスボタンに対応した内線番号がシステム設定されていない場合は、ディスプレイの内線番号は「－－－－」と表示されます。

ガイダンス機能を利用するには

共用ガイダンスを録音する

共用ガイダンスを録音できます。共用ガイダンスは、ガイダンス番号11～99までの89種類を自由に録音できます。録音されたガイダンスは、トーキー接続されたときやシステムモード別の外線着信に応答したときのガイダンスとして利用できます。

1 電話が使用中でないことを確認し、ハンドセットを上げます。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが緑で点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 共用ガイダンス録音特番（9 7 3 [　　　]）を押します。

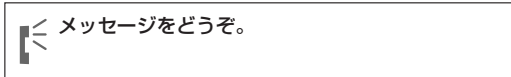
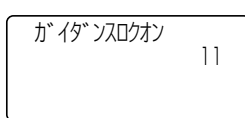
録音ランプが赤で点灯します。
〈例〉特番が973の場合

973

3 録音したいガイダンス番号（1 1 ～ 9 9）を押します。

〈例〉ガイダンス番号11に録音する場合

ガ゛イダ゛ンスロクオン
11

メッセージをどうぞ。

4 録音するガイダンスをお話しください。

5 お話しが終わったら、ハンドセットを置きます。

録音ランプが消え、共用ガイダンスの録音が終了します。

ワンポイント

●**録音を一時停止するには**

録音中に ＊ を押すと、
「録音を中断しました。
というガイダンスが流れ、録音を一時停止します。
もう一度 ＊ を押すと、
「録音を再開しました。
というガイダンスが流れ、再び録音できます。

●**録音を終了するには**

録音中または録音一時停止中に録音を終了したいときは、# # を押します。

●**一時停止した録音を自動で再開させるには**

「システム設定」で一時停止した録音を自動で再開させることができます。録音を再開した場合、「録音を再開しました」というガイダンスが流れます。（☛P93）

●**ガイダンスをパソコンに保存するには**

録音したガイダンスをパソコンに保存することができます。（☛P127）

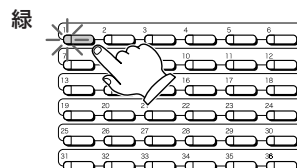
●**パソコンからガイダンスを登録するには**

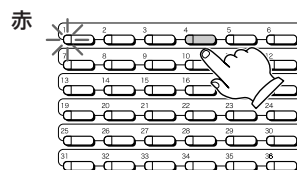
パソコンに保存されているガイダンスを、共用ガイダンスとして登録することができます。（☛P126）

着信を端末操作で音声メールに転送するには

電話がかかってきたときにご自分で応答しないで、音声メールに転送することができます。この機能をご利用になるには、あらかじめ「システム設定」でプリセレクションサービスを設定する必要があります。

1 着信している外線ボタンを押します。

外線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

2 録音ボタンを押します。

外線ランプが点灯し、着信音が鳴りやみます。

3 お使いになっている電話機のボックスに転送されます。

相手の方は、ボックスに登録されているガイダンスを聞き、メッセージを残すことができます。

お知らせ

- 音声メールへの転送操作のあとに、電話で応答することはできません。
- 音声メールへの転送操作のあとは、通常どおり電話機をご使用になれます。
- 以下の場合には、音声メールへの転送操作を行うことはできません。
  - ・プリセレクションされていないとき
  - ・長時間保留警報により着信したとき
  - ・プリセレクション中の外線または内線ボタンに着信したとき
  - ・機能／設定特番操作中
  - ・短縮ダイヤル操作中
  - ・メールの録音／再生／消去時のパスワード入力中
- 通話中にプリセレクション継続時間が経過すると、プリセレクションは解除されます。この状態で録音ボタンを押すと、通話録音となります。
- 通話録音中にプリセレクション継続時間が経過すると、プリセレクションは解除されます。この状態で録音ボタンを押すと、録音は一時停止します。録音を再開したいときは、もう一度録音ボタンを押します。
- 「システム設定」で、プリセレクションサービスを設定しない場合、手順1は通常の外線着信の応答操作となり、この機能はご利用になれません。
- ワンタッチオンフックサービスをご利用になっているときは、手順1のまえに機能ボタンを押してください。

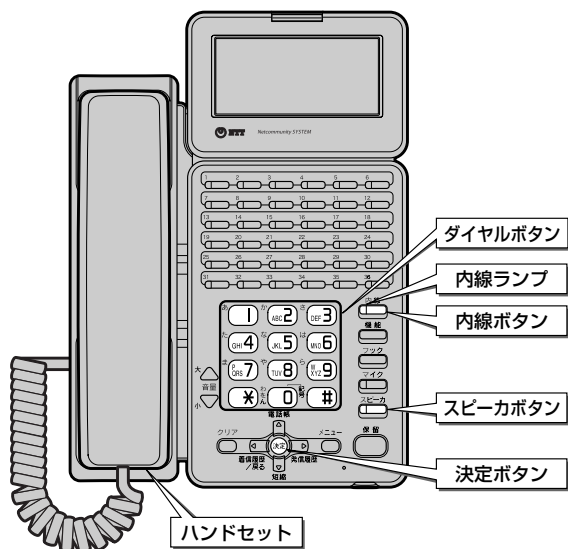
ワンポイント

- **内線ボタンへの着信を音声メールに転送するには**
  手順1で内線ボタンを押し、そのあと録音ボタンを押します。内線ランプは消え、着信音は鳴りやみます。
- **転送できないときは**
  着信中のままの状態で、録音ランプが赤で速く点滅します。

トーキー機能を利用するには

システムモード（昼・夜・休憩モード等）別外線着信などで、電話がかかってきた相手の方に、下表のトーキー内容のガイダンスを繰り返しアナウンスすることができます（メッセージの録音はできません）。この機能をご利用になるには、あらかじめ「システム設定」で外線着信時の音声メールトーキーとの対応の設定が必要です。
トーキーには、下表のように10種類の固定ガイダンス（トーキー番号01～10）と、お客様がご自由に録音して利用できるガイダンス（トーキー番号11～99）があります。
トーキーの登録や登録したトーキーの確認は、「システム設定」で設定されたトーキーの内線番号を利用します。

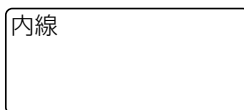
トーキー番号	トーキー内容
0 1	こちらはメールボックスです。
0 ABC2	ただ今、離席しております。
0 DEF3	ただ今、留守にしております。
0 GHI4	本日の業務は終了いたしました。
0 JKL5	本日のお取り扱いは終了いたしました。
0 MNO6	本日は閉店しました。
0 PQRS7	本日は休業しております。
0 TUV8	本日は定休日とさせていただきます。
0 WXYZ9	ただ今、大変電話が混みあっています。しばらくお待ちください。
1 0	ただ今、大変電話が混みあっています。後ほどおかけ直しください。
1 1 ～ WXYZ9 WXYZ9	（お客様が録音した共用ガイダンス（☛P78））

トーキー機能を利用するには

トーキーを登録する

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

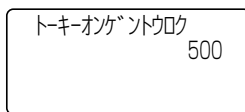
内線

2 トーキー登録特番（WXYZ9 PQRS7 MNO6 [　　　]）を押します。

「ププププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が976の場合

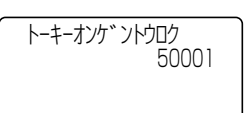
976

3 トーキーの内線番号をダイヤルボタンで押します。

〈例〉トーキーの内線番号が500の場合

トーキーオンゲントウロク
500

4 トーキー番号（0 1〜WXYZ9 WXYZ9）を押します。

〈例〉トーキー番号01を登録した場合

トーキーオンゲントウロク
50001

ワンポイント

● 登録されているトーキーを確認するには
①ハンドセットを上げて、「ツーツー…」という音を確認する
②トーキーの内線番号をダイヤルボタンで押す

お知らせ

● 手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。
● トーキーの録音は、共用ガイダンス録音（☛P78）で行います。

5 決定ボタンを押します。

「ピーピー」という確認音が聞こえます。

6 スピーカボタンを押します。

トーキーの登録が終了します。

内線電話機に転送するには（内線呼出）

外から音声メールに電話をかけて、直接内線電話を呼び出すことができます。

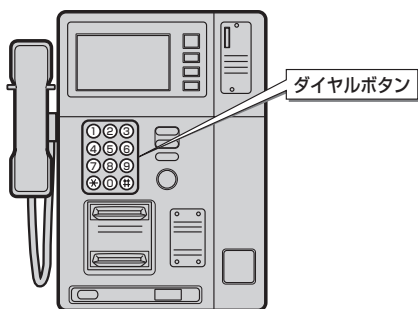
5 転送先の方が出たら、お話しください。

6 お話しが終わったら、電話を切ります。

お知らせ

- ●転送先の呼び出しは、「システム設定」により設定されている時間だけ呼び出し、転送先がお話し中または不在で応答しないときは、内線番号のダイヤル待ちになります。手順3から操作をやり直してください。
  また、ダイヤル待ちが3回を超えると、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。
- ●内線番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。内線番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- ●ガイダンスの問いかけに対する応答時間は、約6秒間です。応答せずに時間切れが3回になった場合は、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。
- ●内線番号を3回間違えた場合や、時間切れが3回になった場合に、あらかじめ設定された番号を呼び出すように、「システム設定」により設定できます。

外線に転送するには　（外線転送）

外から音声メールに電話をかけて、直接外線電話（専用線を含みます）を呼び出すことができます。ただし、ご利用になるには、ダイヤルイン暗証番号（☛P90）が必要です。

ワンポイント

●転送先番号とは
外線発信特番と相手先番号のことです。

お知らせ

●転送先の呼び出しは、「システム設定」により設定されている時間だけ呼び出し、転送先がお話し中または不在で応答しないときは、転送先番号のダイヤル待ちになります。手順4から操作をやり直してください。
また、ダイヤル待ちが3回を超えると、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。
●ダイヤルイン暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。ダイヤルイン暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
●転送先番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。転送先番号を確認して始めから操作をやり直してください。
●ガイダンスの問いかけに対する応答時間は、約6秒間です。応答せずに時間切れが3回になった場合は、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。
●ディジタル回線からディジタル回線に転送するとき以外は、オプションが必要になります。
●番号を3回間違えた場合や、時間切れが3回になった場合に、あらかじめ設定された番号を呼び出すように、「システム設定」により設定できます。

1 「音声メール」へ電話をかけます。

ダイヤリングサービスを行います。サービス番号をどうぞ。

2 ① を押します。

暗証番号と＃をどうぞ。

3 ダイヤルボタンでダイヤルイン暗証番号と ＃ を押します。

転送先番号と＃をどうぞ。

4 ダイヤルボタンで転送先の電話番号と ＃ を押します。

〈例〉転送先の電話番号が0-03-○○○○-××××の場合

外線転送は003○○○○××××ですね。よろしければ0、訂正ならば1をどうぞ。

5 ⓪ を押します。

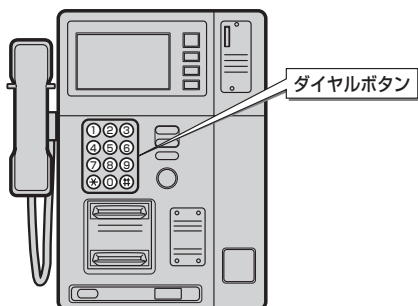
転送します。お待ちください。

6 **転送先の方が出たら、お話しください。**

7 **お話しが終わったら、電話を切ります。**

各種機能にアクセスするには（機能アクセス）

外から音声メールに電話をかけて、次の機能を設定できます。
- 昼間モードの切り替え
- 夜間モードの切り替え
- 休憩モードの切り替え
- システムモードの手動解除
- 留守番電話の起動（☛P53）
- 留守番電話の起動解除（☛P53）
- 留守番電話応答ガイダンスの設定

ご利用になるには、ダイヤルイン暗証番号（☛P90）が必要です。

1 「音声メール」へ電話をかけます。

ダイヤリングサービスを行います。サービス番号をどうぞ。

2 ③を押します。

暗証番号と＃をどうぞ。

3 ダイヤルボタンでダイヤルイン暗証番号と㊊を押します。

サービス番号と＃をどうぞ。

4 ダイヤルボタンで機能アクセスのサービス番号と㊊を押します。

〈例〉サービス番号が○○○の場合

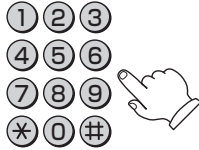
サービス番号は○○○ですね。よろしければ０、訂正ならば1をどうぞ。

お知らせ

- ダイヤルイン暗証番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。ダイヤルイン暗証番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- 機能アクセスのサービス番号を3回間違えて押すと、音声メールから切断されます。機能アクセスのサービス番号を確認して始めから操作をやり直してください。
- ガイダンスの問いかけに対する応答時間は、約6秒間です。応答せずに時間切れが3回になった場合は、音声メールから切断されます。始めから操作をやり直してください。
- 機能アクセスにより留守番電話の起動を行った場合は、着信中の回線には留守番電話で応答しません。

5 ⓪を押します。

サービスを要求します。
お待ちください。

①②③
④⑤⑥
⑦⑧⑨
⊛⓪#

6 サービス受付が完了します。

サービスを受け付けました。ご利用ありがとうございました。

7 電話を切ります。

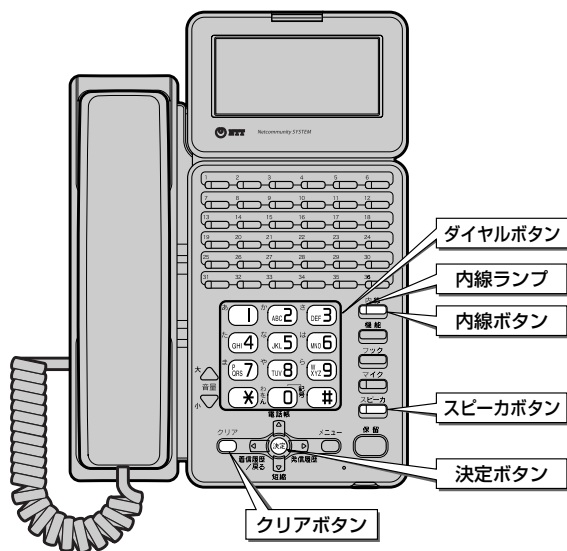
ワンポイント

●機能アクセスのサービス番号について

手順4で、各種機能にアクセスするサービス番号は、下記のとおりです。

- 昼間モードの切り替え：⑨⑤①［　　］
- 夜間モードの切り替え：⑨⑤②［　　］
- 休憩モードの切り替え：⑨⑤③［　　］
- システムモードの手動解除：⑨⑤⓪［　　］
- 留守番電話の起動：⑨⑦⓪［　　］
- 留守番電話の起動解除：⑨⑦①［　　］
- 留守番電話応答ガイダンスの設定：⑨⑦④［　　］

ダイヤルイン暗証番号を設定するには

外線転送サービス（☛P86）や機能アクセスサービス（☛P88）をご利用になるときに必要なダイヤルイン暗証番号を設定します。ダイヤルイン暗証番号は、「IDコード（4～8桁）」と「ユーザ暗証番号（4桁）」を合わせた番号（8～12桁）です。

1 ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。

「ツーツー…」という音を確認してください。
内線ランプが点灯し、周期的に2回消えます。

内線

2 決定ボタンを押します。

「ツツツ…」という音を確認してください。

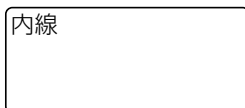
内線

3 ユーザ暗証番号設定特番（＊ 0 [ ]）を押します。

「プププププ」という音を確認してください。
〈例〉特番が＊0の場合

＊0

4 IDコード（4～8桁）をダイヤルボタンで押します。

ﾕｰｻﾞ ｱﾝｼｮｳﾊﾞﾝｺﾞｳ
12345678

ワンポイント

●**手順2で決定ボタンを押さずにダイヤルイン暗証番号を設定するには**

①手順1のあと、ユーザ暗証番号特番（9 1 4 [ ]）を押す
②IDコード（4～8桁）をダイヤルボタンで押す
③現在のユーザ暗証番号（4桁）をダイヤルボタンで押す
④新しいユーザ暗証番号（4桁）をダイヤルボタンで押す
⑤決定ボタンを押す
⑥スピーカボタンを押す

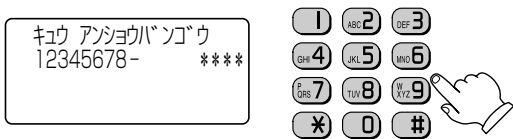
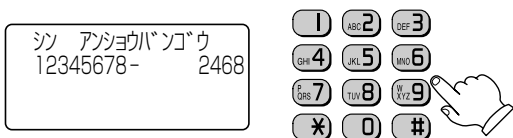
お知らせ

●手順1でプリセレクションサービスを利用されている場合は、内線ボタンに続いてスピーカボタンを押してください。利用されていない場合はそのまま手順2へ進んでください。
●IDコードの桁数とIDコード（4～8桁）は、「システム設定」で設定した値となります。
●ユーザ暗証番号（4桁）は「システム設定」であらかじめ登録することもできます。（☛P92）

5 現在登録されているユーザ暗証番号（4桁）をダイヤルボタンで押します。

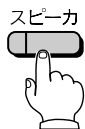
キュウ アンショウバンゴウ
12345678-　　　****

6 新しいユーザ暗証番号（4桁）をダイヤルボタンで押します。

シン　アンショウバンゴウ
12345678-　　　2468

7 決定ボタンを押します。

「ピーピー」という確認音が聞こえます。

8 スピーカボタンを押します。

ダイヤルイン暗証番号が設定されます。

ワンポイント

●**ユーザ暗証番号を消去するには**
現在登録されているユーザ暗証番号を消去する場合は、手順6でクリアボタンを押し、手順7から行ってください。

●**暗証番号の設定を途中で止めるには**
手順7で決定ボタンを押す前にスピーカボタンを押します。

お知らせ

●ここでは、すでにIDコードと暗証番号が設定されている場合について説明しています。
IDコードに現在の暗証番号が設定されていない場合、手順5は省略となります。手順6から操作を行ってください。

システム設定によりご利用になれる機能

音声メールの機能には、お客様が登録・設定できる機能のほか、システムの設置時にあらかじめ「システム設定」で登録・設定しておくと便利にお使いになれる機能が多数あります。また、いろいろな機能を利用するための番号があらかじめ「システム設定」により決められています。「システム設定」を行いたいときや、変更したいときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へお気軽にご相談ください。

	機　能	システム設定項目	ページ
お話しを録音する	自動的にお話しを録音する	自動通話録音対象	☛P93
	1メールの録音時間を設定する	VM録音最大時間 VM録音最大時間時処理	☛P93
	1ボックスに録音できるメールの件数を設定する	メールボックスデータ	☛P93
	通話録音が終了したときにメールを自動的に保存する	自動通話録音終了時メール保存終了	☛P93
	メールに付加するコメントの位置を設定する	VMコメント位置指定	☛P93
	一時停止した録音を自動で再開する	ポーズ解除タイマ	☛P93
メールを送る	かかってきた電話をボックスへ転送する	端末未応答話中通知 EK未応答話中通知	☛P94
	メールを転送したあとにもとのボックスにメールを保存する	転送時メール保存設定	☛P94
	1回のメール到達通知時に呼び出す時間	VM到着通知発信呼出時間	☛P94
	メール到達通知する回数	VM到着通知発信回数	☛P94
	メール到達通知の間隔	VM到着通知発信周期時間	☛P94
	メール到達時、ボックスランプまたは再生ランプを点灯させる	VM到着表示	☛P94
メールを再生／消去する	メールを録音／再生し、転送したあとに録音／再生中のボックスにメールを保存する	転送時メール保存設定	☛P94
	メールを再生したあとに録音日時と相手の方の番号をガイダンスで流す	VMタイムスタンプ	☛P94
	メール再生から次のメールを再生するまでの（無音の）時間を設定する	メール再生間隔タイマ	☛P94
	メールを自動的に消去する	VM保存日数 VM自動消去時刻	☛P94
その他	外線から音声メールへ電話をかけてサービスを受ける	DSAサービス設定 IDコード ID暗証番号	☛P95
	複数のボックスをまとめて、同報ボックスとする	VM同報ボックス	☛P95
	音声メールを複数実装した場合のボックスの割付け	メールボックスデータ VM同報ボックス	☛P95
	回線へのボックスの割当て	TR対応ボックス指定	☛P95
	留守番電話が応答したとき他の電話機に転送する	録音メール到着通知先	☛P95
	留守応答中の通話をモニタし、相手の方との通話に切り替える	留守番電話モニタ割込可否	☛P95
	システムモードに対応したガイダンスを設定する	VMモード対応ガイダンス	☛P95
	録音時間の短いメールを無効とし消去する	録音ガード時間	☛P95
	ダイヤルイン暗証番号を設定する	IDコード定義	☛P90
	IVRシナリオを作成（編集）する	IVRシナリオ編集可否	☛P64

お話しを録音する

■自動的にお話しを録音する

自動的にお話しを録音するには、下のどの条件で録音を開始するのかを設定します。

- 電話をかけて、相手の方とお話しを始めたときから録音する
- かけてきた相手の方とお話しを始めたときから録音する
- 転送されてきた電話の相手の方とお話しを始めたときから録音する

■1メールの録音時間を設定する

1つのメールを録音できる最大時間を1〜30分または制限なしに、設定することができます。
メールの録音中に、設定した最大時間を超えた場合の処理を次のどちらかに設定することができます。

- 通話録音を終了する（続けて録音したい場合は、録音ボタンを押すと、新しいメールとして録音を開始する）
- 通話録音時間を経過した時点で、それまでの録音内容は消去され、続けて録音される

■メールに付加するコメントの位置を設定する

メールの先頭または末尾にコメントを付けるように設定することができます。

■1ボックスに録音できるメールの件数を設定する

1ボックスに録音できるメールの件数を設定することができます。
最大255件まで設定できます。

■通話録音が終了したときにメールを自動的に保存する

通話録音が終了したときにメールをボックスに保存するか否かを設定することができます。「保存する」に設定したときは、メールは使用した電話機に対応したボックスに保存されます。
メールを転送したときは、設定に関係なく、転送先の電話機に対応したボックスに保存されます。

■一時停止した録音を再開する

一時停止した録音を自動で再開する時間を10〜255秒に設定することができます。指定しない場合は自動で録音は再開されません。ただし、自動通話録音（☛P18)および手動通話録音（☛P22）で録音を一時停止した場合、設定は無効となります。

システム設定によりご利用になれる機能

メールを送る

■かかってきた電話をボックスへ転送する

かかってきた電話に応答しないまま一定時間経過後、指定したボックスに転送したり、お話し中のときにかかってきた電話を指定したボックスに転送することができます。

■メールを転送したあとにもとのボックスにメールを保存する

録音／再生したメールを転送したときに、録音／再生中のボックスにメールを保存するかどうかを設定することができます。

設　定	保存先のボックス	
	録音／再生後	録音／再生後に転送したとき
保存する	録音／再生したメールはそのまま保存される	録音／再生したメールは消去されない 転送したメールは転送先のボックスに保存される
保存しない	録音／再生したメールはそのまま保存される	録音／再生したメールは消去される 転送したメールは転送先のボックスに保存される

■1回のメール到達通知時に呼び出す時間

メールが録音されたことを知らせる着信音が鳴り続ける時間を設定することができます。

■メール到達通知する回数

メール到達通知を行う回数を設定することができます。24回まで設定できます。0回に設定すると、メールが着信したことを通知しません。

■メール到達通知の間隔

メール到達通知回数を複数回に設定したときに、通知する間隔を1～60分の間隔で設定することができます。

■メール到達時、ボックスランプまたは再生ランプを点灯させる

ボックスに新しいメールが録音された場合に、ボックスボタンまたは再生ボタンのランプが点灯するように設定できます。

また、メール再生後のボックスボタンまたは再生ボタンのランプの状態を設定することができます。設定できる状態は次のとおりです。

・常時点灯しない
・ボックス内に未再生メールがあったときに緑で点滅する
・ボックス内にメールがあったときに緑で点滅する
・メール再生で消える。そのあと新しいメールが到達すると、再び緑で点滅する

メールを再生／消去する

■メールを録音／再生し、転送したあとに録音／再生中のボックスにメールを保存する

録音／再生し、転送が終了したときに、メールを録音／再生中のボックスに保存するかどうかを設定することができます。

設　定	保存先のボックス	
	録音／再生後	録音／再生後に転送したとき
保存する	録音／再生したメールはそのまま保存される	録音／再生したメールは消去されない 転送したメールは転送先のボックスに保存される
保存しない	録音／再生したメールはそのまま保存される	録音／再生したメールは消去される 転送したメールは転送先のボックスに保存される

■メールを再生したあとに録音日時と相手の方の番号をガイダンスで流す

メールを再生したあとに、そのメールが録音された日時と相手の方の電話番号が流れるように設定することができます。

■メール再生から次のメールを再生するまでの（無音の）時間を設定する

メールを再生したあとに次のメールを再生するまでの時間（なし、1～255秒）を設定することができます。

■メールを自動的に消去する

ボックスに保存しているメールを自動的に消去するように設定できます。

設定した保存日数経過後、設定した自動消去時刻になると、メールは消去されます。自動消去をしない設定にすることもできます。

ただし、バックアップしたメールは自動的に消去できません。

その他

■外線から音声メールへ電話をかけてサービスを受ける

「システム設定」すると、内線からかけたときと同じように音声メールのサービスをご利用になれます。

・外線を利用してメールを送る（☛P28）
・外線を利用してメールを再生する（☛P40）
・外線を利用してメールをバックアップする

■複数のボックスをまとめて、同報ボックスとする

最大16ボックスをまとめて、1つのボックスとみなすことができます。
同報ボックスにメールを送ると、同じメールを一度に同報ボックスに登録されている複数のボックスに送ることができます。

■音声メールを複数実装した場合のボックスの割付け

1つの主装置に複数の音声メールを装着することができます。ボックス番号は、主装置に装着されている音声メール全体で、001～516まで付けることができます。

〈例〉

ボックス番号…	001～200	201～400	401～500
(同報ボックス)…	(501～505)	(506～510)	(511～516)
	音声メール A	音声メール B	音声メール C

※内線ボックス、外線ボックス、共通ボックスのボックス番号は001～500、同報ボックスのボックス番号は501～516がお使いになれます。

■回線へのボックスの割当て

電話回線ごとにボックスを登録することができます。
かかってきた回線のボックスにメールが録音されます。

■留守番電話が応答したとき他の電話機に転送する

留守番電話が応答したとき、メッセージを録音するか、またはメール録音通話切替特番のダイヤルを押して、他の電話機を呼び出すことができます。
次のような場合は、転送されず、応答した音声メールのボックスにメッセージが録音されます。

・グループ間接続規制などにより転送先を接続できないとき
・転送先内線を決定できないとき
・転送先がお話し中のとき

■留守応答中の通話を聞く（モニタする）、モニタ中の相手と通話する

指定した留守応答中の通話をモニタ（聞く）したり、モニタ中の相手の方と通話することができます。
また、モニタ可能な留守応答中の通話を外線または内線ランプを点滅（緑）させて通知します。

■システムモードに対応したガイダンスを設定する

次のモードごとに流れるガイダンスを設定することができます。

〈モードの種類〉

・昼間
・夜間
・休憩
・休日
・特定日

■録音時間の短いメールを無効とし消去する

録音時間の短いメールを、自動消去する為の時間を設定します。
設定は、消去しない、1～5秒の選択ができます。
また、この設定はコメントの録音に対しても有効となります。

システム設定によりご利用になれる機能

各種機能を利用するための特番一覧

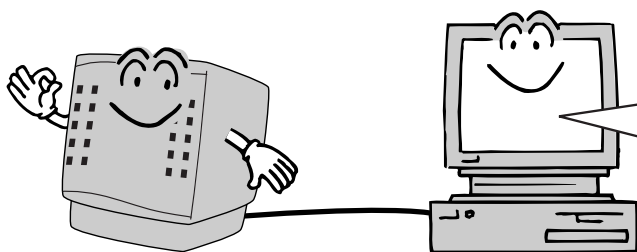
以下の機能にはあらかじめ特番が設定されています。操作方法については参照先をご覧ください。
(「システム設定」により変更ができます。)

名　称	機　能	番　号	参照先
自動通話録音モード解除特番	自動通話録音モードを解除する	9 6 7 [ ]	☛P19,21
自動通話録音モード設定特番	自動通話録音モードを設定する	9 6 6 [ ]	☛P19,21
メール送信特番	メールを送信する	9 6 1 [ ]	☛P27
メール到達通知先設定特番	メールの到達通知先を設定する	9 6 3 [ ]	☛P32
メール到達通知起動特番	メール到達通知の機能を起動する	9 6 4 [ ]	☛P34
メール到達通知停止特番	メール到達通知の機能を停止する	9 6 5 [ ]	☛P36
メール再生特番	メールを再生する	9 6 0 [ ]	☛P39
留守番電話起動特番	留守番電話を起動する	9 7 0 [ ]	☛P53
留守番電話解除特番	留守番電話の起動を解除する	9 7 1 [ ]	☛P53
メール録音通話切替特番	メール録音中に他の電話機を呼び出す	9 6 2 [ ]	☛P54
ガイダンス登録特番	ボックスに対応したガイダンスを登録する	9 7 4 [ ]	☛P73
モード対応ガイダンス登録特番	システムモード対応のガイダンスを登録する	9 7 5 [ ]	☛P74
ガイダンス録音特番	ガイダンスを録音する	9 7 2 [ ]	☛P76
共用ガイダンス録音特番	共用ガイダンスを録音する	9 7 3 [ ]	☛P78
トーキー登録特番	トーキーを登録する	9 7 6 [ ]	☛P82
ユーザ暗証番号特番	ダイヤルイン暗証番号のユーザ暗証番号を登録する	9 1 4 [ ]	☛P90
ユーザ暗証番号設定特番	ダイヤルイン暗証番号のユーザ暗証番号を決定ボタンを使って登録する	決定ボタン＋ * 0 [ ]	☛P90
IVRシナリオ編集特番	シナリオを作成(編集)する	9 7 7 [ ]	☛P64
IVRシナリオ表示特番	シナリオを確認する	9 7 8 [ ]	☛P67
IVRアクセス数集計特番	シナリオへのアクセス回数を確認する	9 7 9 [ ]	☛P69

PC操作編

特　長

音声メールで録音された内容をパソコンで管理

主装置に収容された音声メールユニットとパソコンとをLAN接続することにより、パソコンのWebブラウザを使って音声メールを管理できます。
PC操作を行うには、一般ユーザまたはユーザ管理者でログインします。

録音メッセージのダウンロード

メールボックスに保存されている録音メッセージとコメントをwaveファイルとしてパソコンにダウンロードすることができます。

録音メッセージの消去

メールボックスに保存されている録音メッセージとコメントをパソコンから消去できます。

個別ガイダンスの管理

メールボックスに保存されている個別ガイダンスをパソコンにダウンロードできます。また、パソコンから個別ガイダンスをアップロードすることも可能です。

共用ガイダンスの管理（ユーザ管理者のみ）

メールボックスに保存されている共用ガイダンスをパソコンにダウンロードできます。また、パソコンから共用ガイダンスをアップロードすることも可能です。

音声メールの保守（ユーザ管理者のみ）

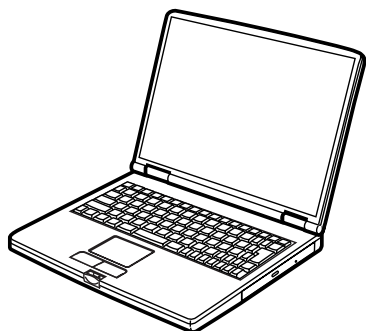
パソコンから音声メール機能をリセットしたり、VMUメモリをフォーマットすることができます。

パソコンの接続

パソコンと主装置に収容されている音声メールユニットを接続するには、パソコンとLANケーブルが必要です。
パソコンのLANポートと音声メールユニットのLANポートをLANケーブルで接続してください。

お客様にご用意いただくもの

• パソコン

10BASE-Tまたは100BASE-T／100BASE-TXに対応したLANポートを備えていることをご確認ください。

• LANケーブル

市販のLANケーブルをご用意ください。

動作環境について

主装置に収容された音声メールユニットにLAN接続したパソコンでWebブラウザを起動し、パソコンの画面で音声ファイルのアップロード／ダウンロードや、音声メールユニットが保持しているシステムデータの管理が行えます。
PC操作を行うには、次の動作環境が必要です。

項　目	条　件
同時接続台数	1台
OS	Windows XP Home Edition（SP1またはSP2）
	Windows XP Professional（SP1またはSP2）
	Windows 2000 Professional（SP4）
推奨ブラウザ	Internet Explorer 6.0（SP1またはSP2）、Firefox version 2
解像度	XGA以上
文字サイズ	「中」以下
文字コード	Shift-JIS

Webブラウザの設定

本商品の設定は、パソコンのWebブラウザで行います。
お使いのWebブラウザでJavaScriptが利用可能になっていることを確認してください。
以下は、Internet Explorer6.0で確認する方法を説明しています。

1 **Internet Explorerを起動します。**

2 **「ツール」メニューの「インターネットオプション」をクリックします。**

3 **「セキュリティ」タブをクリックし、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。**

4 **「スクリプト」の項目で、「アクティブスクリプト」の設定が「有効にする」になっていることを確認し、「キャンセル」をクリックします。**

5 **「インターネットオプション」画面の「キャンセル」をクリックします。**

お知らせ

●アクティブスクリプトの設定が「有効にする」になっていないと、利用メニューから各機能をクリックしてもエラーメッセージが表示されて、ご利用になれません。

画面の流れ

一般ユーザの基本的な画面の流れを説明します。

一般ユーザ

トップメニュー

↓ 「一般ユーザ」をクリック

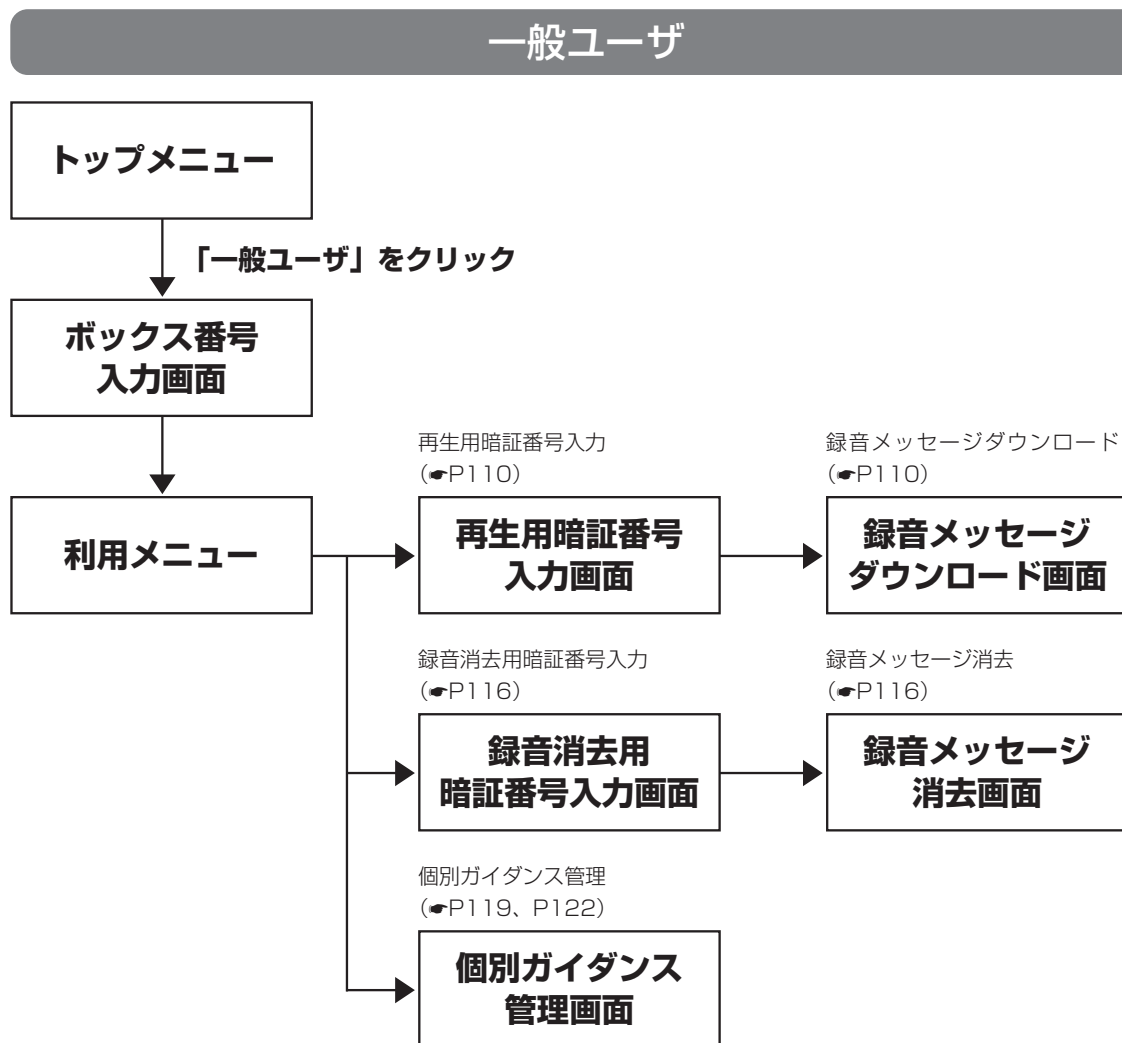
ボックス番号入力画面

↓

利用メニュー

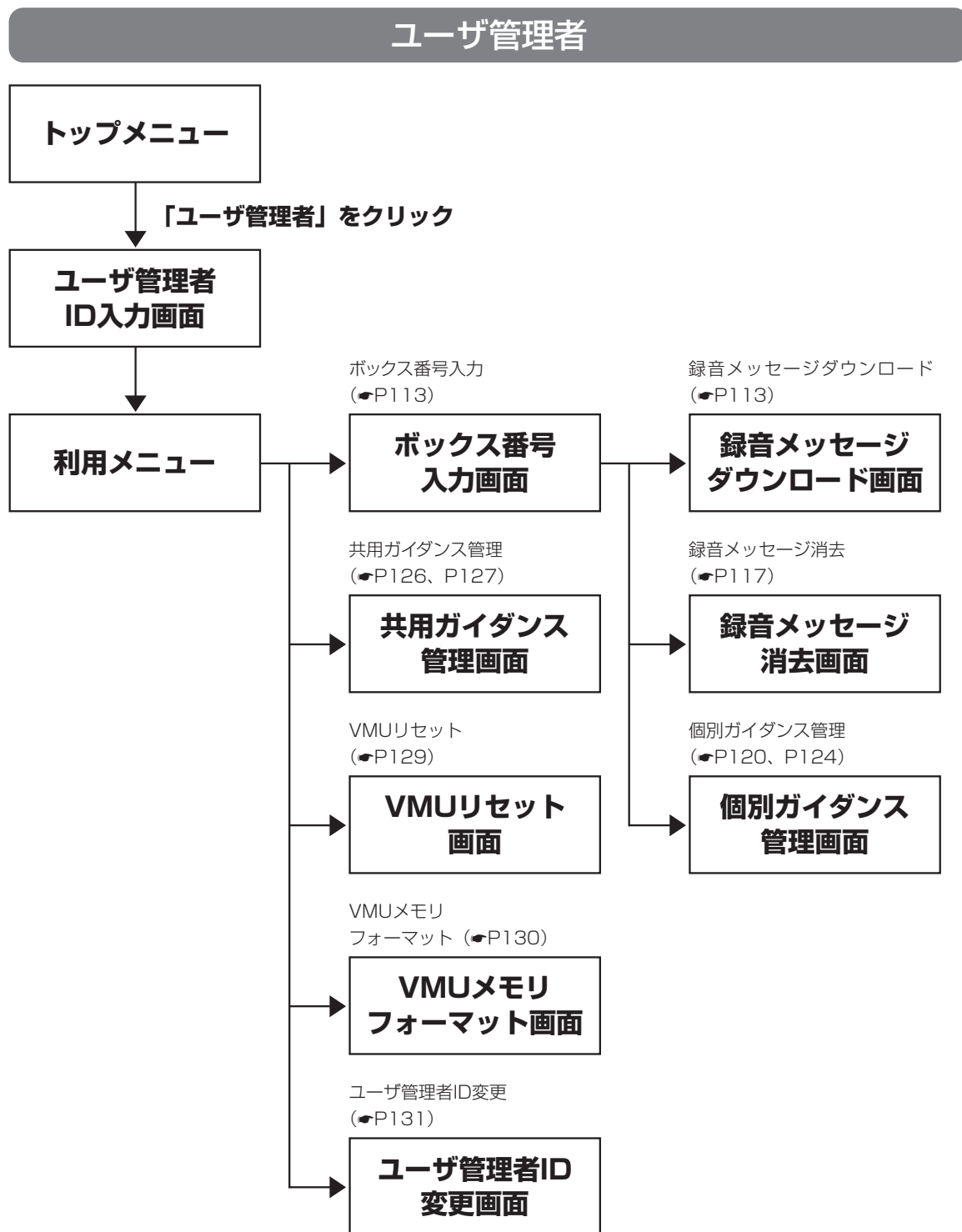
→ 再生用暗証番号入力画面（再生用暗証番号入力（☛P110））→ 録音メッセージダウンロード画面（録音メッセージダウンロード（☛P110））

→ 録音消去用暗証番号入力画面（録音消去用暗証番号入力（☛P116））→ 録音メッセージ消去画面（録音メッセージ消去（☛P116））

→ 個別ガイダンス管理画面（個別ガイダンス管理（☛P119、P122））

お知らせ

●再生用暗証番号／録音消去用暗証番号が設定されていない場合には、再生用暗証番号入力画面／録音消去用暗証番号入力画面は、表示されません。

画面の流れ

ユーザ管理者の基本的な画面の流れを説明します。

お知らせ

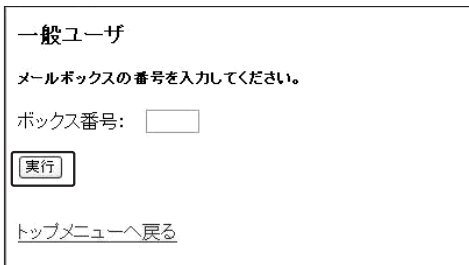
●ユーザ管理者で録音メッセージのダウンロードや録音メッセージの消去を行った場合、再生用暗証番号／録音消去用暗証番号が設定されていても、再生用暗証番号／録音消去用暗証番号の入力画面は表示されません。

ログインするには

パソコンでWebブラウザを起動し、ログインします。一般ユーザはメールボックスの番号、ユーザ管理者はユーザ管理者IDを入力してログインします。
一般ユーザは、操作の一部が制限されています。

一般ユーザとしてログインする

一般ユーザとしてログインし、一般ユーザの利用メニューを表示します。

1 **Webブラウザを起動し、音声メールユニットのIPアドレスを入力し、[Enter]キーを押します。**

2 **トップメニューで、「一般ユーザ」をクリックします。**

Voice Mail Unit Top Menu

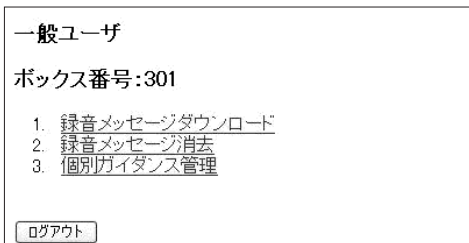
1. 一般ユーザ
2. ユーザ管理者

3 **メールボックスの番号を入力し、「実行」をクリックします。**

一般ユーザ

メールボックスの番号を入力してください。

ボックス番号:

実行

トップメニューへ戻る

一般ユーザの利用メニューが表示されます。

一般ユーザ

ボックス番号:301

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理

ログアウト

ワンポイント

●ログアウトするには
PC操作を終了するときは、各画面の「ログアウト」をクリックします。「ログアウト」をクリックしないで止めた場合、一定時間音声メールユニットに接続できなくなります。その場合しばらく待ってから操作してください。

●1つ前の画面に戻るには
Webブラウザの「戻る」ボタンをクリックします。

お知らせ

●手順3で「実行」をクリックしたときに他の人が使用していると「利用中のユーザがいるため、現在は利用できません。」や「ページを表示できません。」が表示されます。その場合は他の人がログアウトをして使用を止めてから操作してください。
また、使用中に新たなWebブラウザを起動し操作した場合も同様な表示がされます。複数の画面を開いて操作しないでください。
●手順3で「実行」をクリックして画面が切り替わったあと、一定時間操作しないと「タイムアウトになりました。再度ログインしてください。」が表示されます。再度、手順3の操作をしてください。
●IPアドレスの設定や変更を行う場合は、当社のサービス取扱所または販売店にご相談ください。
●音声メールのIPアドレスについては忘れないようにご注意ください。IPアドレスを忘れるとパソコンから音声メールを利用できなくなります。IPアドレスを忘れた場合は、当社のサービス取扱所または販売店にご相談ください。

ログインするには

ユーザ管理者としてログインする

ユーザ管理者としてログインし、ユーザ管理者の利用メニューを表示します。

1 **Webブラウザを起動し、音声メールユニットのIPアドレスを入力し、[Enter] キーを押します。**

2 **トップメニューで、「ユーザ管理者」をクリックします。**

Voice Mail Unit Top Menu

1. 一般ユーザ
2. ユーザ管理者

3 **ユーザ管理者IDを入力し、「実行」をクリックします。**

ユーザ管理者

利用者権限を認証しますので、ユーザ管理者IDを入力してください。

ユーザ管理者ID:

トップメニューへ戻る

ユーザ管理者の利用メニューが表示されます。

ユーザ管理者

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理
4. 共用ガイダンス管理
5. VMUリセット
6. VMUメモリフォーマット
7. ユーザ管理者ID変更

ログアウト

ワンポイント

●**ログアウトするには**
PC操作を終了するときは、各画面の「ログアウト」をクリックします。「ログアウト」をクリックしないで止めた場合、一定時間音声メールユニットに接続できなくなります。その場合しばらく待ってから操作してください。

●**1つ前の画面に戻るには**
Webブラウザの「戻る」ボタンをクリックします。

お知らせ

●手順3で「実行」をクリックしたときに他の人が使用していると「利用中のユーザがいるため、現在は利用できません。」や「ページを表示できません。」が表示されます。その場合は他の人がログアウトをして使用を止めてから操作してください。
また、使用中に新たなWebブラウザを起動し操作した場合も同様な表示がされます。複数の画面を開いて操作しないでください。
●手順3で「実行」をクリックして画面が切り替わったあと、一定時間操作しないと「タイムアウトになりました。再度ログインしてください。」が表示されます。再度、手順3の操作をしてください。
●ユーザ管理者IDを忘れた場合は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店にお問い合せください。

設定画面の流れ

一般ユーザの設定画面の流れ

トップメニュー

Voice Mail Unit Top Menu

1. 一般ユーザ
2. ユーザ管理者

「一般ユーザ」をクリック

ボックス番号入力画面

一般ユーザ

メールボックスの番号を入力してください。

ボックス番号：

実行

トップメニューへ戻る

ボックス番号を入力

利用メニュー

一般ユーザ

ボックス番号：301

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理

ログアウト

録音メッセージダウンロード（☛P110）
録音メッセージ消去（☛P116）
個別ガイダンス管理（☛P119、P122）

ユーザ管理者の設定画面の流れ

トップメニュー

Voice Mail Unit Top Menu

1. 一般ユーザ
2. ユーザ管理者

「ユーザ管理者」をクリック

ユーザ管理者ID入力画面

ユーザ管理者IDを入力

利用メニュー

録音メッセージダウンロード（☛P113）
録音メッセージ消去（☛P117）
個別ガイダンス管理（☛P120、P124）
共用ガイダンス管理（☛P126、P127）
VMUリセット（☛P129）
VMUメモリフォーマット（☛P130）
ユーザ管理者ID変更（☛P131）

録音メッセージを管理するには

録音メッセージをパソコンに保存したり、音声メールに保存されている録音メッセージを消去することができます。
この操作は、一般ユーザの利用者メニュー、ユーザ管理者の利用者メニューのどちらから行うこともできます。

録音メッセージをパソコンに保存する（一般ユーザ）

メールボックスに保存されている録音メッセージをパソコンにダウンロードしてwaveファイル形式で保存します。コメントがある場合は、コメントも一緒にダウンロードします。

1 **利用メニューで「録音メッセージダウンロード」をクリックします。**

2 **再生用暗証番号を入力し、「実行」をクリックします。**

一般ユーザ
ボックス番号:302
ログアウト
再生用暗証番号を入力してください。
再生用暗証番号: ••••
実行

3 **録音メッセージを検索します。**

録音日、録音日時、発番号、ネームを指定して検索することができます。
「検索」をクリックすると、該当する録音メッセージの一覧が表示されます。

ワンポイント

●**もう一度すべてのメッセージを表示するには**
手順3で「検索」をクリックしたあとに、再びすべてのメッセージを表示するには「利用メニューへ戻る」をクリックして、手順1から行ってください。

4 ダウンロードする録音メッセージをチェックをして、「ダウンロード」をクリックします。

すべてダウンロードする場合は、「全て選択」をクリックします。
選択をすべて解除する場合は、「全ての選択を解除」をクリックします。

5 「保存」をクリックします。

6 ファイル名を確認し、「保存」をクリックします。

ファイル名を変更する場合は、新しいファイル名を入力し直します。

（次ページにつづく）

録音メッセージを管理するには

ダウンロードの完了を確認し、「閉じる」をクリックします。

ワンポイント

●**コメントのない録音メッセージを1件ダウンロードした場合のファイル名**
初期設定では下記のようなファイル名で保存されます。
YYMMDDhhmmssは年、月、日、時、分、秒を表します。
　　ボックス番号_YYMMDDhhmmss_n_zzzzzz.wav

●**複数の録音メッセージやコメント付きの録音メッセージをダウンロードした場合のファイル名**
複数の録音メッセージやコメント付きのメッセージはzipファイルで1つにまとめられて保存されます。
初期設定では下記のようなファイル名で保存されます。
　vmu_voice_mail.zip
ダウンロードされたファイル「vmu_voice_mail.zip」をパソコンで解凍することにより、各録音メッセージごとのファイルが作成されます。
解凍されたファイルは下記のようなファイル名となります。
YYMMDDhhmmssは年、月、日、時、分、秒を表します。
　　ボックス番号_YYMMDDhhmmss_n_zzzzzz.wav
　　ボックス番号_YYMMDDhhmmss_n_zzzzzz_comment.wav

●**録音メッセージをダウンロードした場合のファイルサイズ**
録音メッセージをダウンロードした場合、2分の録音で約1Mbyteサイズのファイルとなります。 お使いのパソコンのハードディスクなどの空き容量にご注意してお使いください。

●**ダウンロードしたwaveファイルのファイル形式について**
ダウンロードしたwaveファイルはRIFF形式、waveフォーマット、μ-Lawで保存されます。Windows Media Playerなどで再生することができます。

●**複数の録音メッセージをダウンロードする場合には**
複数の録音メッセージをダウンロードする場合、約10Mbyte以上のzipファイルをダウンロードすることはできません。その場合、メッセージを1件ずつダウンロードしてください。

●**コメント付きの録音メッセージをダウンロードする場合には**
コメント付きの録音メッセージが約10Mbyteを超えていた場合、ダウンロードしてもメッセージのコメント部分はダウンロードできません。

お知らせ

●コメントをダウンロードする／しないを選択することはできません。
●複数の録音メッセージやコメント付きの録音メッセージをダウンロードした場合、zipファイルで保存されますが、圧縮はされません。
●zipファイルで保存するかwaveファイルで保存するかを、選択することはできません。

録音メッセージをパソコンに保存する（ユーザ管理者）

メールボックスに保存されている録音メッセージをパソコンにダウンロードしてwaveファイル形式で保存します。コメントがある場合は、コメントも一緒にダウンロードします。

1 **利用メニューで「録音メッセージダウンロード」をクリックします。**

ユーザ管理者

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理
4. 共用ガイダンス管理
5. VMUリセット
6. VMUメモリフォーマット
7. ユーザ管理者ID変更

ログアウト

2 **メールボックスの番号を入力し、「実行」をクリックします。**

ユーザ管理者

録音メッセージダウンロード　ログアウト

メールボックスの番号を入力してください。

ボックス番号:

実行

利用メニューへ戻る

3 **録音メッセージを検索します。**

録音日、録音日時、発番号、ネームを指定して検索することができます。
「検索」をクリックすると、該当する録音メッセージの一覧が表示されます。

録音メッセージダウンロード

ボックス番号:302

（次ページにつづく）

ワンポイント

●**もう一度すべてのメッセージを表示するには**
手順3で「検索」をクリックしたあとに、再びすべてのメッセージを表示するには「利用メニューへ戻る」をクリックして、手順1から行ってください。

録音メッセージを管理するには

4 ダウンロードする録音メッセージをチェックをして、「ダウンロード」をクリックします。

すべてダウンロードする場合は、「全て選択」をクリックします。
選択をすべて解除する場合は、「全ての選択を解除」をクリックします。

5 「保存」をクリックします。

6 ファイル名を確認し、「保存」をクリックします。

ファイル名を変更する場合は、新しいファイル名を入力し直します。

7 ダウンロードの完了を確認し、「閉じる」をクリックします。

ワンポイント

●コメントのない録音メッセージを1件ダウンロードした場合のファイル名

初期設定では下記のようなファイル名で保存されます。
YYMMDDhhmmssは年、月、日、時、分、秒を表します。
　ボックス番号_YYMMDDhhmmss_n_zzzzzz.wav

●複数の録音メッセージやコメント付きの録音メッセージをダウンロードした場合のファイル名

複数の録音メッセージやコメント付きのメッセージはzipファイルで1つにまとめられて保存されます。
初期設定では下記のようなファイル名で保存されます。
　vmu_voice_mail.zip
ダウンロードされたファイル「vmu_voice_mail.zip」をパソコンで解凍することにより、各録音メッセージごとのファイルが作成されます。
解凍されたファイルは下記のようなファイル名となります。
YYMMDDhhmmssは年、月、日、時、分、秒を表します。
　ボックス番号_YYMMDDhhmmss_n_zzzzzz.wav
　ボックス番号_YYMMDDhhmmss_n_zzzzzz_comment.wav

●録音メッセージをダウンロードした場合のファイルサイズ

録音メッセージをダウンロードした場合、2分の録音で約1Mbyteサイズのファイルとなります。 お使いのパソコンのハードディスクなどの空き容量にご注意してお使いください。

●ダウンロードしたwaveファイルのファイル形式について

ダウンロードしたwaveファイルはRIFF形式、waveフォーマット、μ-Lawで保存されます。Windows Media Playerなどで再生することができます。

●複数の録音メッセージをダウンロードする場合には

複数の録音メッセージをダウンロードする場合、約10Mbyte以上のzipファイルをダウンロードすることはできません。その場合、メッセージを1件ずつダウンロードしてください。

●コメント付きの録音メッセージをダウンロードする場合には

コメント付きの録音メッセージが約10Mbyteを超えていた場合、ダウンロードしてもメッセージのコメント部分はダウンロードできません。

お知らせ

●コメントをダウンロードする／しないを選択することはできません。
●複数の録音メッセージやコメント付きの録音メッセージをダウンロードした場合、zipファイルで保存されますが、圧縮はされません。
●zipファイルで保存するかwaveファイルで保存するかを、選択することはできません。

録音メッセージを管理するには

録音メッセージを消去する（一般ユーザ）

音声メールに保存されている録音メッセージを消去します。

1 **利用メニューで「録音メッセージ消去」をクリックします。**

一般ユーザ

ボックス番号:301

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理

ログアウト

2 **録音消去用暗証番号を入力し、「実行」をクリックします。**

3 **録音メッセージを検索します。**

録音日、録音日時、発番号、ネームを指定して検索することができます。
「検索」をクリックすると、該当する録音メッセージの一覧が表示されます。

4 **消去する録音メッセージをチェックして、「消去」をクリックします。**

すべて消去する場合は、「全て選択」をクリックします。
選択をすべて解除する場合は、「全ての選択を解除」をクリックします。

録音メッセージの消去が終了すると、「録音メッセージを消去しました。」と表示されます。

ワンポイント

●**もう一度すべてのメッセージを表示するには**
手順3で「検索」をクリックしたあとに、再びすべてのメッセージを表示するには「利用メニューへ戻る」をクリックして、手順1から行ってください。

お知らせ

- ●再生中のメッセージを消去しようとすると、「選択されたメッセージの消去ができませんでした。」が表示され、消去することはできません。再生が終わってから消去してください。
- ●バックアップしたメッセージも、バックアップしていないメッセージと同様に消去されます。

録音メッセージを消去する（ユーザ管理者）

音声メールに保存されている録音メッセージを消去します。

1 **利用メニューで「録音メッセージ消去」をクリックします。**

2 **メールボックスの番号を入力し、「実行」をクリックします。**

ユーザ管理者
録音メッセージ消去　ログアウト
メールボックスの番号を入力してください。
ボックス番号：
実行
利用メニューへ戻る

（次ページにつづく）

録音メッセージを管理するには

3 録音メッセージを検索します。

録音日、録音日時、発番号、ネームを指定して検索することができます。
「検索」をクリックすると、該当する録音メッセージの一覧が表示されます。

4 消去する録音メッセージをチェックして、「消去」をクリックします。

すべて消去する場合は、「全て選択」をクリックします。
選択をすべて解除する場合は、「全ての選択を解除」をクリックします。

録音メッセージ消去

ボックス番号:302

No.	録音日時	既/未再	発番号	ネーム	コメント
01	2007/04/19 15:34:44	既	103	103	
02	2007/04/19 15:38:40	既	103	103	
03	2007/04/19 15:40:48	既	103	103	
04	2007/04/19 21:37:39	既	103	103	
05	2007/04/19 22:25:20	既	103	103	

利用メニューへ戻る

録音メッセージの消去が終了すると、「録音メッセージを消去しました。」と表示されます。

ワンポイント

●もう一度すべてのメッセージを表示するには
手順3で「検索」をクリックしたあとに、再びすべてのメッセージを表示するには「利用メニューへ戻る」をクリックして、手順1から行ってください。

お知らせ

●再生中のメッセージを消去しようとすると、「選択されたメッセージの消去ができませんでした。」が表示され、消去することはできません。再生が終わってから消去してください。
● バックアップしたメッセージも、バックアップしていないメッセージと同様に消去されます。

個別ガイダンスを管理するには

パソコンから個別ガイダンスをメールボックスにアップロードしたり、メールボックスに保存されている個別ガイダンスをパソコンへダウンロードすることができます。
この操作は、一般ユーザの利用者メニュー、ユーザ管理者の利用者メニューのどちらから行うこともできます。

個別ガイダンスをアップロードする（一般ユーザ）

パソコンで作成した個別ガイダンスのwaveファイルを、メールボックスへアップロードします。

1 **利用メニューで「個別ガイダンス管理」をクリックします。**

2 **「参照」をクリックし、アップロードするファイルを指定します。**

3 **「アップロード」の「実行」をクリックします。**

個別ガイダンス管理
ボックス番号:302
ログアウト
アップロード
ファイル指定: 参照...
実行

アップロードが完了すると、「該当ガイダンスを登録しました。」と表示されます。

お知らせ

- ●アップロード可能なファイル形式はRIFF形式のファイルでwaveフォーマット、μ-Lawのみとなります。違う形式のファイルをアップロードすると「アップロードしたファイルはVMUで使用できない形式です。」が表示され、アップロードできません。
- ●ファイルサイズが2048Kbyteを超えるファイルをアップロードしようとすると、「ファイルが大きすぎます。」と表示され、アップロードできません。
- ● 個別ガイダンス管理画面でのダウンロードの表示は、ボックスに個別ガイダンスが登録されている場合にのみ表示されます。個別ガイダンスが登録されていない場合は表示されません。
- ● アップロードした場合にVMUメモリに空きがなくなると、「一時保存ファイルの書き込みに失敗しました。」または「一時保存ファイルの作成に失敗しました。」と表示されます。不要な録音メッセージを消去してから行ってください。

個別ガイダンスを管理するには

個別ガイダンスをアップロードする（ユーザ管理者）

パソコンで作成した個別ガイダンスのwaveファイルを、メールボックスへアップロードします。

1 **利用メニューで「個別ガイダンス管理」をクリックします。**

2 **メールボックスの番号を入力し、「実行」をクリックします。**

3 **「参照」をクリックし、アップロードするファイルを指定します。**

4 **「アップロード」の「実行」をクリックします。**

アップロードが完了すると、「該当ガイダンスを登録しました。」と表示されます。

お知らせ

●アップロードした場合にVMUメモリに空きがなくなると、「一時保存ファイルの書き込みに失敗しました。」または「一時保存ファイルの作成に失敗しました。」と表示されます。不要な録音メッセージを消去してから行ってください。
●ファイルサイズが2048Kbyteを超えるファイルをアップロードしようとすると、「ファイルが大きすぎます。」と表示され、アップロードできません。
●個別ガイダンス管理画面でのダウンロードの表示は、ボックスに個別ガイダンスが登録されている場合にのみ表示されます。個別ガイダンスが登録されていない場合は表示されません。
●アップロード可能なファイル形式はRIFF形式のファイルでwaveフォーマット、μ-Lawのみとなります。違う形式のファイルをアップロードすると「アップロードしたファイルはVMUで使用できない形式です。」が表示され、アップロードできません。

個別ガイダンスを管理するには

個別ガイダンスをダウンロードする（一般ユーザ）

メールボックスに保存されている個別ガイダンスをwaveファイルとしてダウンロードします。

1 **利用メニューで「個別ガイダンス管理」をクリックします。**

2 **「ダウンロード」の「実行」をクリックします。**

3 **「保存」をクリックします。**

4 **ファイル名を確認し、「保存」をクリックします。**

ファイル名を変更する場合は、新しいファイル名を入力し直します。

5 **ダウンロードの完了を確認し、「閉じる」をクリックします。**

ワンポイント

●**ダウンロードするときのファイル名**

初期設定では、下記のようなファイル名になります。「xxx」にはボックス番号が入ります。

guidance_xxx.wav

●**個別ガイダンスをダウンロードした場合のファイルサイズ**

個別ガイダンスをダウンロードした場合、2分の録音で約1Mbyteサイズのファイルとなります。お使いのパソコンのハードディスクなどの空き容量にご注意してお使いください。

●**ダウンロードしたwaveファイルのファイル形式について**

ダウンロードしたwaveファイルはRIFF形式、waveフォーマット、μ-Lawで保存されます。Windows Media Playerなどで再生することができます。

お知らせ

●個別ガイダンス管理画面でのダウンロードの表示は、ボックスに個別ガイダンスが登録されている場合にのみ表示されます。個別ガイダンスが登録されていない場合は表示されません。

個別ガイダンスを管理するには

個別ガイダンスをダウンロードする（ユーザ管理者）

メールボックスに保存されている個別ガイダンスをwaveファイルとしてダウンロードします。

1 **利用メニューで「個別ガイダンス管理」をクリックします。**

2 **メールボックスの番号を入力し、「実行」をクリックします。**

ユーザ管理者

個別ガイダンス管理　ログアウト

メールボックスの番号を入力してください。

ボックス番号:

実行

3 **「ダウンロード」の「実行」をクリックします。**

個別ガイダンス管理

ボックス番号:302　ログアウト

アップロード

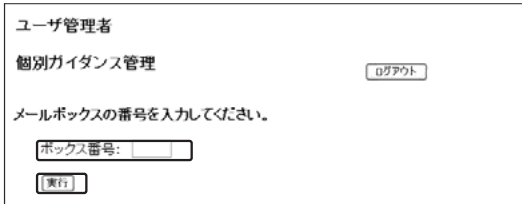
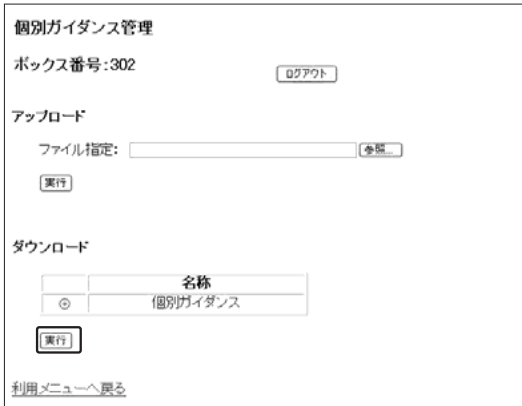
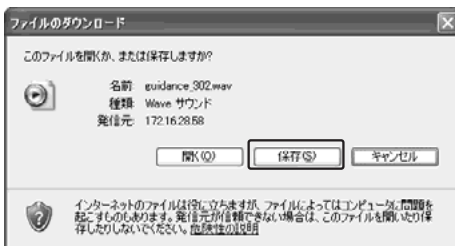
ファイル指定:　参照...

実行

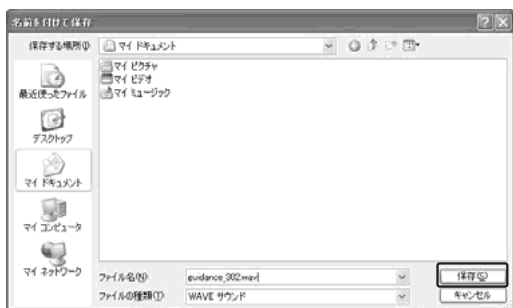
ダウンロード

	名称
⊙	個別ガイダンス

実行

利用メニューへ戻る

4 **「保存」をクリックします。**

5 ファイル名を確認し、「保存」をクリックします。

ファイル名を変更する場合は、新しいファイル名を入力し直します。

6 ダウンロードの完了を確認し、「閉じる」をクリックします。

ワンポイント

●ダウンロードするときのファイル名

初期設定では、下記のようなファイル名になります。「xxx」にはボックス番号が入ります。

guidance_xxx.wav

●個別ガイダンスをダウンロードした場合のファイルサイズ

個別ガイダンスをダウンロードした場合、2分の録音で約1Mbyteサイズのファイルとなります。お使いのパソコンのハードディスクなどの空き容量にご注意してお使いください。

●ダウンロードしたwaveファイルのファイル形式について

ダウンロードしたwaveファイルはRIFF形式、waveフォーマット、μ-Lawで保存されます。Windows Media Playerなどで再生することができます。

お知らせ

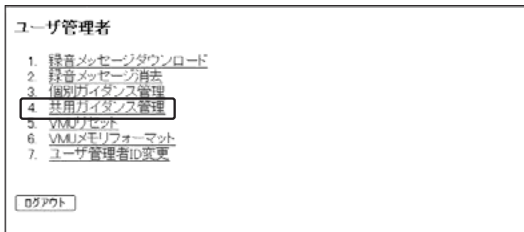
●個別ガイダンス管理画面でのダウンロードの表示は、ボックスに個別ガイダンスが登録されている場合にのみ表示されます。個別ガイダンスが登録されていない場合は表示されません。

共用ガイダンスを管理するには

パソコンから共用ガイダンスを音声メールにアップロードしたり、音声メールに登録されている共用ガイダンスをパソコンへダウンロードすることができます。管理対象となるガイダンス番号は11～99です。この操作は、ユーザ管理者のみ行うことができます。

共用ガイダンスをアップロードする

パソコンで作成した共用ガイダンスのwaveファイルを、音声メールへアップロードします。

1 利用メニューで「共用ガイダンス管理」をクリックします。

2 ガイダンス番号を選択します。

3 「参照」をクリックし、アップロードするファイルを指定します。

4 「アップロード」の「実行」をクリックします。

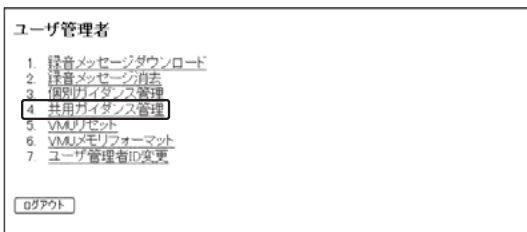
アップロードが完了すると、「該当ガイダンスを登録しました。」と表示されます。

お知らせ

- アップロード可能なファイル形式はRIFF形式のファイルでwaveフォーマット、μ-Lawのみとなります。違う形式のファイルをアップロードすると「アップロードしたファイルはVMUで使用できない形式です。」が表示され、アップロードできません。
- ファイルサイズが2048Kbyteを超えるファイルをアップロードしようとすると、「ファイルが大きすぎます。」と表示され、アップロードできません。
- アップロードした場合にVMUメモリに空きがなくなると、「一時保存ファイルの書き込みに失敗しました。」または「一時保存ファイルの作成に失敗しました。」と表示されます。不要な録音メッセージを消去してから行ってください。
- 共用ガイダンス管理画面でのダウンロードの表示は、共用ガイダンスが登録されている場合にのみ表示されます。共用ガイダンスが登録されていない場合は表示されません。

共用ガイダンスをダウンロードする

音声メールに登録されている共用ガイダンスをwaveファイルとしてダウンロードします。

1 **利用メニューで「共用ガイダンス管理」をクリックします。**

2 **ダウンロードするファイルをクリックし、「ダウンロード」の「実行」をクリックします。**

共用ガイダンス管理　ログアウト
アップロード
ガイダンス番号 : 11
ファイル指定 : 参照
実行
ダウンロード

	名称
◉	共用ガイダンス 11
○	共用ガイダンス 12
○	共用ガイダンス 13
○	共用ガイダンス 14
○	共用ガイダンス 15
○	共用ガイダンス 16
○	共用ガイダンス 17

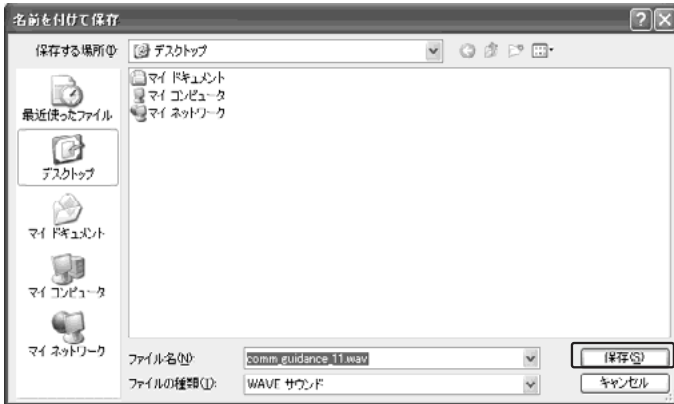
実行
利用メニューへ戻る

3 **「保存」をクリックします。**

（次ページにつづく）

共用ガイダンスを管理するには

4 **ファイル名を確認し、「保存」をクリックします。**

ファイル名を変更する場合は、新しいファイル名を入力し直します。

5 **ダウンロードの完了を確認し、「閉じる」をクリックします。**

ワンポイント

●ダウンロードするときのファイル名

初期設定では、下記のようなファイル名になります。「xx」にはガイダンス番号が入ります。

comm._guidance_xx.wav

お知らせ

●ガイダンス番号01…10の共用ガイダンスはダウンロードできません。

●共用ガイダンス管理画面でのダウンロードの表示は、共用ガイダンスが登録されている場合にのみ表示されます。共用ガイダンスが登録されていない場合は表示されません。

パソコンから音声メール機能をリセットするには

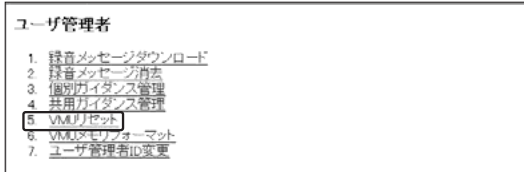
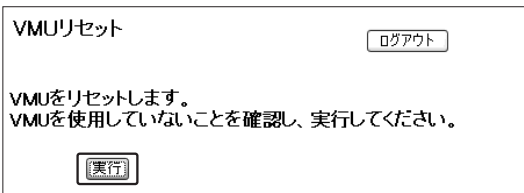
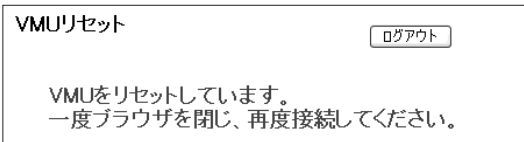
パソコンから音声メール機能をリセットすることができます。リセットを行う前に、音声メール機能を使用していないことを確認してください。
この操作は、ユーザ管理者のみ行うことができます。

1 **利用メニューで「VMUリセット」をクリックします。**

2 **「実行」をクリックします。**

3 **「OK」をクリックします。**

VMUリセット　ログアウト

VMUをリセットしています。
一度ブラウザを閉じ、再度接続してください。

ワンポイント

●VMUリセットを行った場合には
VMUリセットを行った場合には、一度ブラウザを閉じてから再びブラウザを起動して、音声メール機能に接続してください。

お知らせ

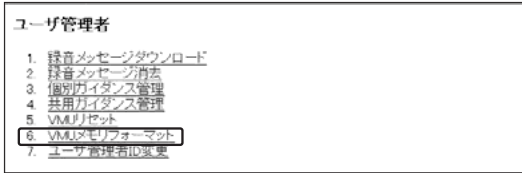
●VMUを使用中の状態でVMUリセットを実行すると「VMUサービスが使用されているため、リセットを実行できませんでした。」が表示され、リセットすることはできません。

パソコンからVMUメモリをフォーマットするには

パソコンから音声メールのメモリをフォーマットすることができます。
この操作は、ユーザ管理者のみ行うことができます。

1 利用メニューで「VMUメモリフォーマット」をクリックします。

ユーザ管理者

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理
4. 共用ガイダンス管理
5. VMUリセット
6. VMUメモリフォーマット
7. ユーザ管理者ID変更

2 「実行」をクリックします。

3 「OK」をクリックします。

お知らせ

- フォーマットに要する時間は、約40秒です。
- VMUを使用中の状態でVMUフォーマットを実行すると、「VMUサービスが使用されているため、メモリフォーマットを実行できませんでした。」が表示され、メモリフォーマットをすることはできません。
- ご利用の状況によっては、音声メールの録音メッセージが壊れて電話機やパソコンから正常にご利用できなくなる可能性があります。フォーマットについては、電話機やパソコンから音声メールを正常にご利用できなくなった場合のみ行ってください。
  またフォーマットを行った場合、VMUリセット（☛P129）を行ってください。
- Webブラウザのポップアップブロックの設定が有効の場合は、フォーマットを実行中のウィンドウが表示されません。あらかじめWebブラウザのポップアップブロックの設定で「10.0.0.6（初期値）」のサイトのポップアップを許可しておいてください。
- フォーマットを行うと録音メッセージやガイダンスはすべて消去されます。重要な録音メッセージやガイダンスはすべてパソコンに保存してからフォーマットしてください。VMUをフォーマットした場合、点灯中のボックスランプは点灯のままとなります。そのボックスをクリックしてメールを再生すると「メールがありません。」のガイダンスが再生されます。再生を終了するとボックスランプの点灯は消えます。

ユーザ管理者IDを変更するには

パソコンからユーザ管理者IDを変更することができます。
この操作は、ユーザ管理者のみ行うことができます。

1 利用メニューで「ユーザ管理者ID変更」をクリックします。

ユーザ管理者

1. 録音メッセージダウンロード
2. 録音メッセージ消去
3. 個別ガイダンス管理
4. 共用ガイダンス管理
5. VMUリセット
6. VMUメモリフォーマット
7. ユーザ管理者ID変更

ログアウト

2 現在のユーザ管理者IDを入力します。

ユーザ管理者ID変更　ログアウト

現在のユーザ管理者IDを入力し、変更後のIDを2回入力してください。

古いユーザ管理者ID　：　●●●●●
新しいユーザ管理者ID　：
新しいユーザ管理者IDの確認入力　：
書込

利用メニューへ戻る

3 新しいユーザ管理者IDを入力します。

ユーザ管理者ID変更　ログアウト

現在のユーザ管理者IDを入力し、変更後のIDを2回入力してください。

古いユーザ管理者ID　：　●●●●●
新しいユーザ管理者ID　：　●●●●●●●●●●●●●●●●
新しいユーザ管理者IDの確認入力　：
書込

利用メニューへ戻る

4 もう一度同じユーザIDを入力します。

ユーザ管理者ID変更　ログアウト

現在のユーザ管理者IDを入力し、変更後のIDを2回入力してください。

古いユーザ管理者ID　：　●●●●●
新しいユーザ管理者ID　：　●●●●●●●●●●●●●●●●
新しいユーザ管理者IDの確認入力　：　●●●●●●●●●●●●●●●●
書込

利用メニューへ戻る

（次ページにつづく）

ユーザ管理者IDを変更するには

5 **「書込」をクリックします。**

ユーザ管理者ID変更　［ログアウト］

現在のユーザ管理者IDを入力し、変更後のIDを2回入力してください。

古いユーザ管理者ID　：　●●●●●
新しいユーザ管理者ID　：　●●●●●●●●●●●●●●●●
新しいユーザ管理者IDの確認入力　：　●●●●●●●●●●●●●●●●
［書込］

利用メニューへ戻る

お知らせ

- ユーザ管理者IDは半角英数字で16文字まで設定ができます。16文字を超えて設定することはできません。
- ユーザ管理者IDは忘れないようにご注意ください。ユーザ管理者IDを忘れるとユーザ管理者用の操作ができなくなります。ユーザ管理者IDを忘れた場合は、当社のサービス取扱所または販売店にご相談ください。

停電になったときは

・停電中（停電電話機のみ使用できるとき）は音声メールの機能は一切ご使用できません。
　また、停電中に音声メールに電話をかけた場合は呼び出しに応答しません。
・メッセージ録音中に停電になった場合、主装置がバッテリーなどにより動いている（回線がつながっている）間に録音を終了してください。録音中に主装置が停止した場合（回線が切断された場合）には、録音は保持されません。
・停電になった場合でも、それまでに録音終了していた内容などは保持されます。
　ただし、このときに音声メールのバッテリーがなくなってしまった場合には保持されません。
・停電などが発生した場合、音声メールに録音されているファイルが壊れることがあります。大切なメッセージは、その都度パソコンに保存してください。ファイルが壊れたときには、音声メールのフォーマットとリセットを行ってください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、修理を依頼される前に次の点をご確認ください。

こんなときは	原　因	確認してください	参照ページ
音声メールに電話がつながらない	主装置の電源が入っていない	主装置の電源スイッチをオンにしてください	——
	主装置の電源コードが抜けている	電源コードを正しく接続してください	——
	停電中	停電が復旧するまで使えません	☛P133
	電話回線が混み合っている	しばらく待ってからかけ直してください	——
音声メールを操作できない	ダイヤル回線の電話機を使っている	プッシュホン電話機または回転ダイヤル式電話機でトーン信号（PB）に切り替えられる電話機をお使いください	——
メールまたはコメントを録音できない	「システム設定」で設定された録音件数を超えている	不要なメールを消去してください	☛P47
	「システム設定」で設定された録音時間を超えている	「システム設定」で設定された録音時間以内で録音してください	——
	音声メール内のメールがいっぱいになっている	不要なメールを消去してください	☛P47
録音したメールが再生できない	「システム設定」で設定されたメール保存日数を過ぎている	メールは消去されています（故障ではありません） 消去したくないメールはバックアップしてください	☛P44
	録音終了前に停電した	録音中に停電すると、メッセージは保持されません 復旧してから、再度録音してください	☛P133
IVRで音声メールにつながらない	作成したシナリオに誤りがある	シナリオを確認し、正しいシナリオを入力してください	☛P67
パソコンから音声メールにつながらない	入力した音声メールのIPアドレスに誤りがある	音声メールのIPアドレスを確認し、正しいIPアドレスを入力してください	☛P104、P106
	パソコンの設定と合っていない	パソコンと音声メールのIPアドレスやサブネットマスクを正しく設定してください	☛P104、P106

索 引

アルファベット

五十音

【ア行】

【カ行】

【サ行】

索　引

仕　様

■主な仕様

同時再生・録音回線数	最大8回線（1セットあたり）
音声蓄積媒体	半導体（フラッシュメモリ）
メモリ容量	2Gbyte
録音可能時間	最大約24時間
メモリユニット搭載数	最大1枚
録音・再生ビットレート	64kbps（μ-Law用）
ボックス数	ボックス　　　：最大500（1システムあたり） 同報ボックス　：最大16（1システムあたり）
1メールあたり録音時間	最大時間を設定可能（設定可能時間：1〜30分または制限なし）
録音件数	最大255件（1ボックスあたり）

保守サービスのご案内

■保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので「保証書」は大切に保管してください。（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

※音声メールユニットに貼られている封印シールは剥がさないでください。封印シールを剥がした場合は、本保証の対象外となります。

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしております。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

●故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

●お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービス料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先： 0120-970413

※ 携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間　9：00〜21：00
※年末年始12月29日〜1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先： 0120-109217（トークニイーナ）

※ 携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
東海・北陸・近畿・中国・四国地区
06-6341-5411（通話料金がかかります）
九州地区
092-720-4862（通話料金がかかります）

受付時間　9：00〜21：00
※年末年始12月29日〜1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

●補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後、7年間保有しております。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：http://web116.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：フリーアクセス 0120-970413
※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間 9：00～21：00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：フリーダイヤル 0120-109217（トークニイーナ）
※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
東海・北陸・近畿・中国・四国地区
06-6341-5411（通話料金がかかります）
九州地区
092-720-4862（通話料金がかかります）

受付時間 9：00～21：00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

本2892-1（2007.9）
GXL-VMUトリセツ-〈2〉
4356061000 H01